

# -外国人留学生・技能実習生等実態調査-

## 結果報告書

2020年1月



# 目次

<b>調査概要</b>	2
<b>調査結果からの示唆</b>	4
調査結果からの示唆（まとめ）	5
外国人留学生の学校生活の現状と課題	6
外国人留学生の日常生活の現状と課題（1）	7
外国人留学生の日常生活の現状と課題（2）	8
留学生在籍校のサポート体制・不動産やアルバイト先の現状	9
技能実習生の就労環境の現状と課題	10
技能実習生の日常生活の現状と課題（1）	11
技能実習生の日常生活の現状と課題（2）	12
受入企業・監理団体のサポート体制の現状と課題	13
<b>結果サマリー</b>	14
在留外国人の「就業・就学」における現状	15
在留外国人の「生活面」における現状	16
受入側のサポート状況	17
公的機関・医療機関に関する課題	19
病院の利用実態	20
留学生の卒業後の希望と支援における課題	21
留学生・実習生の就労意向	22
<b>留学生に関する調査 結果詳細</b>	24
基本情報	25
学校生活・日本語学習の状況	27
日本の生活と暮らしについて	31
アルバイトの状況	35
住居について	38
トラブルや病気への対処	43
卒業後の進路について	46
地域の魅力について	53
<b>留学生在籍校に関する調査 結果詳細</b>	56
基本情報	57
在籍する留学生について	59
アルバイト状況	60
生活支援状況	61
卒業後の進路	63
<b>不動産業者に関する調査 結果詳細</b>	64
外国人留学生に対するあっせん状況と課題	65
クレーム発生状況/外国人利用者に対するサービス	66
<b>留学生アルバイト先に関する調査 結果詳細</b>	68
アルバイト先の業種/留学生アルバイトの人数と就学先	69
留学生の採用ルート/労務管理上の課題と工夫	70
留学生アルバイト雇用のメリット/正社員登用の有無	71
<b>技能実習生に関する調査 結果詳細</b>	72
基本情報	73
実習の状況	75
日本の生活と暮らし	82
住居について	86
トラブルや病気への対処	89
今後のキャリアについて	92
地域の魅力について	94
<b>受入企業に関する調査 結果詳細</b>	96
基本情報	97
実習生の労働環境	99
実習生の労働環境/失踪者の有無	102
採用意向	103
<b>監理団体に関する調査 結果詳細</b>	104
基本情報	105
受入先企業とのマッチング状況	106
送出国での活動	107
実習環境及び支援状況	108
トラブル等への対応状況	110
外国人材受入制度について	112
群馬県で働いてもらうために重要なこと	113

# 調査概要



# 調査概要

調査目的	群馬県内で就学・就労している外国人留学生及び技能実習生の生活・就労実態を調査し、県の外国人活躍施策に反映させる。	
主な調査項目	留学生	学校生活・日本語学習、生活・くらしの状況（日本での生活の困りごとなど）、アルバイト、住居（住居の探し方、住居の形態）、トラブル・病気への対処、卒業後の進路希望
	留学生在籍校	留学生在籍状況、アルバイト状況、生活支援の状況、卒業後の就職支援
	技能実習生	実習の状況、生活・くらしの状況（日本での生活の困りごとなど）、住居（住宅）、トラブル・病気への対処、今後のキャリア
	受入企業	労働環境、採用意向
	監理団体	マッチング状況、送出国との関係、支援状況、トラブルへの対応
調査手法	インタビュー調査（一部訪問留め置き調査）	
調査期間	2019年7月19日～11月29日	
調査実施機関	株式会社サーベイリサーチセンター	

## ▼ 対象と調査票回収数

	対象者	対象数	対象区分	質問量
外国人留学生関係	群馬県内の学校に在籍する外国人留学生	250	大学・大学院（私費留学生）70名 専門学校120名 日本語学校60名	48問
	群馬県内に所在する外国人留学生在籍校	15	大学7校 専門学校4校 日本語学校4校	20問
	外国人留学生と接する機会の多い不動産業者、アルバイト雇用主	10	不動産業者5社 アルバイト雇用主5社	不動産：6問 雇用主：8問
技能実習生関係	群馬県内の事業者勤務する外国人技能実習生	224	農業69名 建設13名 食品製造33名 衣服・繊維8名 機械・金属62名 介護19名 その他20名	39問
	県内に所在地を置く技能実習生の受入企業	34	農業8社 建設4社 食品製造6社 衣服・繊維3社 機械・金属7社 介護2社 その他4社	31問
	県内に所在地を置く企業に技能実習生をあっせんしている監理団体	16	農業6団体 建設4団体 食品製造6団体 機械・金属7団体 介護3団体 その他4団体（注1）	29問

注1) 監理団体は複数の業界を対象としている場合があるため、対象区分の合計数が、監理団体の対象数より大きくなっています

### 略語解説

SA	Single Answer	単一回答：選択肢の中から、1つだけ選ばせる設問
MA	Multiple Answer	複数回答：選択肢の中から、あてはまるものすべてを選ばせる設問
FA	Free Answer	自由回答：自由記述で回答させる設問

# 調査結果からの示唆



# 調査結果からの示唆(まとめ)

## ◆ 在留外国人にとって魅力ある就学・就労環境整備のために

留学生の学校に対する満足点と不満点は、学校種類別で傾向が異なる。大学では学生サポートや研究内容の満足度は高いものの、福利厚生への満足度が低く今後の課題。一方、専門学校は学習環境、日本語学校では、課外活動を含めた生活全般のサポートに関する満足度が低く、さらなる取組が求められる。日本語を使う上で、特に困難なことは、漢字の読み書きや早口・方言を聞くことで、重点的なサポートが必要な点である。

技能実習生は、実習内容や実習環境に満足している一方、日本語習得に課題がある。特に、入国後研修だけでは習得することが難しい、話すことや早口・方言を聞くことに困難を抱えている。また、受入企業や監理団体も積極的に日本語学習を支援しているものの、更なる日本語能力向上のためには、学習意欲の向上、学習時間の確保、資格取得に向けたサポートが課題となる。そのほか就労のサポートとしては、実習生の相談などに対応する社員の配置や監理団体では母国語スタッフによる支援を行っており、実習生のメンタルケアや健康管理にかかわっている。しかしながら、受入体制には企業や団体ごとに差があり、支援を十分に受けることが難しい実習生への支援やサポート体制の充実に向けた受入企業・監理団体への支援が今後の課題である。

## ◆ 在留外国人が自立した市民として活躍できる環境整備のために

日常生活では医療・健康・福祉の情報が入手困難で、特に留学生でその傾向が強く、留学生の主な相談者である学校関係者の配慮が求められる。また、情報の所在の周知徹底に合わせて、情報発信の際はふりがなをつけるとともに平易な表現で制度を理解してもらうことも必要である。生活する上での課題は、留学生は経済的なことがあげられ、学業に注力できるように経済的なサポートを実施していくことが大きな課題である。奨学金に関する支援内容は学校ごとに差があり、奨学金取得のためのサポート体制の構築が求められる。

日本人との積極的な交流意向は、留学生・実習生ともに各7割程度と高いものの現状では、学校や職場などの交流に限定されている。例えば防災訓練などの日本人と外国人の双方が、地域社会の一員として参加するイベントや交流機会の創出が期待される。

留学生は、市役所や役場以外の公的機関の認知率が2割以下、実習生に関しては市役所の相談窓口の認知率も低く3割程度と、認知度向上の取り組みが不可欠である。また、利用に関しては、言語障壁や費用負担が懸念点としてあげられており、支援が必要なときに不安なく利用できる環境づくりが求められる。

## ◆ 在留外国人が定着できる魅力ある環境整備のために

卒業後、日本で就労希望の留学生は7割、そのうち県内就労希望者は59%である。友人や知人がおり、自然や環境が良く、慣れた場所で就労したい意向がある一方で、公共交通の不便さが最も大きな不安要素である。学校側が留学生の就労意向を把握し、日本式の就職活動の指導や情報提供に加え、民間就職支援サイトの利用促進のサポートが求められる。また、企業と留学生がお互いを知りあう交流機会や留学生を採用する企業が少ない事も課題である。企業と留学生の交流機会の提供や企業で活躍する留学生の好事例収集や情報提供などの留学生を採用する意欲を高める取組が期待される。

県内の就労継続を希望する1号または2号の実習生はそれぞれ6割程度で、主な理由は労働条件や自分に合った気候である。県外の就労希望理由は、高い賃金や都会での就労で、県内就労の魅力づくりが必要である。監理団体は特定技能制度の活用に積極的で、支援活動予定や活動済みが8割程度。監理団体から企業と実習生に周知活動はしているものの、実習生の特定活動に対する理解度が低く、実習生への周知徹底には課題がある。

# 外国人留学生の学校生活の現状と課題

- ✓ 大学では学生のサポート体制と学習環境に満足している一方で、専門学校では学習環境、日本語学校では課外活動を含めた生活全般に対するサポートの満足度が低い。
- ✓ 日本語を使用する際の難しい点は、総じて漢字の読み書きや複雑な会話のやり取り、早口・方言等を聞くこと。
- ✓ 大学生では、特に複雑な会話のやり取りや早口・方言等を聞き取ることに對して、また専門学校・日本語学校の学生は、特に漢字を書くことに困難を感じている。

## ◆ 学校生活に関する満足点・不満点

満足点の分析結果では、大学では半数以上の学生が「学生のサポート体制」と「学習環境」を満足している項目と回答しており、学生生活上のサポートや学習・研究環境におおむね満足している状況がうかがえる。不満点では、「不満に感じていることはない」と回答した留学生が3割を超えた一方で、「福利厚生」を不満点と挙げている学生が2割程度と、学生として割引等を受けたいという要望があることが示唆される。（参照：P27のQ6/Q7）

専門学校では、半数以上の学生が「学生のサポート体制」を満足している項目として挙げていた一方で、「学習環境」や「研究内容・学習内容」を満足項目として挙げている学生はわずか2割程度であった。また、不満点においても、「学習環境」を回答した割合が比較的高く、学生の満足度を高めるための今後の取組としては、学習環境の充実が重要であることがうかがえる。（参照：P27のQ6/Q7）

最後に、日本語学校では「学生のサポート体制」を満足点として回答した学生は、4割程度と他の学校と比較して低く、同時に不満項目として挙げた学生は2割を超えた。また、「クラブ活動などの課題活動」や「福利厚生」を満足項目として挙げた割合も1割以下であった。上記の結果から、日本語学校については、課外活動を含めた学生生活全般において更なる取組の必要性が示唆される。（参照：P27のQ6/Q7）

## ◆ 日本語学習における現状と課題

日本語能力試験（JLPT）の資格取得者割合は、N1-1割、N2-2割、N3-4割であり、日本語を使う上で難しい点に「漢字を書くこと」（5割）、「複雑な会話をする事」や「早口・方言の聞き取り」（各4割）が挙げられた。（参照：P28のQ8/Q9）

こうした現状から次のような課題が考えられる。日本語を使う上で、最も困難な点には「漢字を書くこと」（専門学校・日本語学校5-6割、大学2割）が挙げられており、日本語の書類を作成する場面に課題があることが示唆される。「ふりがなのない文章の読解」に困難を感じている留学生も多く（専門学校・日本語学校4割、大学2割）、文章を理解してもらう上で、ひらがなをふることや平易な言葉を使用する必要性が示唆される。また、学校種別にみれば、大学ではN1またはN2の取得者が7割と高いが、日本語の難しい点には「早口・方言の聞き取り」（6割）、「複雑な会話をする事」（5割）が挙げられた。一方、専門学校・日本語学校ではN3以下の資格取得者が6～7割であり、読む、話す、書く、聞くのいずれの場面でも困難を感じている。国籍別に見ると、中国人留学生の7割以上が、N1またはN2を取得しており、他国の留学生の割合（1～2割）を大きく上回る。この背景には、中国からの留学生は漢字圏出身であることが考えられる。（参照：P28のQ8/Q9）



# 外国人留学生の日常生活の現状と課題(1)

- ✓ 約7割の留学生が日本人と積極的な交流意向がある一方で、現状は学校やアルバイト先など日常的な交流に限定されており、交流機会の設定や参加の促進が課題。
- ✓ 入手困難な情報は「医療・健康・福祉」と「就職」に関する情報で、情報の所在を理解してもらうことと同時に、言語に関する配慮と制度の分かりやすい説明が必要。
- ✓ 生活する上での主な課題は、経済的事情と健康に関することで、留学生への経済的支援や健康相談ができる仕組みづくりも重要。
- ✓ 日本での生活で受け入れられないことに、外国人であることによる差別・偏見や交通の不便さがあげられており今後の課題。

## ◆ 日本人との交流状況と課題

日本人との交流状況に関して、積極的に交流したいと考えている留学生が約7割程度。しかしながら、現状は学校やアルバイト先での交流や挨拶など日常的な交流は5～8割程度で高いものの、積極的な交流と考えられる日本人との私的な交流と地域活動への参加を合わせても3～4割程度に留まっている。また、学校別でみると、日本語能力に課題のある日本語学校の留学生が積極的に交流したい割合が高いことも示唆され、どのように交流を深めていくかが、今後の課題である。（参照：P31のQ11/Q12）

## ◆ 生活関連で入手困難な情報

生活関連で入手困難な情報は、「医療・健康・福祉」と「就職」に関することである。国籍別にみると、インドネシア、ベトナムでは「医療・健康・福祉」が5割を超え、特に高い。インドネシアでは59%の学生は「就職」に関する情報入手が困難で、他国を大きく上回る。本調査対象のインドネシア人留学生の7割が日本語学校に所属し、約4割は日本語能力の資格を取得しておらず、日本語能力が情報入手を困難にしている一因であることがうかがえる。（参照：P25のQ3、P28のQ8、P32のQ13）

また、学校別でみると、比較的日本語能力の高い大学生でも4割は、「医療・健康・福祉」の情報が入手困難と回答している。この結果から、情報の所在の周知徹底、日本の医療制度に関する説明の工夫、専門用語の排除など留学生に配慮した形の情報提供の工夫が必要であることが示唆される。（参照：P28のQ8、P32のQ13）

## ◆ 日本で生活する上での課題

留学生が日本で生活する上で困っていることは、金銭や病気に関することである。特に、インドネシア、ベトナムでは、5割弱の学生が金銭に関して困っていると回答している。アルバイトの経験のあるインドネシア・ベトナム人留学生の働く理由を確認したところ、学費又は生活費のために働く割合がインドネシアでは9割、ベトナムでは8割である。本調査の対象留学生のうち9割が奨学金をもらっていない現状を踏まえると、生活費や学費に関して困難を抱えていることがうかがえる。次いで「病気・ケガに関すること」が22%。インドネシアでは「近所の人との人間関係」「宗教・信仰に関すること」がともに4割を超え、上位にあがる。日本で生活する上で健康面や宗教・信仰に関することが課題となっていることがうかがえる。（参照：P29のQ10-1、P34のQ15、P36のQ17-3）

日本で生活する上で受け入れられないことは、「外国人であるため差別・偏見を持たれる」「交通」が各2割台で上位。留学生が日本人と接する場面での経験や公共交通機関が不便なことが一因であることがうかがえる。（参照：P34のQ16）



## 外国人留学生の日常生活の現状と課題(2)

- ✓ 病院を受診した経験のある留学生は6割。病院未受診者の中で、経済事情や言語障壁により、それぞれ約1割程度の学生が受診を控えていた。
- ✓ 市役所や町村役場の認知率は8割を超えているが、医療通訳ボランティアを含む公的機関は2割以下で、利用促進のためには認知率向上の取組が必要。
- ✓ 公的・医療機関の利用時の不安要素は費用負担と言語障壁で、必要な時に不安なく利用できる環境整備に課題。
- ✓ 卒業後、日本で就労希望のある留学生は7割、そのうち県内就労希望者は59%で、友人がいる慣れた環境で就労意向がある一方で、公共交通の不便さが不安要素。
- ✓ 留学生の主な就職活動時の課題は、「日本式の就職活動が分からない」や「群馬県にどんな企業があるか分からない」等、就職活動や企業の情報が不足していること。

### ◆ 医療・公的機関の認知や利用状況

病院の受診経験に関して、国籍や学校別に受診率に差があるものの、半数以上の留学生が日本で病院を受診した経験があった。主な受診先は病院で、2割程度の学生は学校の保健室・医務室を利用していた。受診をしなかった主な理由は、病気やケガをしたことがないことや薬を購入したことが挙げられる。また、経済事情や言語障壁を理由にそれぞれ1割程度の留学生が受診を控えていた。医療通訳ボランティアの認知率が低く7%程度であり、医療通訳ボランティアが有効に活用されていないことがうかがえる。(参照：P44のQ30-1/Q30-2、P45のQ30-3/Q31)

公的機関の認知率は、市役所や町村役場は高く8割を超えるものの、それ以外の機関は2割以下であった。また、公的機関を利用する際の不安として、言葉の不安や経済事情をあげる留学生が3割を超えた。特に日本語学校生に関しては、費用が不安要素のトップにきており、日本語能力の有無にかかわらず情報を提供する仕組みづくりが期待される。(参照：P43のQ29、P45のQ31)

### ◆ 留学生の就職活動の現状や意向

卒業後の予定では、日本で就職を希望する留学生が7割、2割程度は日本で進学や起業を希望しており、約9割の留学生は継続して日本で生活したいという意向がある。主な希望職種は翻訳・通訳が3割、海外業務が2割程度で、語学力を活かした業務や海外と関係のある業務への関心が高い。就職活動で主に不安な点は、「日本式の就職活動が分からない」や「群馬県にどんな企業があるか分からない」等、就職活動や企業の情報が不足している状況がうかがえる。特に半数の大学生は、「就職活動の方法が分からない」と回答している。就職活動に関する主な相談窓口は、学校のキャリアセンターで7割の学生が活用しているが、民間の就職支援サイトや公的機関は3割以下にとどまる。就職先選びでは給料・福利厚生などの待遇への重視度が高く7割を超える。その他は専門性や企業の将来性などが重視されている。就職で心配な点は、主に自身の日本語能力や待遇面である。(参照：P46のQ32/Q33、P47のQ35、P48のQ36、P49のQ38、P50のQ40)

日本で就労したい留学生のうち59%は群馬で就労したいと考えており、主な希望理由は、友人・知人がいることや自然や環境が良いことを挙げている。日本で生活の基礎を築き、慣れた環境で引き続き居住したい意志がうかがえる。一方で、群馬での就労希望者の6割以上が、群馬県で就労する際の不安要素を公共交通の不便さと回答している。群馬県で就労を希望しない留学生の理由も交通の不便さであることを踏まえると、定着を目指す上で、交通の不便さの解消が大きな課題と考えられる。また、交通に加えて、希望する職種や企業が少ないことも県内で就労しない理由の一つである。(参照：P50のQ41、P51のQ42-1/Q42-2、P52のQ43-1)

# 留学生在籍校のサポート体制・不動産やアルバイト先の現状

- ✓ 留学生在籍校の留学生に対する主なサポートは、居住関連の支援や日本人学生との交流促進、アルバイトの紹介といった日本で生活を始めるための説明等。
- ✓ 奨学金に関するサポート体制は学校により差があり、情報提供や援助方法に課題
- ✓ 留学生の受入課題は、入学前の学力、修学の継続、卒業後のサポートなど多岐にわたる。
- ✓ 日本における就職支援時の課題は、企業と留学生の交流機会や留学生を採用する企業が少ない事で、交流機会の提供や留学生を採用する意欲を高める取組が期待される。

## ◆ 留学生在籍校のサポート体制

受入れ校の留学生に対する主なサポート内容は、住居や日本人学生との交流機会の提供、アルバイトの紹介などである。加えて、生活ルールの説明、近隣の公共・医療機関の紹介、銀行口座開設の手続き援助など、日本で生活を始めるための説明に力を入れていることがうかがえる。留学生からの主な相談内容は在留資格、就職、アルバイト、住居に関することが挙げられている。その他、健康・病気、ことばの問題、研究内容など相談内容は多岐にわたっている。不動産関係者やアルバイト先からの留学生に関する相談も受けており、学校生活以外の日常生活に関することも学校が対応していることがうかがえる。（参照：P61のQ12/Q13、P62のQ14/Q15）

奨学金の情報提供や手続き援助は、サポート体制が学校によって異なり、中には情報提供をしていないという学校もあった。アルバイトと学業の両立に関して、学校側が把握している限り、一時的に学業に支障をきたす学生も存在しており、学業に集中できるように経済的支援が課題である。（参照：P59のQ7、P60のQ11）

今後の留学生の受入は維持・増加の傾向である。受入の課題は、留学希望者の学力水準の向上、卒業後の就労や修学継続の支援で、入学前から卒業後まで多岐にわたる。特に就労支援に関しては、留学生と企業の出会いの場が少ないことや留学生を採用する企業が少ないといったことが課題。今後、県内に定着してもらうためには、企業と留学生の交流機会の提供や企業で活躍する留学生の好事例収集や情報提供などの留学生を採用する意欲を高める取組が期待される。一方、学校側が留学生の就労意向を把握していない状況もうかがえ、留学生と学校のコミュニケーションも積極的に実施していく必要がある。（参照：P58のQ4/Q5、P63のQ17）

## ◆ 不動産関係者

不動産関係者の留学生へのあっせん課題は、外国人を受け入れる物件が少ない、生活ルールに関するトラブル、家賃滞納である。不動産関係者は、外国人留学生に対するクレームを受けており、外国人向け物件の取り扱いが増加傾向とはいええない。留学生受入を継続・増加していくために、生活ルールに関してどのように理解し実践してもらうかが今後の取組課題である。（参照：P65のQ2/Q3、P66のQ5）

## ◆ アルバイト先

留学生のアルバイト先では、留学生の労働時間に制限があることが労務管理上の主な課題である。その他雇用する際の工夫は、留学生向けの丁寧な説明、母国語のマニュアル、シフト調整である。アルバイトの採用は、留学生のネットワークを利用している。留学生を雇用するメリットを感じている雇用主が多く、外国人への対応や語学力を活かした仕事に期待していることがうかがえる。（参照：P70のQ4/Q5/Q6、P71のQ7）

# 技能実習生の就労環境の現状と課題

- ✓ 実習内容や実習環境に満足している一方、日本語で話すことや早口・方言の聞き取りが困難な状況。こうした能力を入国後研修の座学を中心とした日本語学習だけでは習得することが難しいことが課題。
- ✓ 日本語の主な学習は職場でのやり取りにとどまり、教材を利用した学習は4～5割程度、日本語教室に通っているのは2割程度で、学習機会や時間の確保に課題。
- ✓ 日常会話が難しいが業務上のやり取りに問題がない実習生が7割程度と、業務における最低限の日本語習得に留まっており、さらなる日本語能力の向上に課題。

## ◆ 実習先での満足点・困りごと

技能実習生の実習先に対する満足点は、習得できる内容・知識、日本語学習の機会、職場の環境など、日本での実習内容や実習環境に満足している回答が多い。また、実習先での困りごとに関しては、4割の実習生が困っていることはないと回答している。一方で、「日本語がわからない」との回答が3割程度みられる。（参照：P78のQ10/Q11）

## ◆ 日本語学習における現状と課題

実習生が取り組んでいる日本語の学習は、職場でのやり取りが最も多く7割弱。次いで自分で購入した日本語教材を使用して学習している実習生は4割程度。社内や社外の日本語教室に通っているのは2割程度と低く、日本語学習の時間を確保していない実習生が多いことがうかがえる。日本語によるコミュニケーションの現状は、「日常会話は難しいが職場のやり取りで問題を感じることはない」が7割を超えている。この結果から、職場で使用される日本語の習得や職場での工夫により、業務のやり取りには問題がないと感じている実習生が多いことが示唆される。（参照：P79のQ12/Q13）

一方、日本語能力の資格に関しては、半数以上の実習生が取得しておらず、2割弱の実習生は取得の意向もない。取得率が高いのはN3の9%、N1も4%程度おり、日本語能力の個人差が大きいことがうかがえる。また、日本語を使う上で特に話すことと聞くことに困難を感じている実習生が多く、とくに早口や方言の聞き取りが難しいと感じている実習生が6割を超える。職場環境によっては、早口や方言などを聞く機会も多いが、入国前研修や入国後研修の標準的な日本語学習だけではこうした日本語能力を習得することが難しい点が課題となっている。（参照：P80のQ14/Q15）

# 技能実習生の日常生活の現状と課題(1)

- ✓ 約7割の実習生に日本人との積極的な交流意向があるが、実際の交流は日常的なあいさつや実習先での交流に限られており、交流機会の設定や参加の促進が課題。
- ✓ 入手困難な主な情報は「医療・健康・福祉」と「役所からのお知らせ」である一方、半数の実習生が入手できない情報はないと回答。
- ✓ 半数の実習生が生活する上で困っていることがないと回答した一方で、交通手段、金銭、食事に関することをあげた実習生がそれぞれ1割程度。
- ✓ 実習生の主な相談相手は、企業の担当者や日本にいる同国人等の身近な人で、公的な相談窓口はそれぞれ1割以下にとどまる。

## ◆ 日本人との交流における現状と課題

日本人と積極的に交流したいという意識を持つ実習生は7割を超える。しかしながら、実際の交流は、実習生の半数以上が日常的なあいさつや実習先での交流に留まる。日本人との私的な交流と地域社会と交流をしている割合を合わせても3~4割程度で、積極的な交流意向とは別に、交流機会が限定されていることがうかがえる。(参照：P82のQ18/Q19)

## ◆ 日本で手に入らなくて困っている情報

半数以上の実習生が、手に入らなくて困っている情報はないと回答している一方で、1~2割程度の実習生が医療・健康・福祉や役所からお知らせと回答している。日本語能力が高いとはいえ実習生の半数が入手できず困っている情報がないという背景には、監理団体や受入れ企業のサポートがあることが推測される。(参照：P83のQ20)

## ◆ 日本で生活する上で困っていること/相談相手の有無

半数の実習生が困っていることはないとは回答した一方で、交通、金銭、食事に関することに困難を感じている実習生がそれぞれ1割程度いる。また、日本で生活する上で受入れられないことのトップにも公共交通機関が不便ということが上がっており、自動車を持たない実習生が、日常生活で移動する場面で困難を感じていることがうかがえる。実習生の主な相談相手に関しては、企業の社員が最も多く、次いで日本にいる同国人で、外国人技能実習機構等の公的機関はそれぞれ1割以下である。(参照：P85のQ22/Q23、P89のQ29)



## 技能実習生の日常生活の現状と課題(2)

- ✓ 病院受診率は5割程度で、未受診者の理由は「病気やケガがない」が7割を超える。
- ✓ 外国人技能実習機構の母国語相談の認知率は46%だが、市役所・町村役場の外国人相談窓口やワンストップセンターはそれぞれ29%、16%と認知率を向上させる取組が必要。
- ✓ 公的機関や医療機関の利用時の不安要素は言語障壁と費用負担で、必要な時に不安なく利用できる環境づくりに課題。
- ✓ 特定技能制度に関する認知率は2割程度で、約8割の実習生は内容を理解しておらず、日本におけるキャリア形成に関して更なる情報発信が必要。
- ✓ 県内の就労継続を希望する1号または2号実習生はそれぞれ6割程度で、主な理由は労働条件と自分にあった気候等。
- ✓ 県外の就労希望理由は、高い賃金や都会での就労で、県内就労の魅力づくりに課題。

### ◆ 医療機関の利用状況や公的機関の認知

病院の受診経験に関して、半数近くの実習生が日本で病院を受診した経験があった。主な受診先は病院で、1割程度の実習生が職場の保健室・医務室も利用していた。受診をしなかった主な理由は、「病気やケガをしたことがない」が7割を超える。経済事情や言語障壁を理由に受診を控えていた実習生も数%程度だが見受けられる。（参照：P90のQ31）

認知している公的機関に関しては、46%の実習生が外国人技能実習機構の母国語相談を挙げているが、市役所の外国人相談窓口やワンストップセンターの認知率はそれぞれ29%、16%にとどまる。公的機関・医療機関の利用における主な不安要因は、言葉や費用に関することである。必要な時に必要な支援を受けることができる仕組みづくりの必要性がある。（参照：P89のQ30、P91のQ32）

### ◆ 実習生の就労意識

新設された特定技能に関して、知っているのは2割程度で残りの約8割は内容を理解していないか知らないと回答。日本でのキャリア形成を考える上で、最新の情報を把握していない状況がうかがえる。現状のキャリアについて、1号または2号実習生のそれぞれ6割程度が現在の実習先での実習継続を望んでいるが、2割程度の実習生は帰国や他の実習先への変更を希望している。県内での実習継続を希望する理由として、労働条件の良さ、自分にあった気候、災害の少なさを挙げている。群馬県以外で働きたい実習生の理由として、高い賃金や都会で働くことを挙げており、より良い労働条件を求め環境を変えたい希望がうかがえる。（参照：P92のQ33/Q34、P93のQ35/Q36）

# 受入企業・監理団体のサポート体制の現状と課題

- ✓ 受入企業の主なサポートは、実習生の相談などに対応する社員の配置や日本語学習機会の提供。
- ✓ 受入企業は、技能修得に関する経済的援助は積極的な一方で、日常生活に関わる費用は消極的。
- ✓ 仕事以外の会話や日常会話が難しいが業務上のやり取りに問題のない受入企業が5割程度。
- ✓ 監理団体は地域社会との交流促進や日本語学習の機会を提供することに積極的。
- ✓ 監理団体は、特定技能制度の活用には積極的で、支援活動予定や活動済みが8割程度。周知活動をしている監理団体のうち7割は、企業と実習生に周知しているものの、1割の団体は企業にのみ周知活動をしており、実習生への周知に課題。

## ◆ 受入企業のサポート体制と今後の受入れ傾向

受入企業のサポート体制として実習生の相談などに対応する社員を配置したり、日本語や文化を学ぶ機会を提供している企業が多い。その他、母国語対応できる職員の配置や母国語のマニュアル作成など、言語障壁により業務に支障がないようにサポートしている様子うかがえる。実習生の平均的な日本語理解度に関して、約8割の企業が業務上問題なくやり取りができていると回答。また、6割の企業は、職務に係る研修費用（返済不要）を負担しており、技能習得に有効な研修を実習生に受講できる環境づくりをしている状況うかがえる。その他、光熱費や住居費などを負担している企業もあるものの、企業ごとにサポート内容が異なる。（参照：P100のQ10/Q11/Q12、P101のQ14）

受入企業における技能実習生採用意向は、維持もしくは増加傾向である。特定技能に関しては、採用意向がある企業が半数以上を占めており、採用の候補国は、ベトナムや中国など技能実習生の受入れ国と同様である。（参照：P103のQ29/Q30/Q31）

## ◆ 監理団体のサポート体制と今後の受入れ傾向

主な監理団体のサポートは、地域社会との交流機会や日本語学習・文化を学ぶ機会を提供する受入企業への支援が多い。入国後講習では、生活ルールや日本語に加え、技能実習制度やビジネスマナーの研修を行っている団体もある。実習生が監理団体に相談する内容は、実習先の人間関係や健康・医療に関することが多く、監理団体が実習生のメンタルケアや健康管理に関わっていることがうかがえる。また、相談言語についても、複数言語で対応している団体が7割を超え、母国語で相談できる体制をとっていることが示唆される。失踪状況に関しては、8割程度の団体が失踪者を経験している。（参照：P108のQ13/Q14、P110のQ22/Q24、P111のQ25）

実習生は、ベトナムが最も多く、次いで中国と続くのは、日本全体の傾向と同様である（法務省の在留外国人統計「国籍・地域別 在留資格（在留目的）別 在留外国人」2019年6月）。面接方法は、監理団体、受入れ企業で現地面接を実施する団体が8割、監理団体のみ面接が5割、ネット面接が3割といずれかの方法で面接を実施している状況うかがえる。特定技能制度に関しては、積極的な姿勢を示している団体が多く、半数以上が登録支援機関としての活動を予定、2割程度はすでに活動済みである。周知活動は半数の団体が行っており、周知活動を行っている団体のうち7割は企業と実習生に周知しているものの、一部に企業のみ実施している団体も見受けられた。（参照：P105のQ3、P107のQ10、P112のQ27/Q28-1/Q28-2）

## 結果サマリー





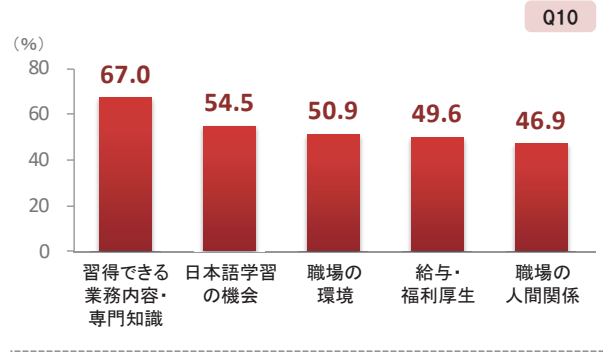
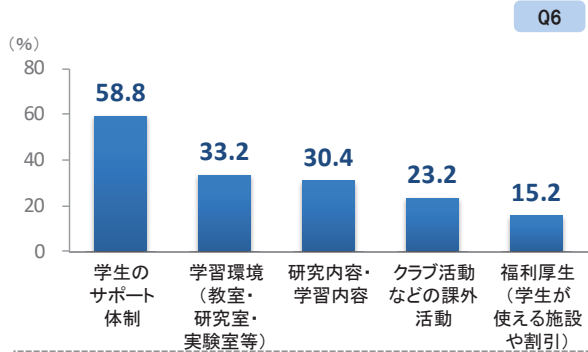
# 在留外国人の「就業・就学」における現状

- ◆ 留学生の在籍校に対する主な満足点は「学生のサポート体制」(59%)。
- ◆ 技能実習生の実習先に対する満足点では「習得できる内容・知識」(67%)が最も高い。一方、困っていることでは「日本語がわからない」との回答が3割程度みられる。
- ◆ 日本語能力資格の取得者は、留学生では「N3」が39%で最多。実習生では留学生と比べて「取得していない」(52%)、「取得する予定がない」(20%)の割合が高い。
- ◆ 【日本語の難しい点】について、留学生では「漢字を書くこと」、実習生では「早口や方言の聞き取り」「複雑な会話のやり取り」との回答が上位に挙がる。

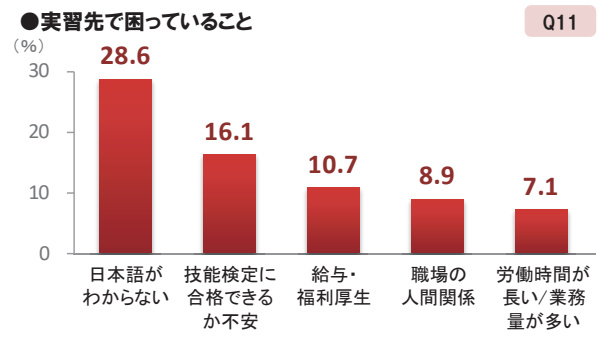
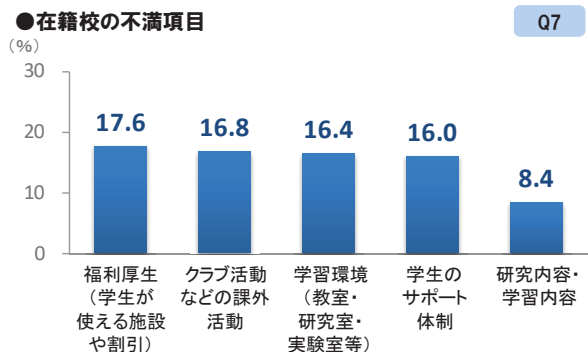
留学生 (n=250)

技能実習生 (n=224)

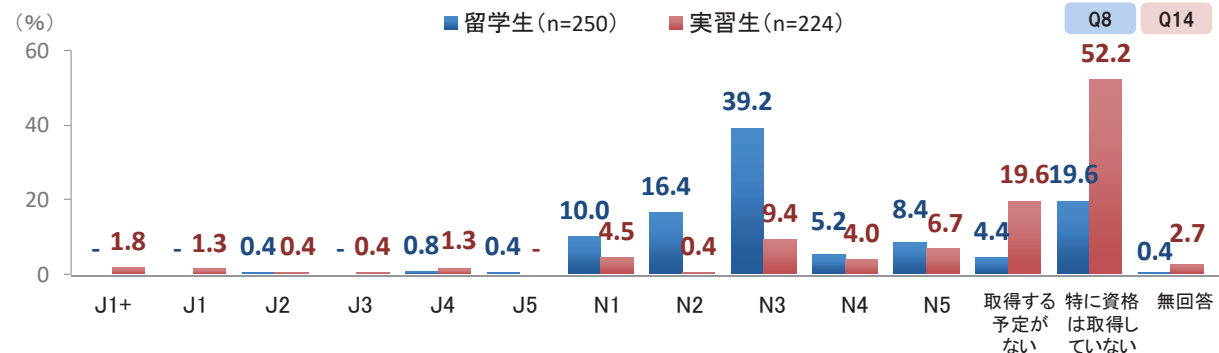
在籍校・実習先の満足項目



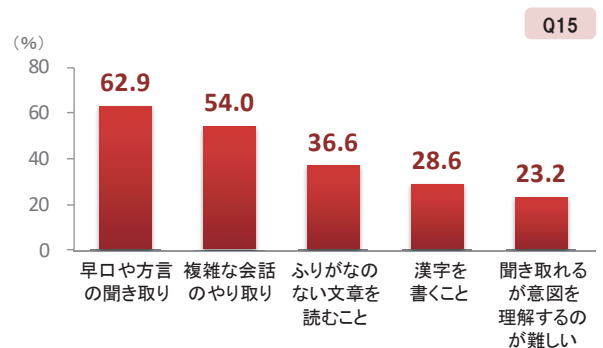
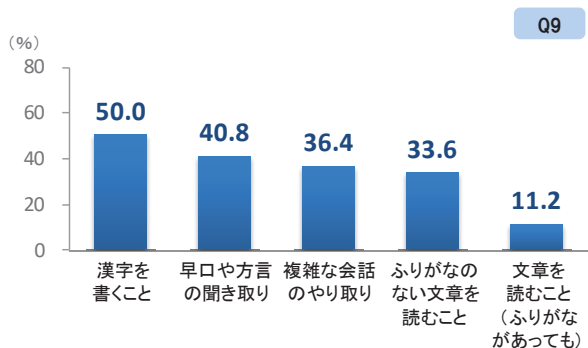
在籍校・実習先での困りこと



日本語能力資格の取得状況



日本語の難しい点



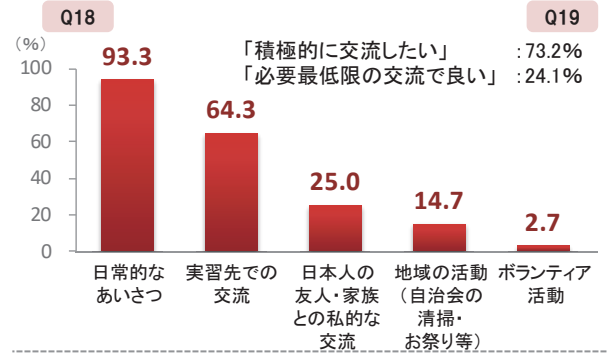
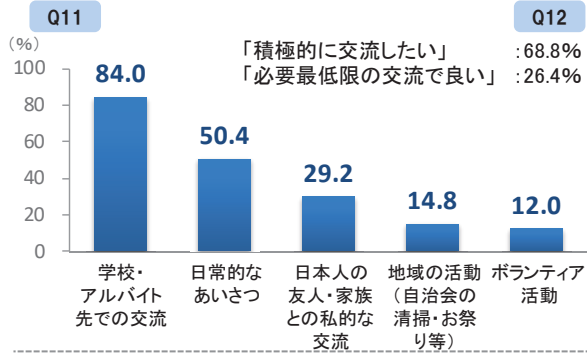
# 在留外国人の「生活面」における現状

- ◆ 日本人との交流内容は、留学生では「学校・アルバイト先での交流」(84%)、実習生では「日常的なあいさつ」(93%)が最多。
- ◆ 生活関連で入手困難な情報をみると、留学生で「医療・健康・福祉関連」「就職関連」が4割前後と比較的高い。
- ◆ 困っていること、受け入れられないことは実習生より留学生で多く挙がる傾向。具体的には、困っていることでは「金銭」(30%)、「病気・ケガ」(22%)、受け入れられないことでは「差別・偏見」(28%)、「交通」(25%)が多い。

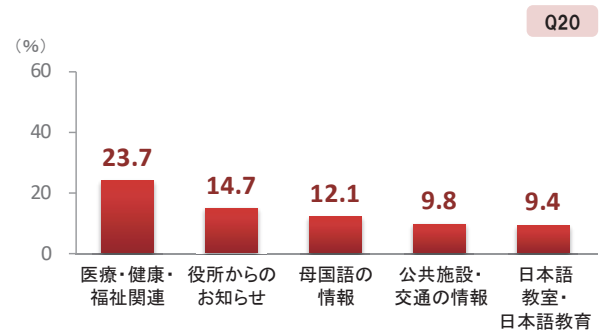
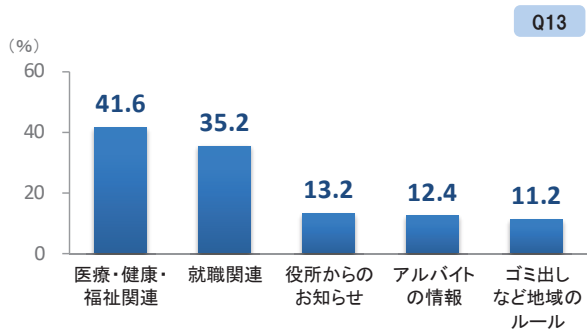
## 留学生 (n=250)

## 技能実習生 (n=224)

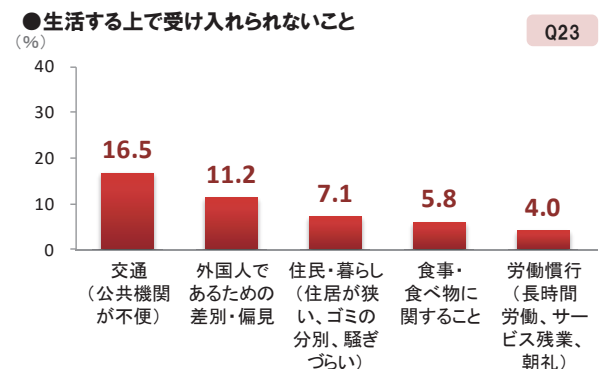
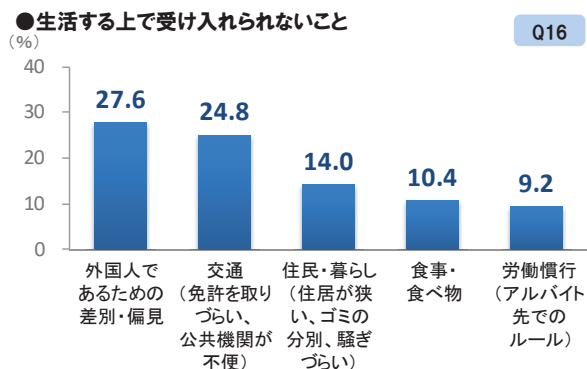
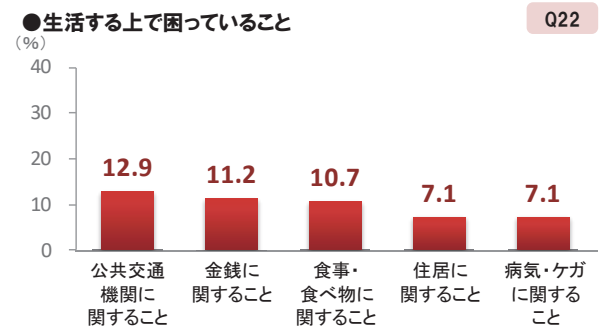
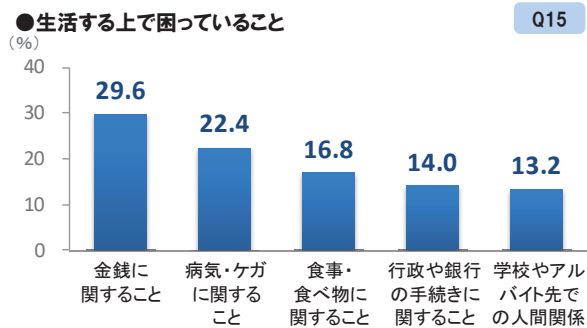
### 日本人との交流実態・意識



### 生活関連で入手困難な情報



### 生活する上での課題



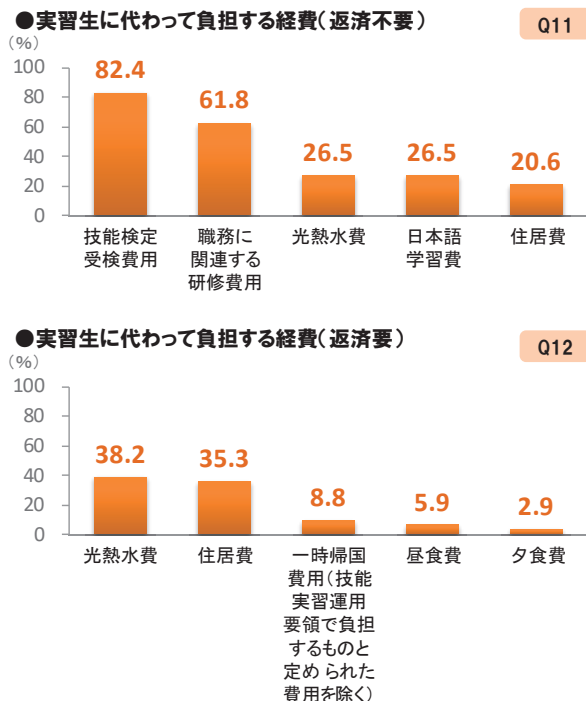
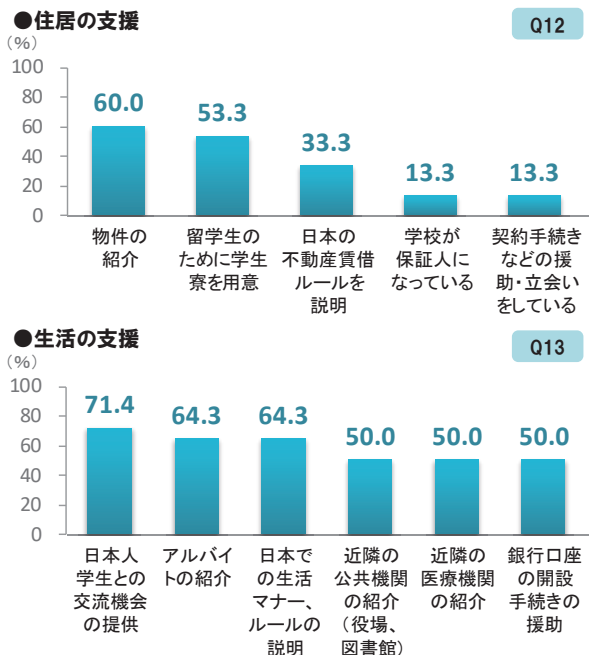
# 受入側のサポート状況(生活・就業支援)

- ◆ 在籍校の主な支援内容は、「住居関連」「日本人学生との交流」「アルバイト紹介」など。
- ◆ 受入企業についてみると、生活面では「技能検定受検」「研修」の費用負担(返済不要)、就業面では「相談に乗ってくれる職員の配置」「日本語・日本文化を学ぶ機会の提供」が上位。
- ◆ 受入企業の考える実習生の日本語理解度は、『職場でのやりとりは問題なし』が約8割。
- ◆ 監理団体では「受入企業の支援」のほか、入国後講習として「生活ルール」「日本語学習」「従事技能」などの講習が実施されている。

## 留学生在籍校 (n=15)

## 受入企業 (n=34)

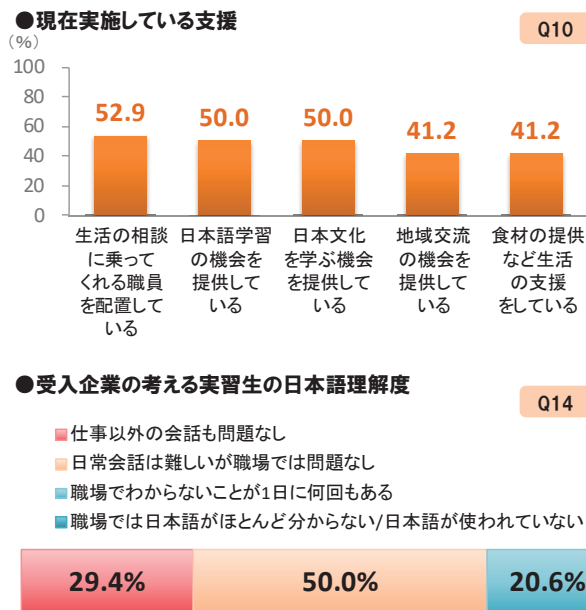
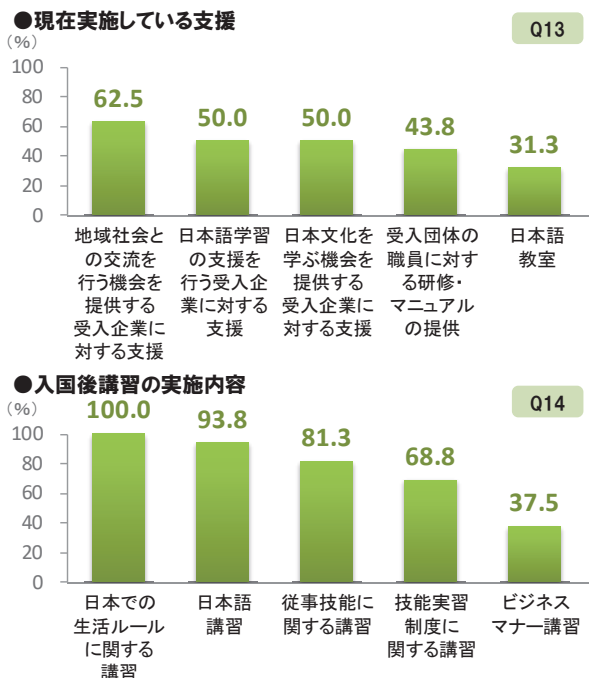
生活面で実施している支援内容



## 監理団体 (n=16)

## 受入企業 (n=34)

就業面で実施している支援内容

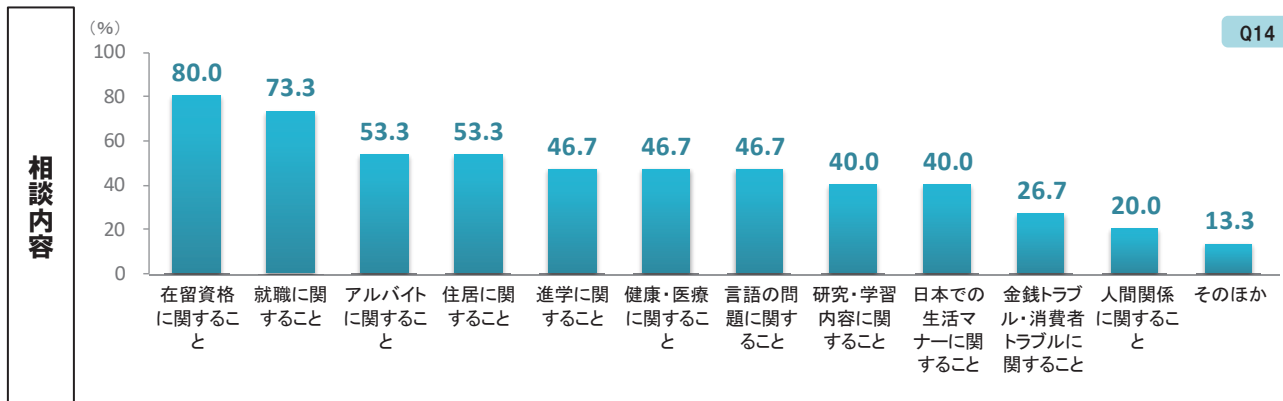


# 受入側のサポート状況(相談内容/受入意向)

- ◆ 相談内容をみると、在籍校では「在留資格」「就職」、監理団体では「実習先の人間関係」「健康・医療に関すること」が上位に挙がる。
- ◆ 監理団体における相談時の対応言語は「複数」が75%。「日本語のみ」は6%。
- ◆ 外国人の受入意向をみると、在籍校では「拡大」「維持」が各47%、受入企業では「拡大」38%、「維持」62%となっている。
- ◆ 監理団体から聴取した企業の受入傾向では「増加」が69%を占める。

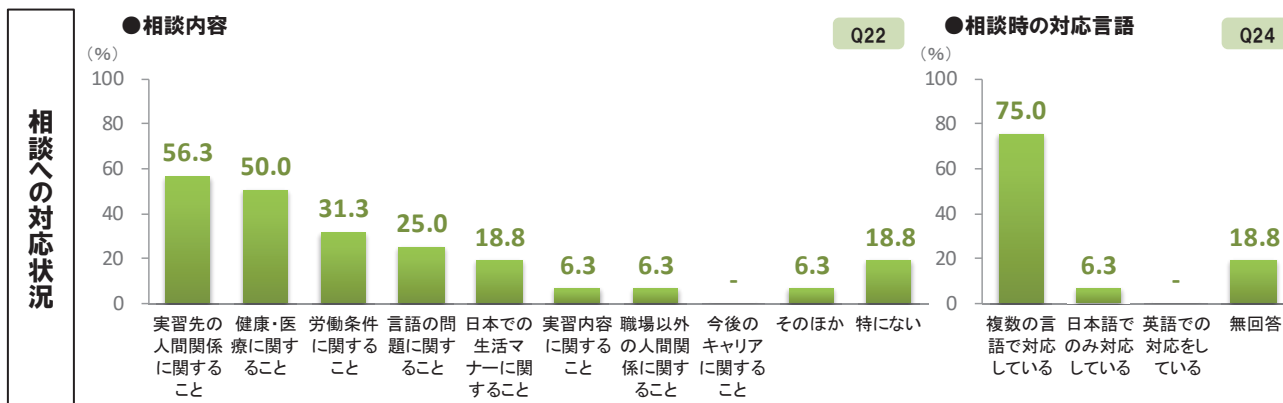
## 留学生在籍校

(n=15)



## 監理団体

(n=16)



## 留学生在籍校

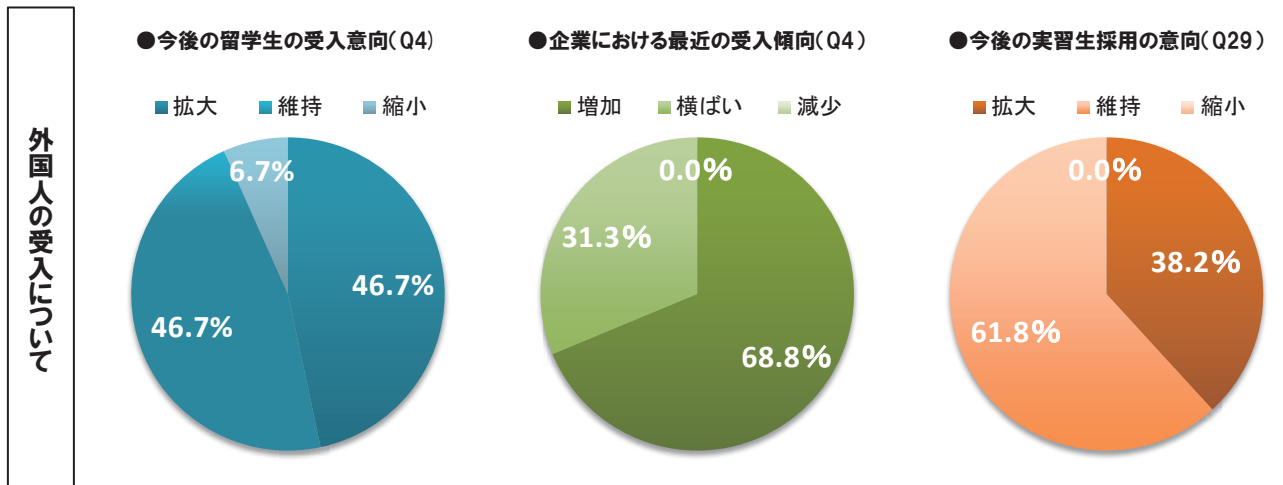
(n=15)

## 監理団体

(n=16)

## 受入企業

(n=34)



# 公的機関・医療機関に関する課題

- ◆ 生活する上での相談者は、留学生では「大学・学校」が62%と高い。技能実習生では「企業の社員」(50%)、次いで「日本にいる同国人」(38%)が多く挙がる。
- ◆ 公的機関・医療機関に関する不安では、留学生、実習生ともに「ことばが通じるか」「費用がかかる／高いのではないか」が上位。
- ◆ 公的機関の認知をみると、留学生では8割強が「市役所・町村役場」を知っているが、他の機関の認知率は1～2割程度にとどまる。実習生では「技能実習機構母国語相談」が46%で最も高い。

留学生

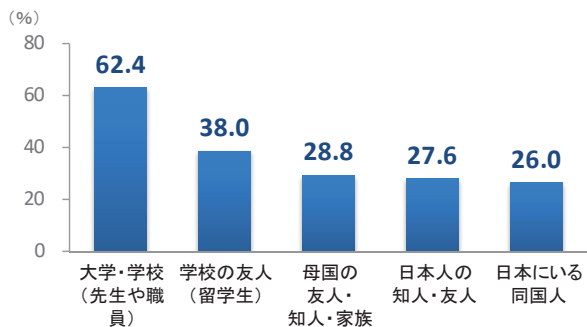
(n=250)

技能実習生

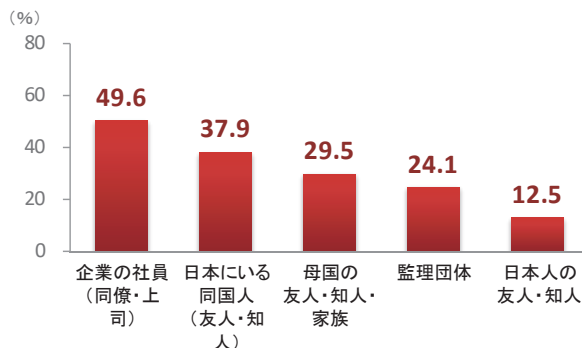
(n=224)

生活する上での相談者

Q28

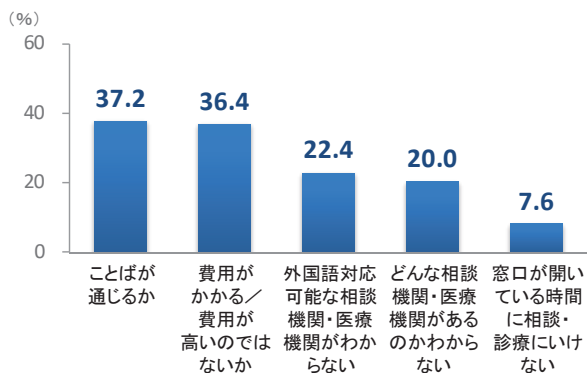


Q29

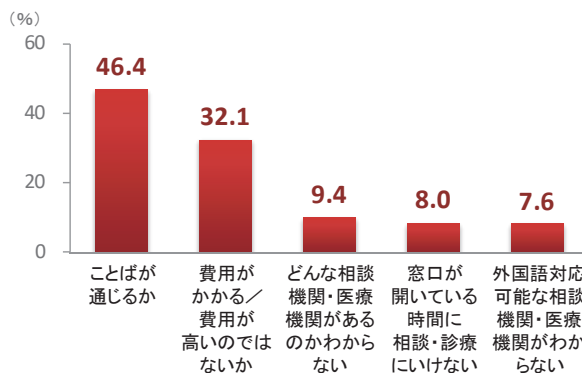


公的機関・医療機関に関する不安

Q29

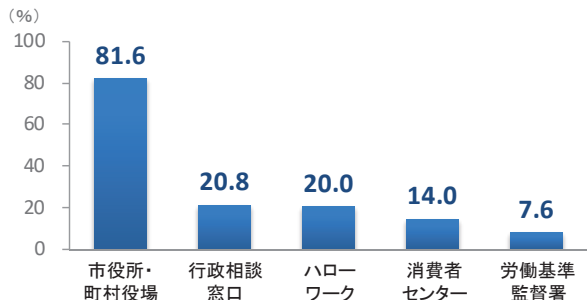


Q30

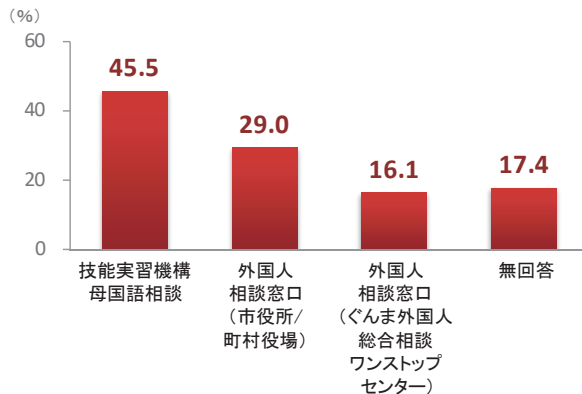


公的機関で知っているもの

Q31



Q32



# 病院の利用実態

- ◆ 病院の受診経験率は、留学生が58%、技能実習生は46%。
- ◆ 受診経験者が利用した場所は、留学生、技能実習生ともに「病院」(各84%、86%)が多い。
- ◆ 未経験者の理由をみると、留学生では「病気やケガをしたことがない」(45%)に次いで「薬局で買った薬を使った」(36%)が多く挙がる。
- ◆ 実習生の未受診理由では「病気やケガをしたことがない」が7割強と突出している。

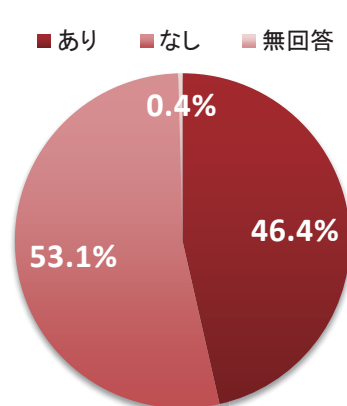
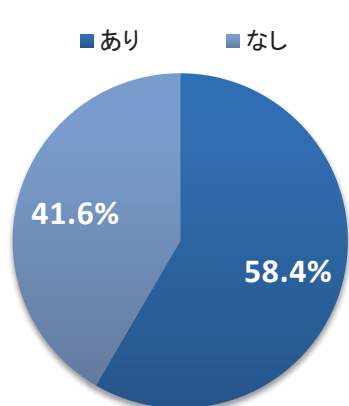
留学生

(n=250)

技能実習生

(n=224)

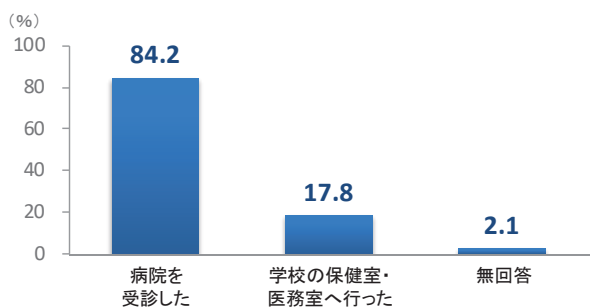
病院の受診経験



受診したことがある場所

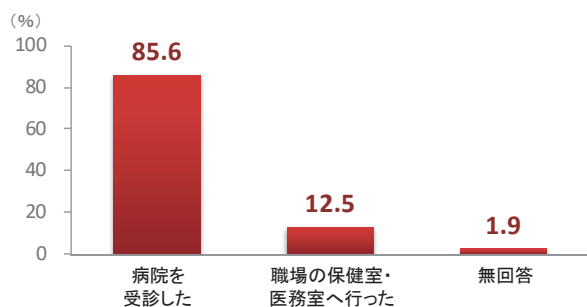
※受診経験者ベース(n=146)

Q30-2



※受診経験者ベース(n=104)

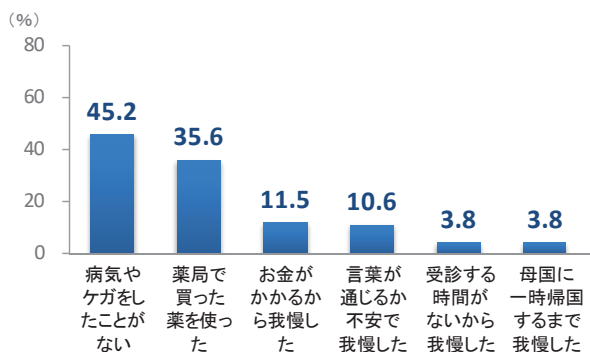
Q31Y



受診していない理由

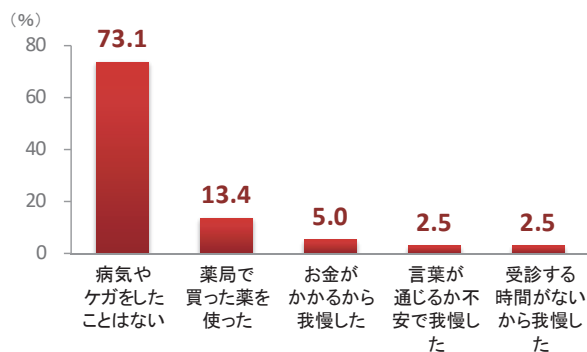
※受診未経験者ベース(n=104)

Q30-3



※受診未経験者ベース(n=119)

Q31N



# 留学生の卒業後の希望と支援における課題

- ◆ 卒業後の予定では「日本で就職希望」が7割。「翻訳・通訳」「海外業務」の志望者が多い。
- ◆ 就職先選びでは「待遇」の重視度が高い。最も心配な点は「自分の日本語能力」(46%)。
- ◆ 留学生在籍校に就職支援の課題を尋ねたところ、「留学生と企業が出会う場が少ない」が60%と最も高く、「留学生を採用する企業が少ない」「留学生の業界・企業研究が不十分」が各47%で続く。

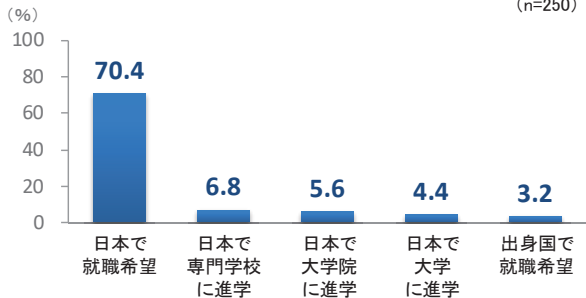
## 留学生

### 卒業後の予定・希望

●卒業後の予定

Q32

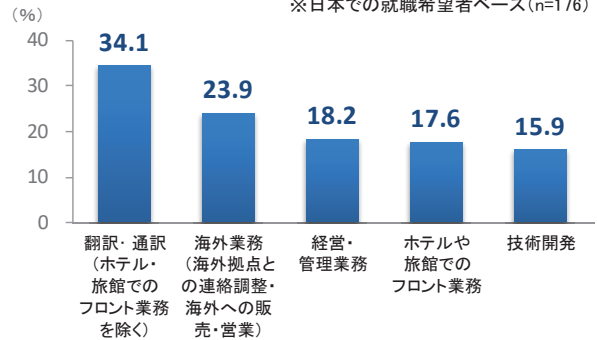
(n=250)



●希望する業務内容

Q33

※日本での就職希望者ベース (n=176)

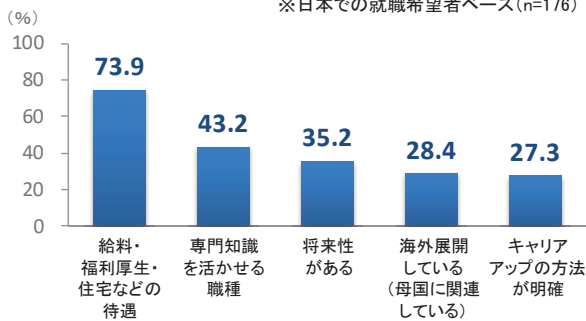


### 就職先選びでの重視点・不安点

●就職先を選ぶ際の重視点

Q38

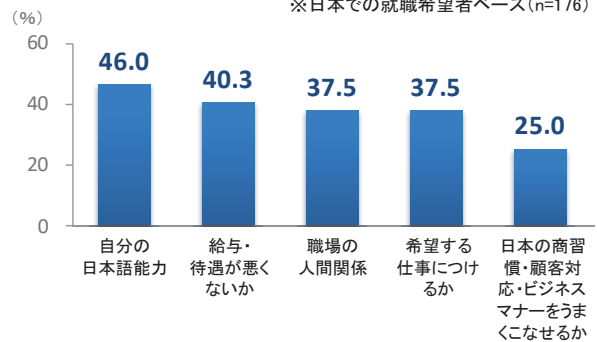
※日本での就職希望者ベース (n=176)



●日本で働く上で心配していること・受け入れ難いルール

Q40

※日本での就職希望者ベース (n=176)

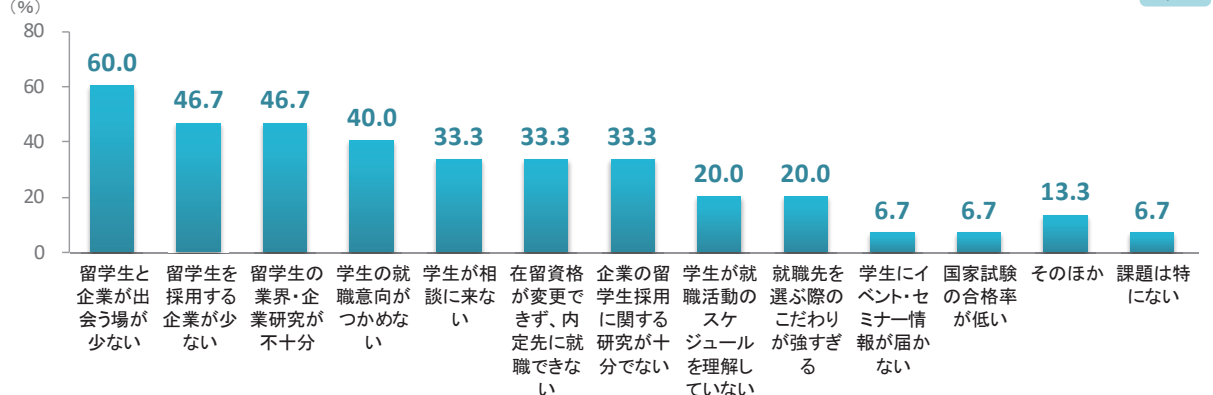


## 留学生在籍校

(n=15)

### 留学生の就職支援における課題

Q17



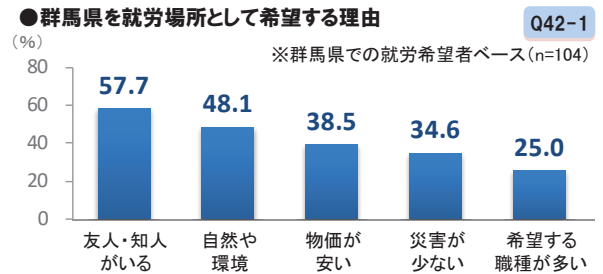
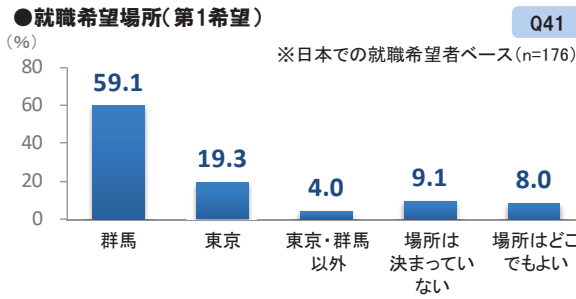


# 留学生・実習生の就労意向

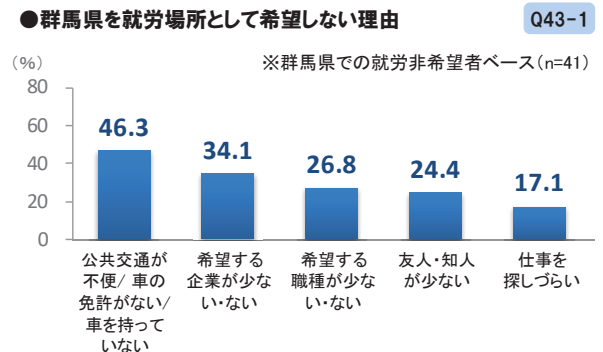
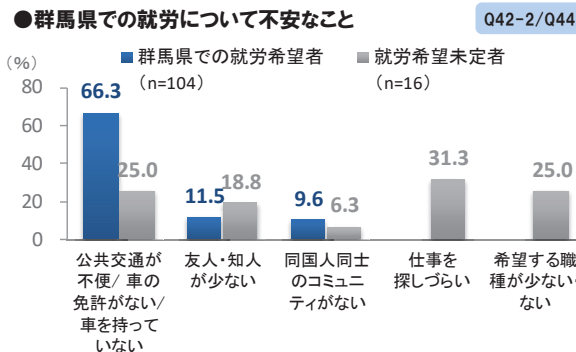
- ◆ 留学生の就職希望場所は「群馬県」が59%で最多。希望理由では「友人・知人がいる」(58%)、「自然や環境」(48%)が上位に挙がる。
- ◆ 群馬県での就労を希望しない理由、不安な点ではともに「公共交通が不便」が最多。
- ◆ 実習生のキャリア意向をみると、1号、2号ともに「今の実習先で実習を継続」が6割を超える。
- ◆ 実習生の群馬県で働きたい理由では「労働条件がよさそう」「気候が自分に合う」、県外で働きたい理由では「高い賃金の職場がありそう」「もっと都会で働きたい」との回答が多い。

## 留学生

就職先の第1希望

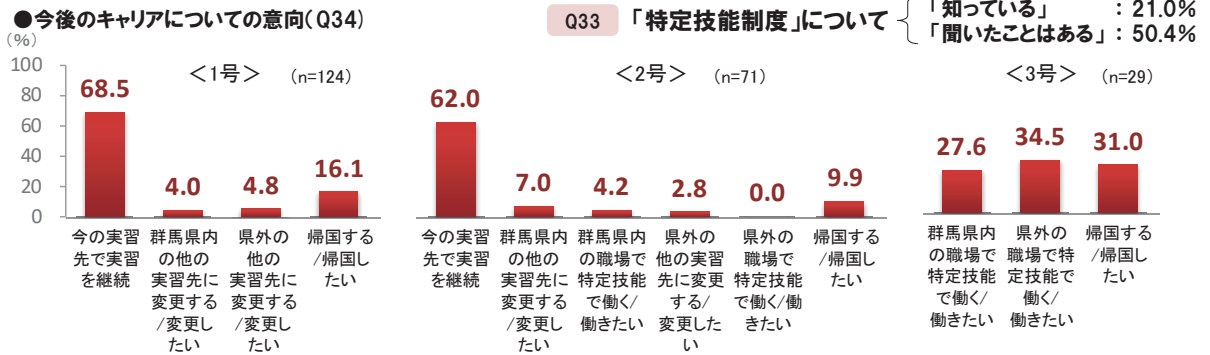


群馬県での就労で不安な点

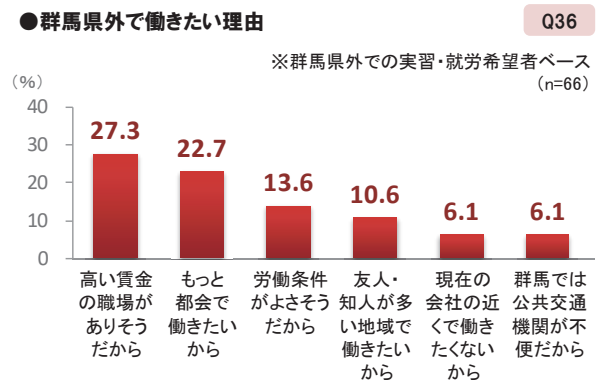
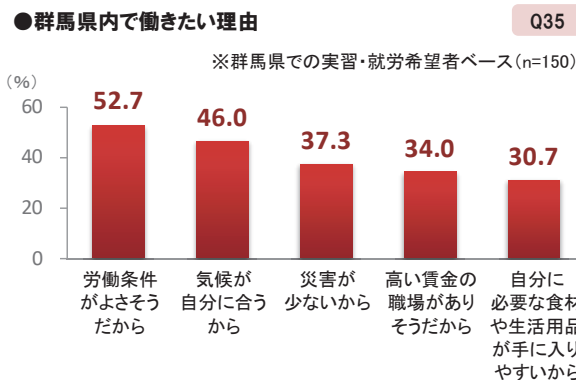


## 技能実習生

今後の就労意向について




今後の就労意向の理由





# 留学生に関する調査 結果詳細



# 基本情報(性別／国籍／学校種別)

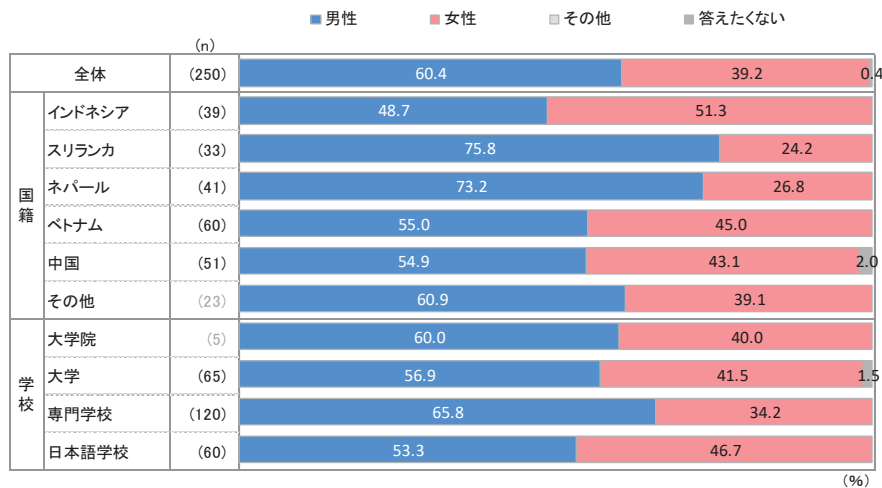
## ■ 性別／国籍

- 男女比はほぼ6:4。国籍は「ベトナム」が24%で最多。次いで「中国」が20%、「ネパール」「インドネシア」が各16%。

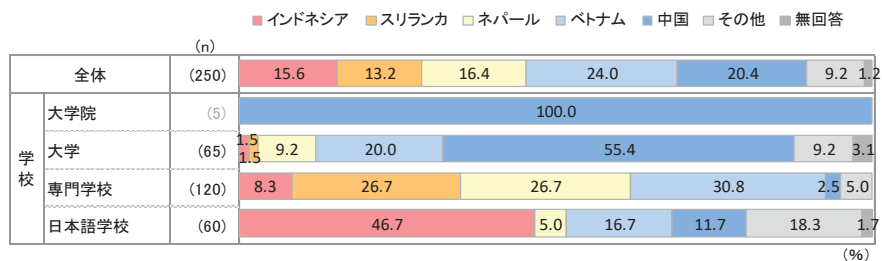
## ■ 通っている学校の種類

- 全体では「専門学校」が48%で最多。以下、「大学」が26%、「日本語学校」が24%と続く。
  - 国籍別にみると、インドネシアでは「日本語学校」、スリランカ、ネパール、ベトナムでは「専門学校」、中国では「大学」が大半を占めており、国籍によって内訳が大きく異なる。

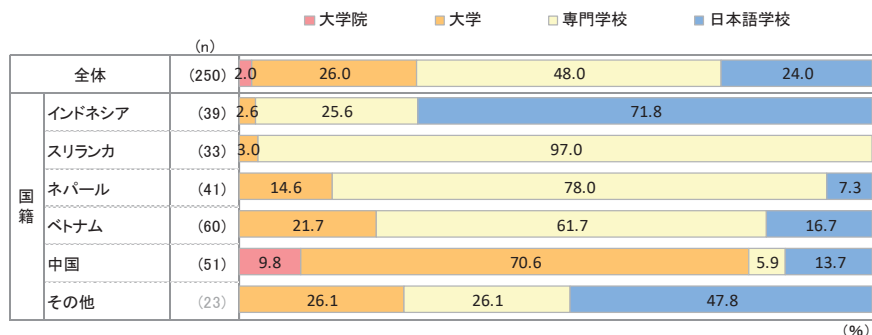
Q1-1. あなたの性別をお答えください。(SA)



Q2. あなたの国籍をお答えください。(SA)



Q3. あなたの通っている学校の種類をお答えください。(SA)

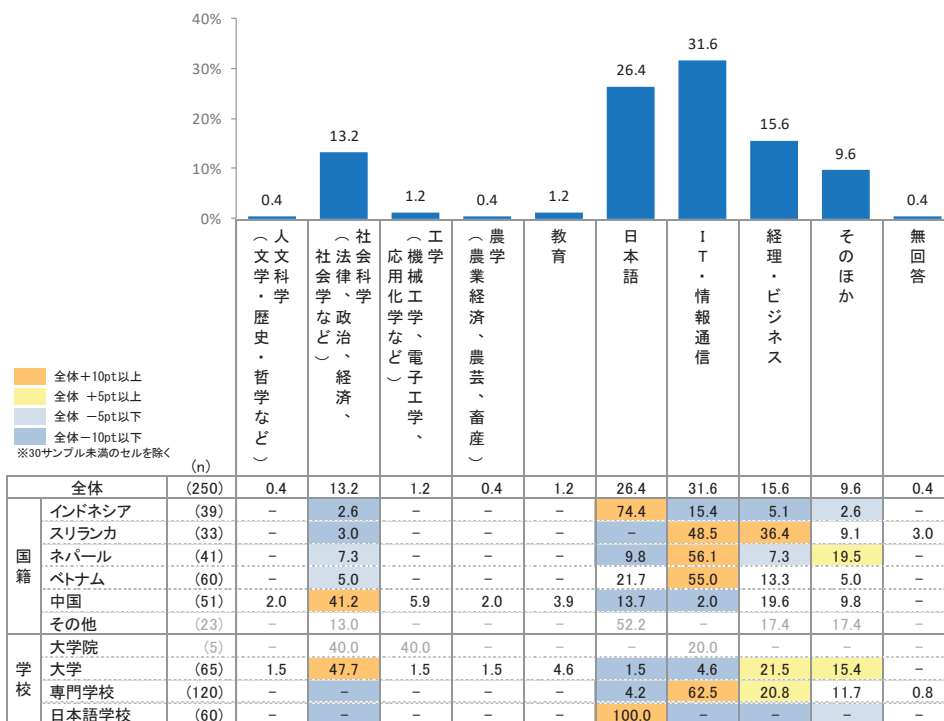


# 基本情報(学んでいる分野)

## ■ 学んでいる分野

- 全体では「IT・情報通信」が32%と最も高く、「日本語」が26%で続く。以下、「経理・ビジネス」(16%)、「社会科学」(13%)など。
- 学校種類別にみると、大学では、法律・政治・経済・社会学などの「社会科学」を学んでいる留学生在が約半数(48%)、次に「経理・ビジネス」(22%)が続く。専門学校では、「IT・情報関連」が6割を超え(63%)、「経理・ビジネス」(21%)がそれに続く。日本語学校では全員「日本語」を学んでいる。

Q4. あなたの学んでいる分野をお答えください。(SA)



# 学校生活・日本語学習の状況(学校に対する満足度)

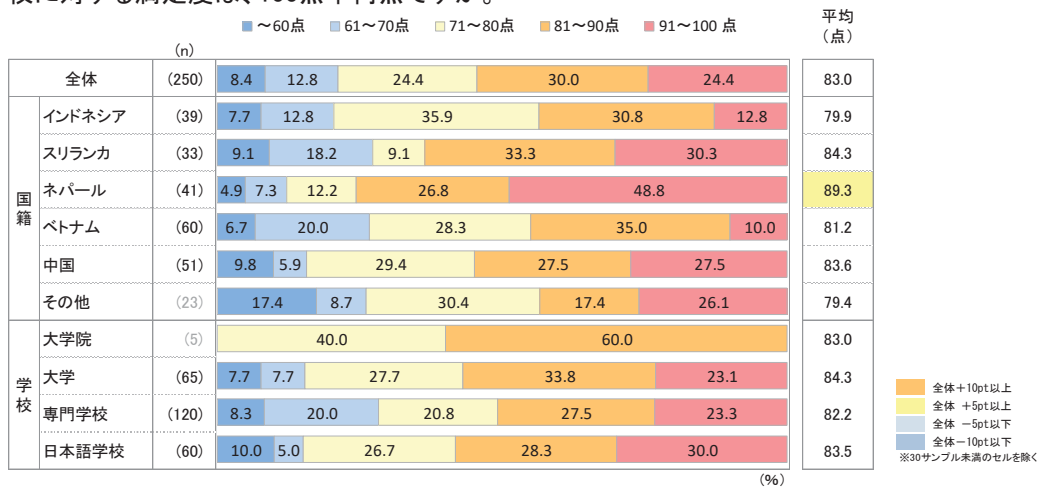
## ■ 学校に対する満足度

- 全体では「81～90点」(30%)が最も多く、「91～100点」「71～80点」が各2割台で続く。平均は83点。
  - 平均点は各国、学校種類別ともに80～90点程度。

## ■ 在籍校の満足点／不満点

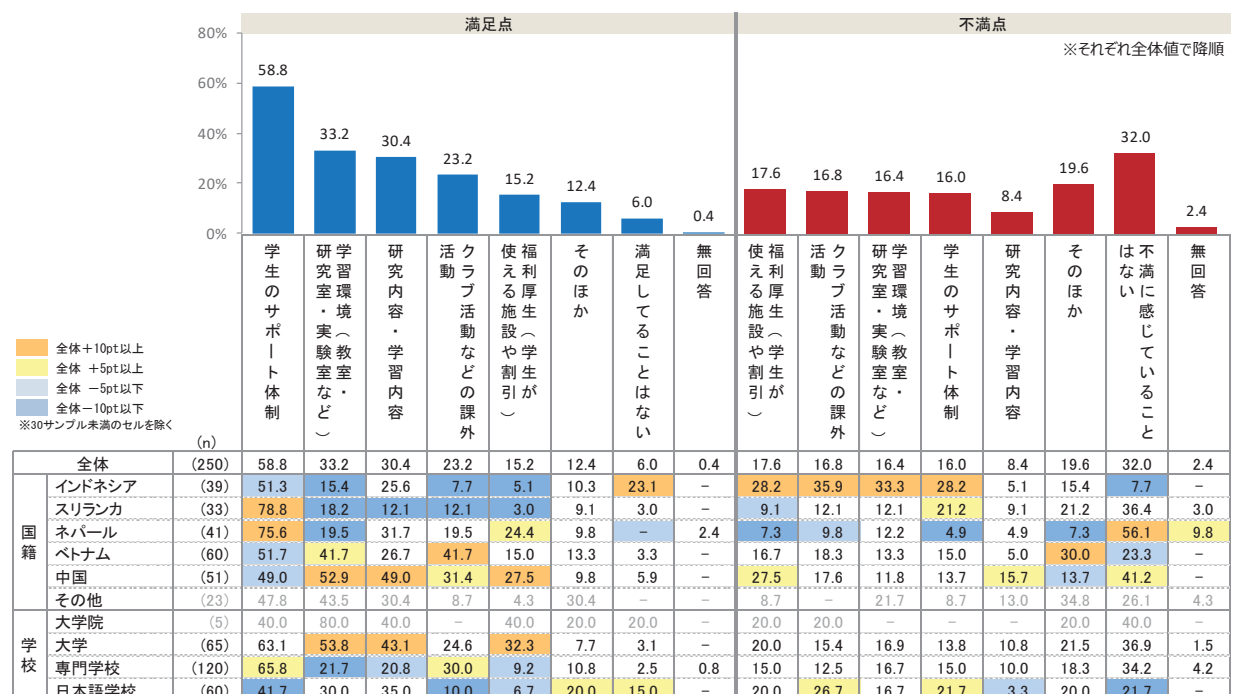
- 満足点は、全体では「学生のサポート体制」が59%と最も高い。
  - 学校種類別にみると、大学では「学生のサポート体制」(63%)に次いで、「学習環境」(54%)、「研究内容・学習内容」(43%)、「福利厚生」(32%)に満足している人が他の学校に比べて多い。
  - 専門学校では、「学生のサポート体制」(66%)に次いで、「クラブ活動などの課外活動」(30%)が比較的高いのが特徴的である。
- 不満点をみると、全体では「福利厚生」「課外活動」「学習環境」「学生のサポート体制」が各1割強。
  - 特に日本語学校では、「課外活動」(27%)「サポート体制」(22%)に関して、平均よりも高い不満率を示している。

Q5. あなたの学校に対する満足度は、100点中何点ですか。



Q6. あなたの在籍する学校の満足しているところを、次の項目から選んでください。(MA)

Q7. あなたの在籍する学校的不满に感じているところを、次の項目から選んでください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 学校生活・日本語学習の状況(日本語能力について)

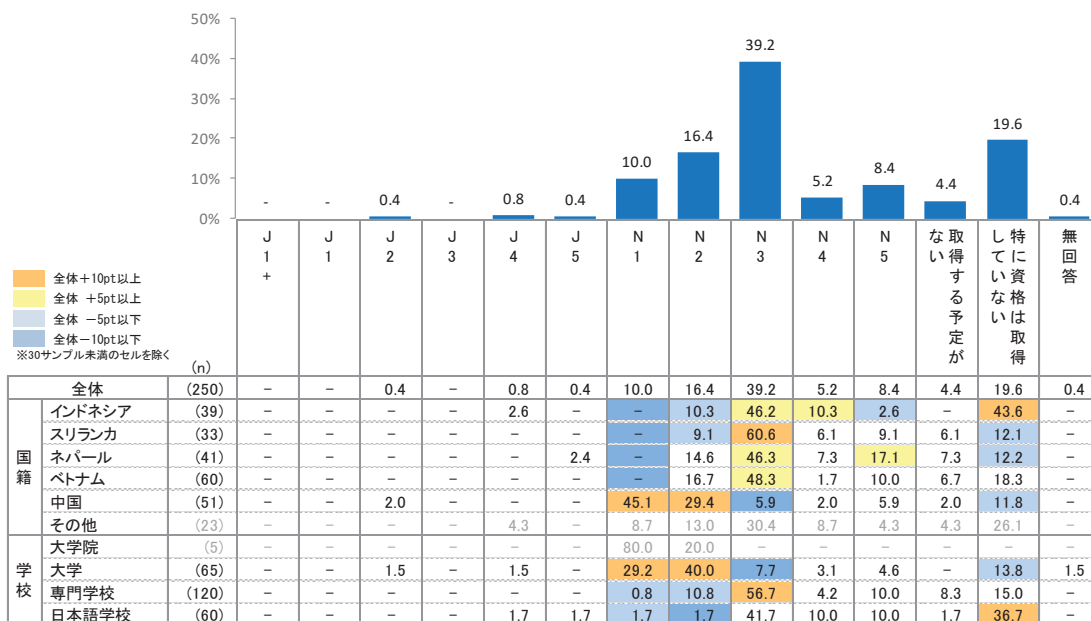
## ■ 日本語能力資格の取得状況

- 資格を取得しているのは全体の8割。最も多いのは「N3」で39%。次いで「N2」が16%。
  - スリランカで「N3」が6割と特に高い。中国では「N1」の取得者が4割を超え、他国と比べて突出している。
  - 学校別にみると、大学では「N1」「N2」、専門学校、日本語学校では「N3」の取得率が高い。

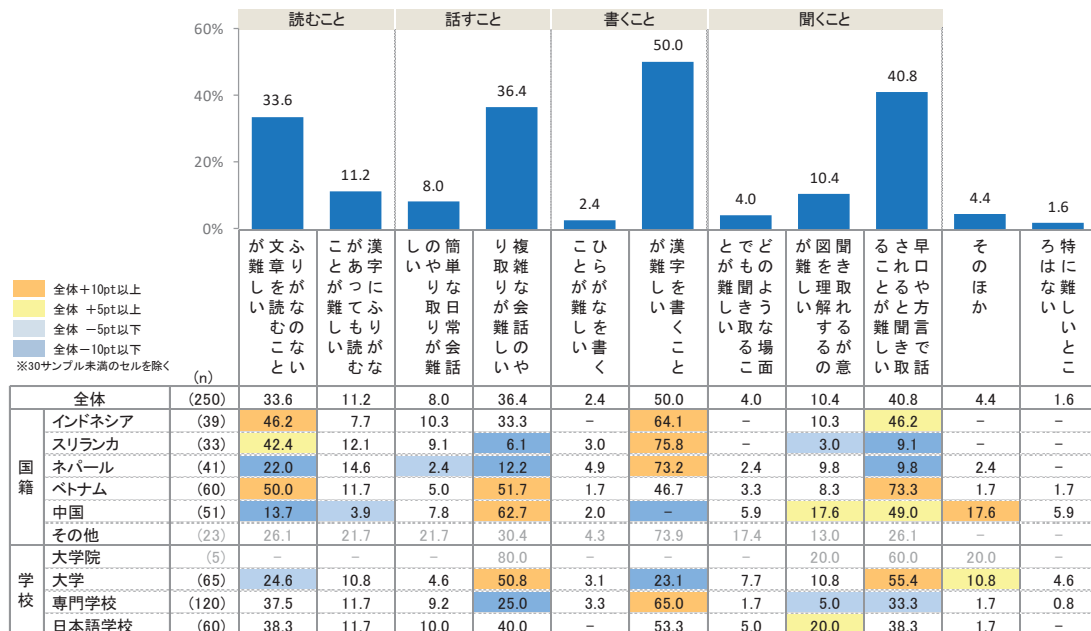
## ■ 日本語で難しい点

- 全体では「漢字を書くこと」が50%で最多。次いで「早口や方言の聞き取り」が41%。
  - 国籍別にみると、ベトナムでは「早口や方言の聞き取り」、中国では「複雑な会話のやり取り」が最多。
  - 学校別にみると、大学では「早口や方言の聞き取り」「複雑な会話のやり取り」、専門学校、日本語学校では「漢字を書くこと」が5~6割台と高い。

Q8. 現在、あなたは、日本語能力の資格を取得していますか。(MA)



Q9. 日本語を使う上で難しい点をお答えください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。



# 学校生活・日本語学習の状況(奨学金の受給状況)

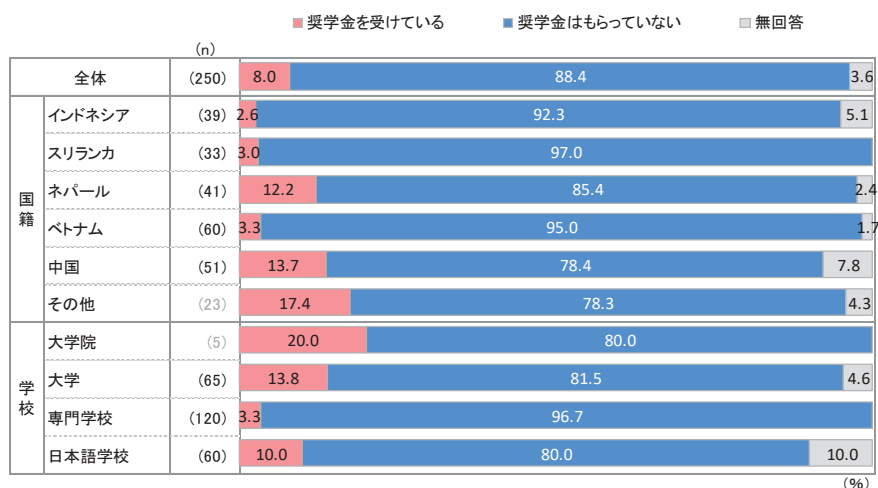
## ■ 奨学金の受給状況

- 奨学金を受けているのは全体の8%。
  - 国籍別に「受けている」の割合をみると、中国、ネパールで各1割強と高め。
  - 学校別にみると、専門学校では「受けている」が3%にとどまる。

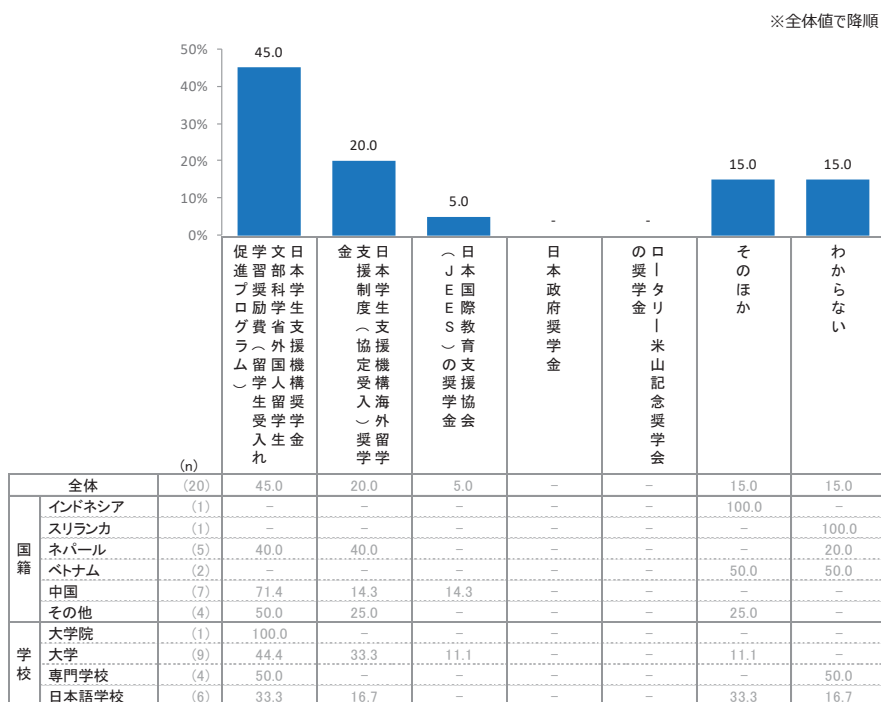
## ■ 奨学金の種類

- 小サンプルのため参考値だが、「文部科学省外国人留学生学習奨励費(留学生受入れ促進プログラム)」(45%)が最も多い。

Q10-1. あなたは奨学金を受けていますか。(SA)



Q10-2. 奨学金の内容をお答えください。 <「奨学金を受けている」と回答した者>



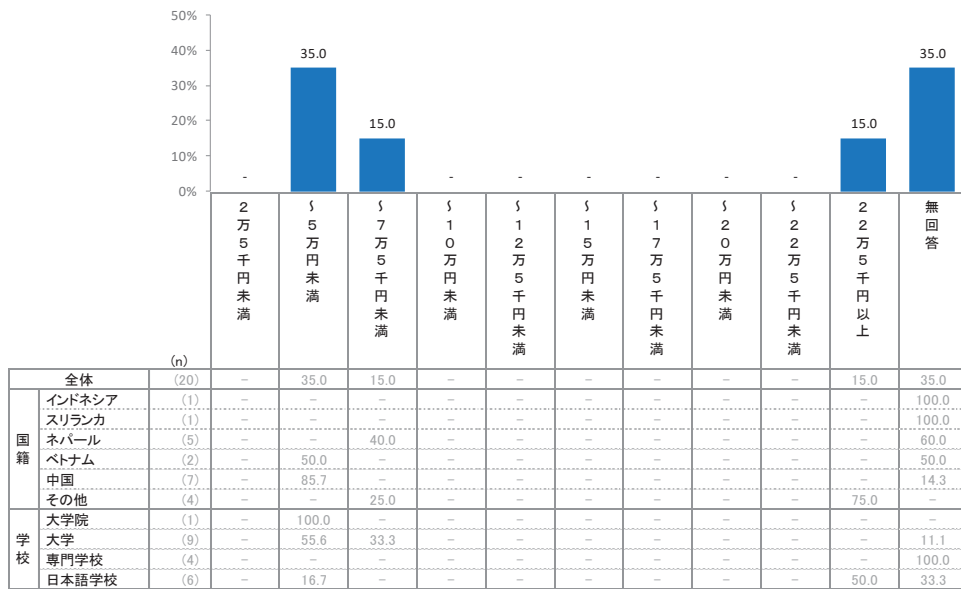
※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 学校生活・日本語学習の状況(奨学金の受給状況)

## ■ 奨励額(月額)

- 小サンプルのため参考値だが、「2万5千円～5万円未満」が35%で最多。次いで「5万円～7万5千円未満」「22万5千円以上」が各15%。

Q10-3. 奨励額(月額)をお答えください。<「奨学金を受けている」と回答した者>



# 日本の生活と暮らしについて(日本人との交流状況)

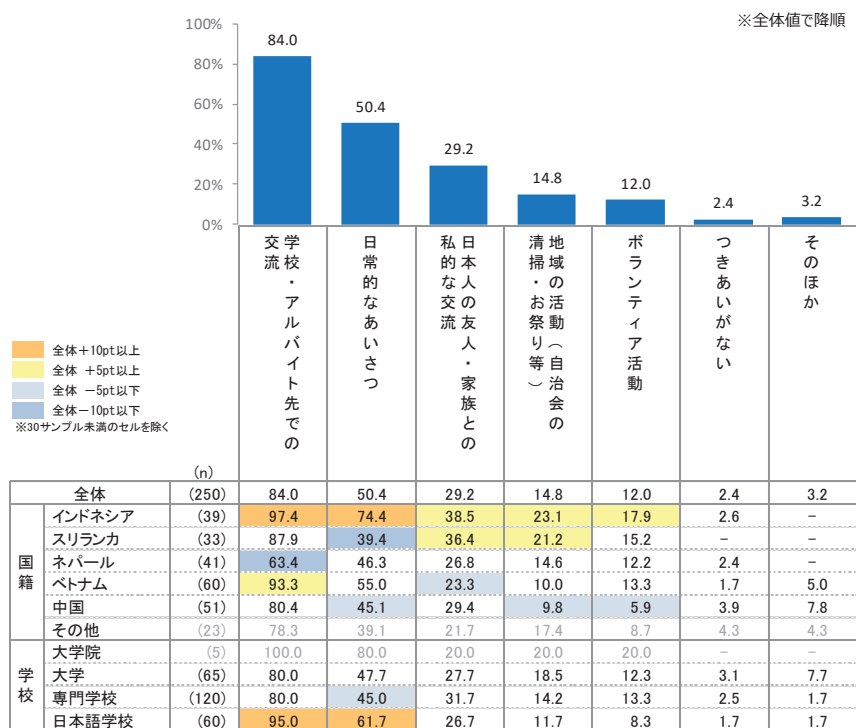
## ■ 日本人との交流状況

- 全体では「学校・アルバイト先での交流」が84%で最多。次いで「日常的なあいさつ」が50%。
  - 国籍別にみると、インドネシアで「学校・アルバイト先での交流」「日常的なあいさつ」が特に高い。
  - ネパールでは「学校・アルバイト先での交流」が6割台にとどまり、他国の割合を10ポイント以上下回る。

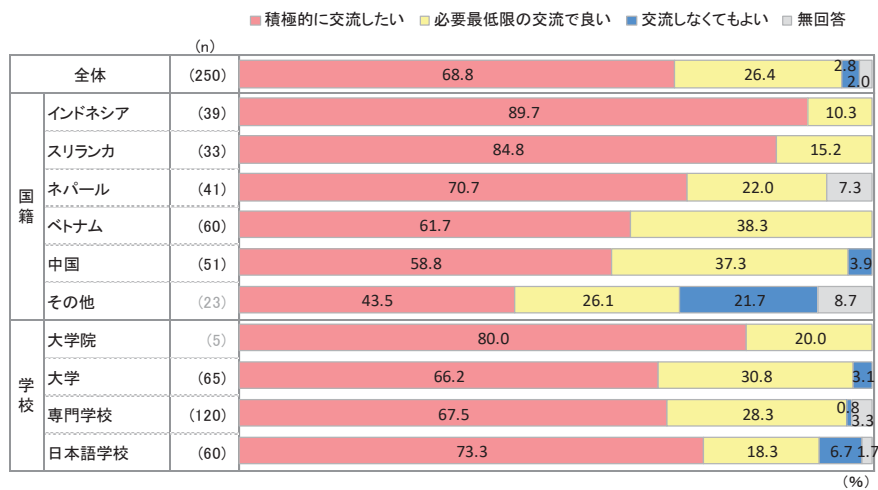
## ■ 日本人との交流への態度

- 全体では「積極的に交流したい」が69%を占める。
  - 国籍別にみると、インドネシア、スリランカで「積極的に交流したい」が8割以上と特に高い。
  - 他方、ベトナム、中国では「必要最低限の交流で良い」が3割を超え、他国を10ポイント以上上回る。

Q11. あなたは普段、日本人とどのような交流をしていますか。(MA)



Q12. あなたは日本人とどの程度交流したいですか。(SA)



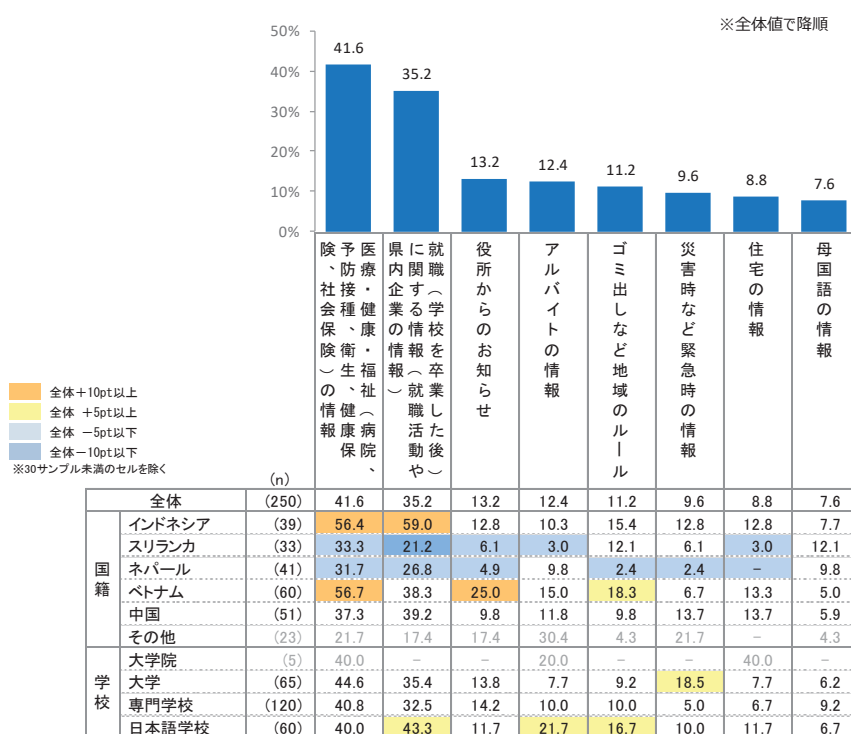
※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 日本の生活と暮らしについて(手に入らない情報)

## ■ 手に入らず困っている情報

- 全体では「医療・健康・福祉の情報」(42%)、「就職に関する情報」(35%)が上位。
  - 国籍別にみると、インドネシア、ベトナムでは「医療・健康・福祉」が5割を超え、特に高い。インドネシアでは「就職に関する情報」も59%があげており、他国を大きく上回る。
  - ベトナムでは「役所からのお知らせ」が25%と、他国に比べて高め。
  - 学校別にみると、大学、専門学校では「医療・健康・福祉の情報」、日本語学校では「就職に関する情報」が最多。日本語学校では「アルバイトの情報」(22%)も大学、専門(各8%、10%)に比べて高い。

Q13. 日本で生活する上で、手に入らなくて困っている情報はありますか。(MA)



# 日本の生活と暮らしについて(苦情を受けた経験について)

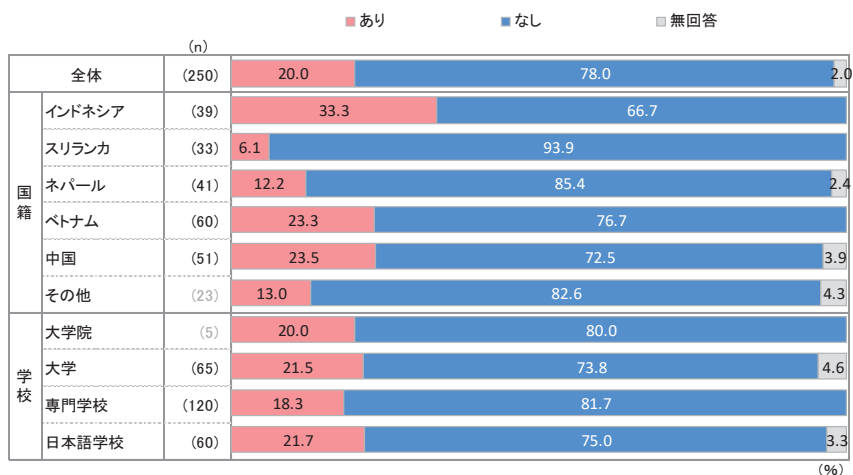
## ■ 住民・大家から苦情を受けた経験

- ・ 全体では経験者が20%。

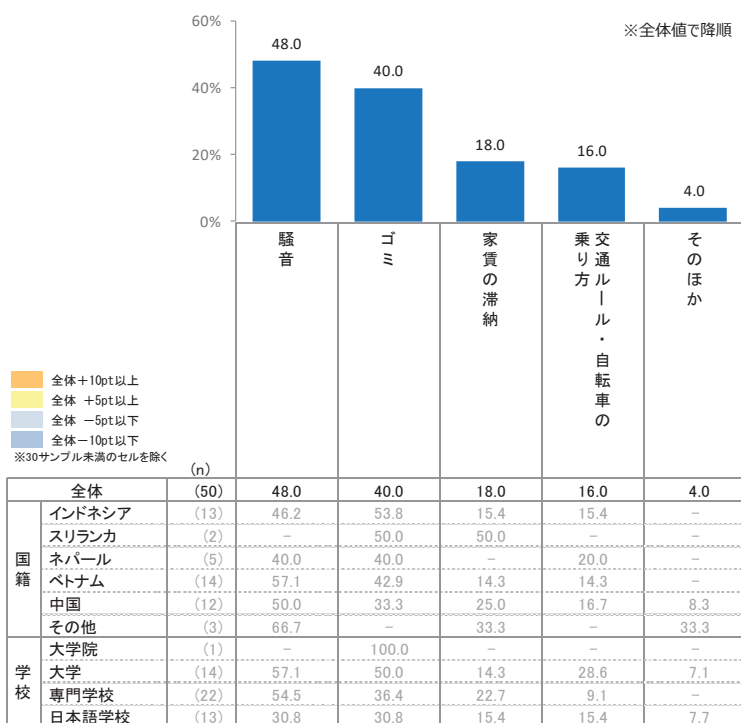
## ■ 受けた苦情の内容

- ・ 経験者が受けた苦情の内容では、「騒音」(48%)、次いで「ゴミ」(40%)が多い。

Q14-1. 住民や大家などから苦情を言われた経験がありますか。(SA)



Q14-2.それはどのような内容でしたか。(MA) <苦情を言われた経験「あり」と回答した者>



# 日本の生活と暮らしについて(困っている・受け入れられないこと)

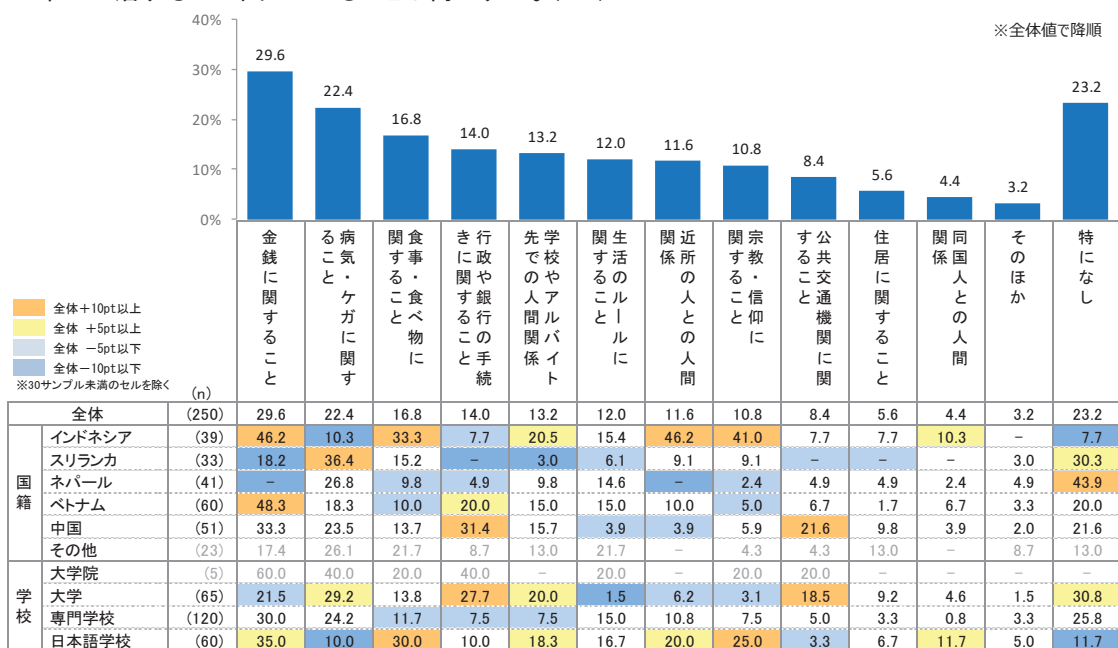
## ■ 生活で困っていること

- 全体では「金銭に関すること」が30%で最多。次いで「病気・ケガに関すること」が22%。
  - インドネシアでは「近所の人との人間関係」「宗教・信仰に関すること」がともに4割を超え、上位にあがる。
  - スリランカ、ネパールでは「病気・ケガに関すること」が最多。また、「特になし」の割合が比較的高い。

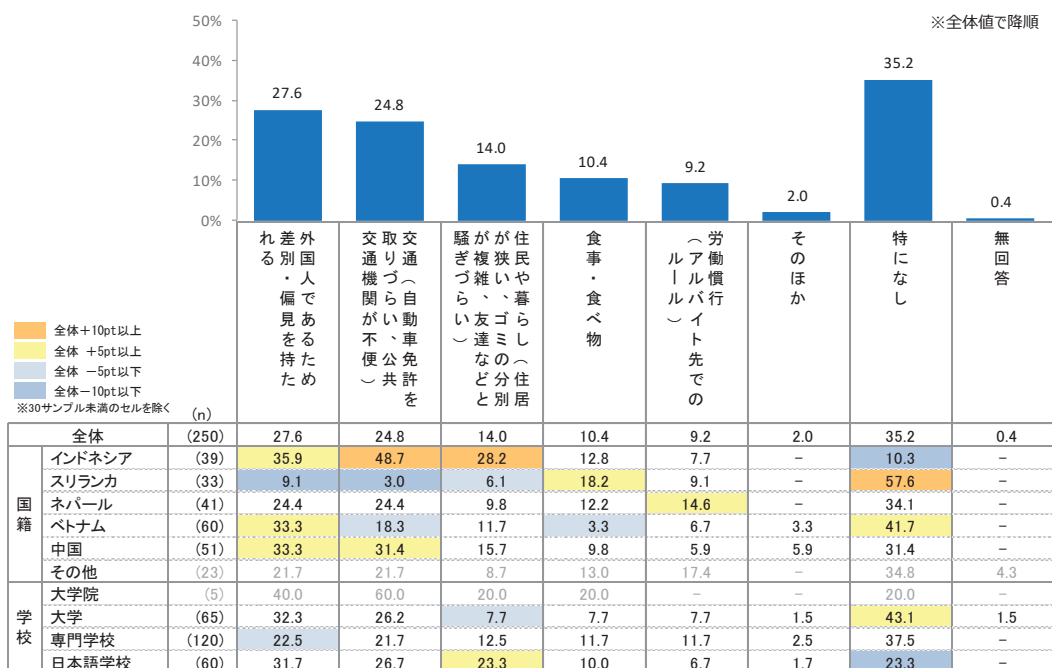
## ■ 生活する上で受け入れられないこと

- 全体では「外国人であるため差別・偏見を持たれる」「交通」が各2割台で上位。
  - 国籍別にみると、インドネシアでは他国に比べて「交通」(49%)が多くあがる。

Q15. 日本で生活する上で困っていることは何ですか。(MA)



Q16. 日本で生活する上で受け入れられないことは何ですか。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# アルバイトの状況(日本でのアルバイト経験と探し方)

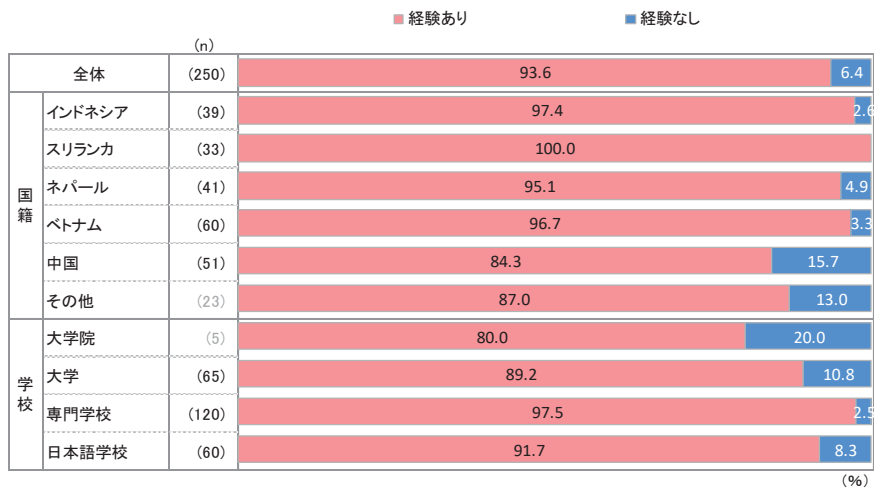
## ■ 日本でのアルバイト経験

- 全体では「経験あり」が94%を占める。
  - 国籍別に経験者の割合をみると、中国(84%)のほかは各層ともに95%以上。

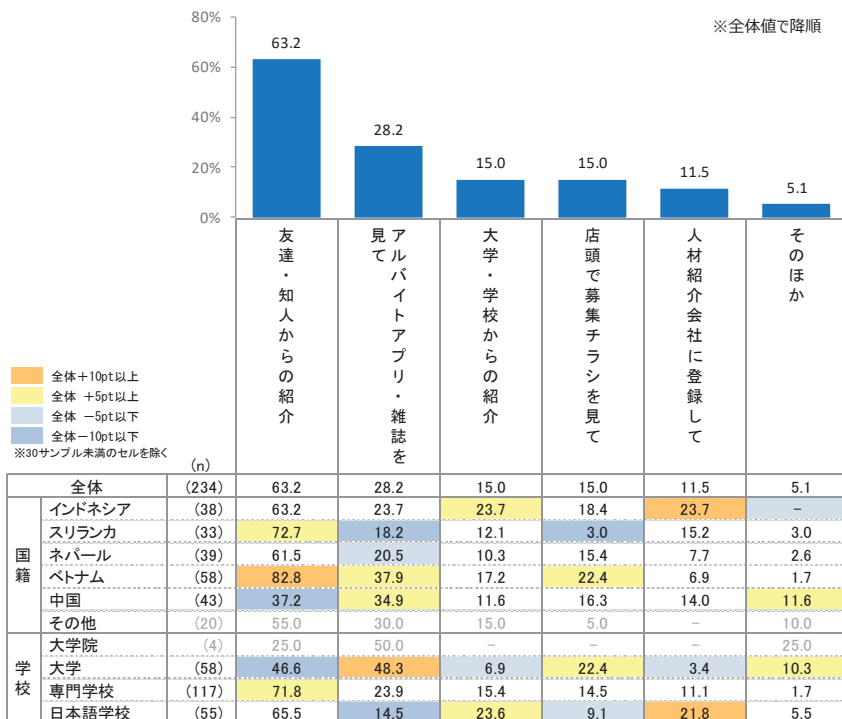
## ■ アルバイト先の探し方

- 全体では「友達・知人からの紹介」が63%で最多。次いで「アルバイトアプリ・雑誌」が28%。
  - 国籍別にみると、中国では「友達・知人からの紹介」が3割台にとどまり、他国に比べて低い。
  - 「アルバイトアプリ」の利用率はベトナム(38%)、次いで中国(35%)が高い。
  - 学校別にみると、専門学校、日本語学校では「友達・知人からの紹介」が6~7割で最多。大学では「アルバイトアプリ・雑誌」(48%)、「友達・知人からの紹介」(47%)が同程度となっている。

Q17-1. あなたは日本でアルバイトの経験がありますか。(SA)



Q17-2. アルバイト先の探し方をお答えください。(MA) <日本でのアルバイト「経験あり」と回答した者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。



# アルバイトの状況(アルバイトをする理由／業種)

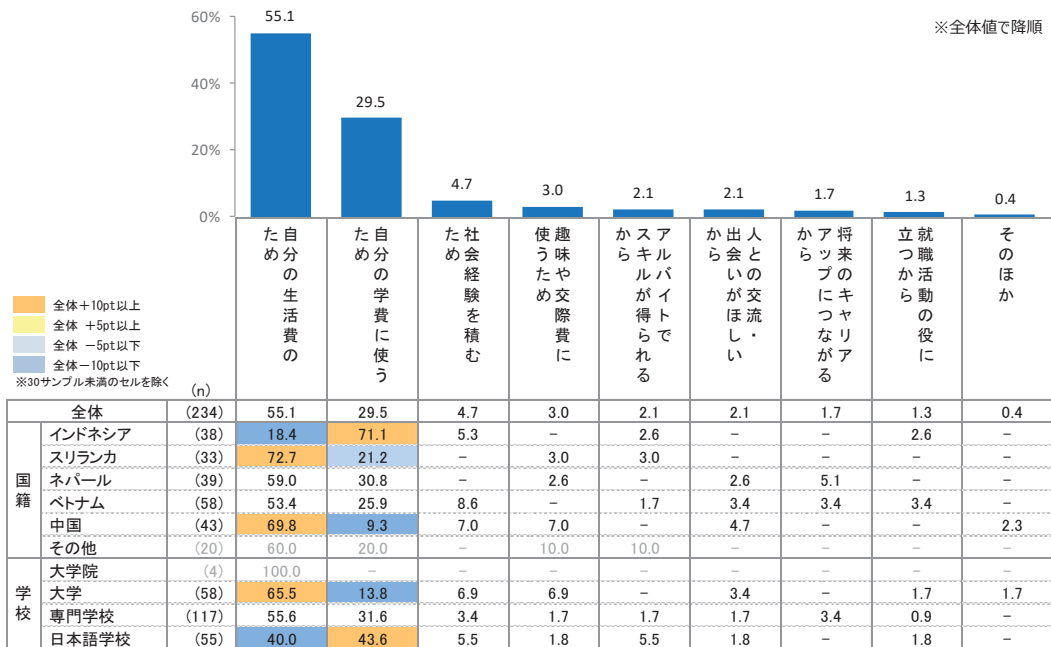
## ■ アルバイトをする理由

- ・ 全体では「自分の生活費のため」が55%で最多。次いで「自分の学費に使うため」が30%。
  - 国籍別にみると、インドネシアでは「生活費」が2割弱にとどまり、「学費」が7割で最多となっている。
  - 学校別にみると、日本語学校>専門学校>大学の順で「学費」の比重が高まる傾向。

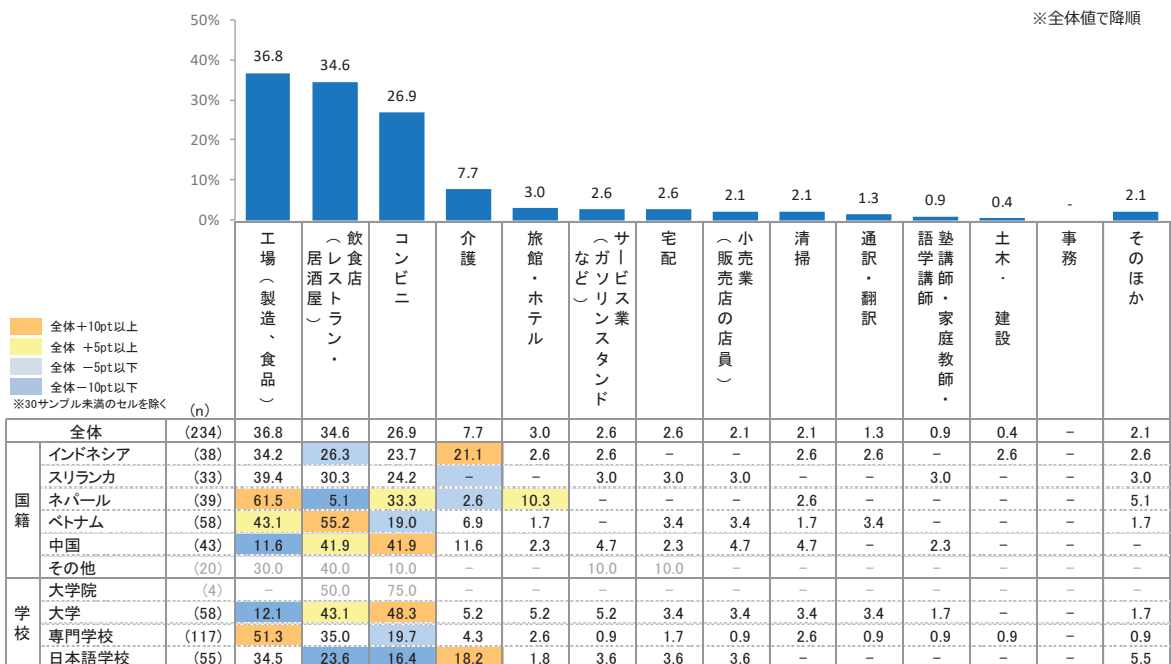
## ■ アルバイトの業種

- ・ 全体では「工場」(37%)、「飲食店」(35%)、「コンビニ」(27%)が上位。
  - ネパールでは「工場」、ベトナムでは「飲食店」が5~6割と特に高い。「コンビニ」は中国で多くあがる。
  - 学校別にみると大学では「コンビニ」、専門学校、日本語学校では「工場」が最多となっている。

Q17-3. アルバイトをする一番の理由を教えてください。(SA) <日本でのアルバイト「経験あり」と回答した者>



Q18. アルバイトの業種をお答えください。(MA) <日本でのアルバイト「経験あり」と回答した者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# アルバイトの状況(アルバイトの時給／稼働時間)

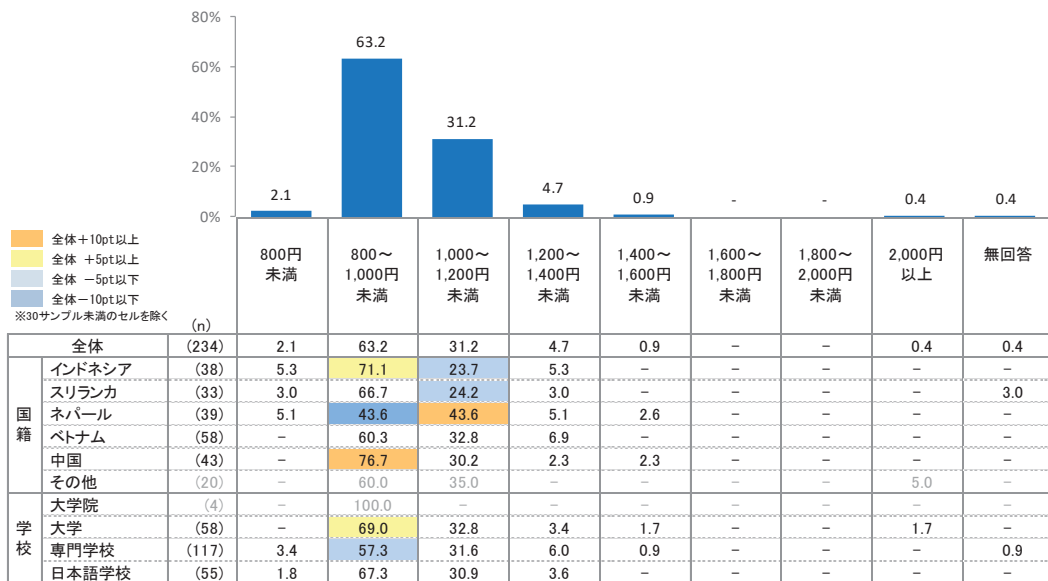
## ■ アルバイトの時給

- 全体では「800～1,000円未満」が63%で最多。次いで「1,000～1,200円未満」が31%。
  - 国籍別にみると、ネパールでは「1,000～1,200円未満」が4割を超え、他国に比べて高い。

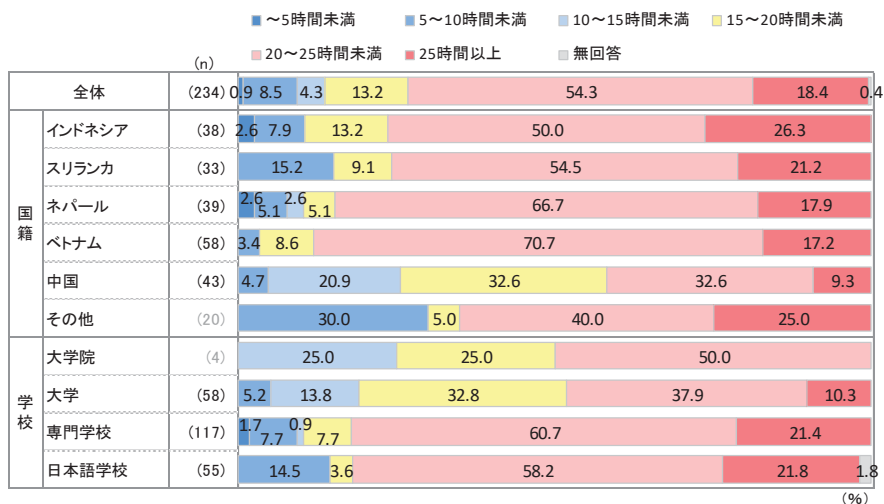
## ■ アルバイト時間(1週間あたり)

- 「20～25時間未満」が54%で最多。次いで「25時間以上」が18%。
  - 国籍別では中国、学校別では大学で「15～20時間未満」がともに3割を超え、他の層に比べて高い。

Q19. アルバイトの時給をお答えください。(MA) <日本でのアルバイト「経験あり」と回答した者>



Q20. 1週間あたりのアルバイト時間をお答えください。(SA) <日本でのアルバイト「経験あり」と回答した者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 住居について(住まいを探す方法／住まいの種類)

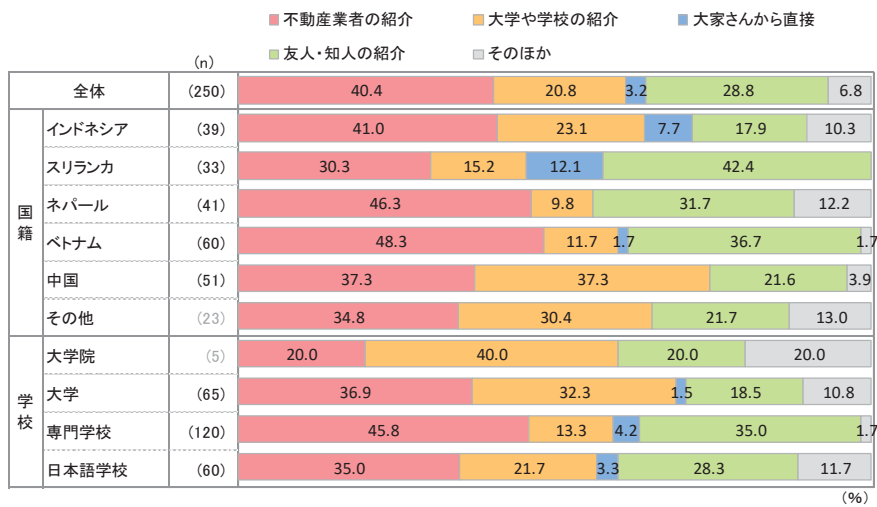
## ■ 住まいの探し方

- 全体では「不動産業者の紹介」が4割、「友人・知人の紹介」が3割、「大学や学校の紹介」が2割。
  - 国籍別にみると、ベトナム、ネパールでは「不動産業者からの紹介」が半数近くを占める。
  - スリランカでは「友人・知人の紹介」が4割を超え、最も高い。
  - 中国では「大学や学校の紹介」が「不動産業者の紹介」と並んで多くあがる。

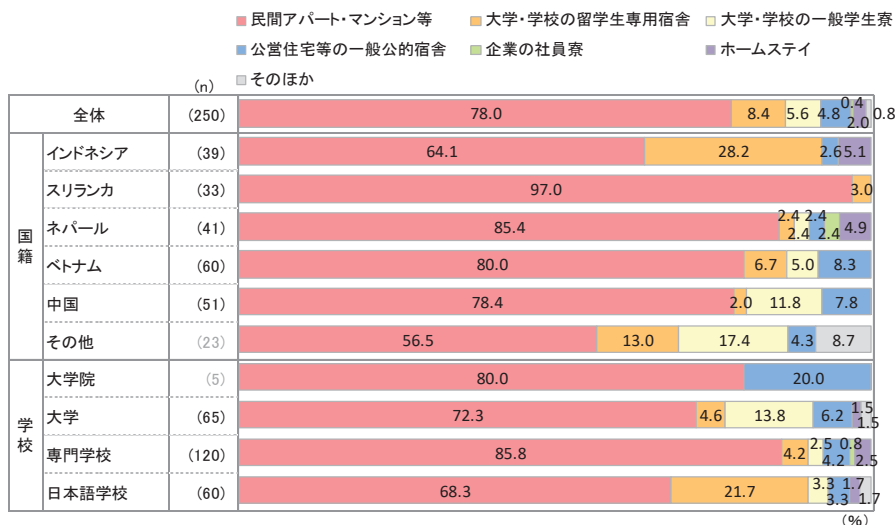
## ■ 住まいの種類

- 全体では「民間アパート・マンション等」が78%を占める。
  - 国籍別にみると、スリランカではほぼ全員が「民間アパート・マンション等」と回答。
  - インドネシアでは「大学・学校の留学生専用宿舎」が約3割と、他国に比べて高い。

Q21. あなたのお住まいは、どのように探しましたか。(SA)



Q22. あなたのお住まいは次のうちどれに当てはまりますか。(SA)

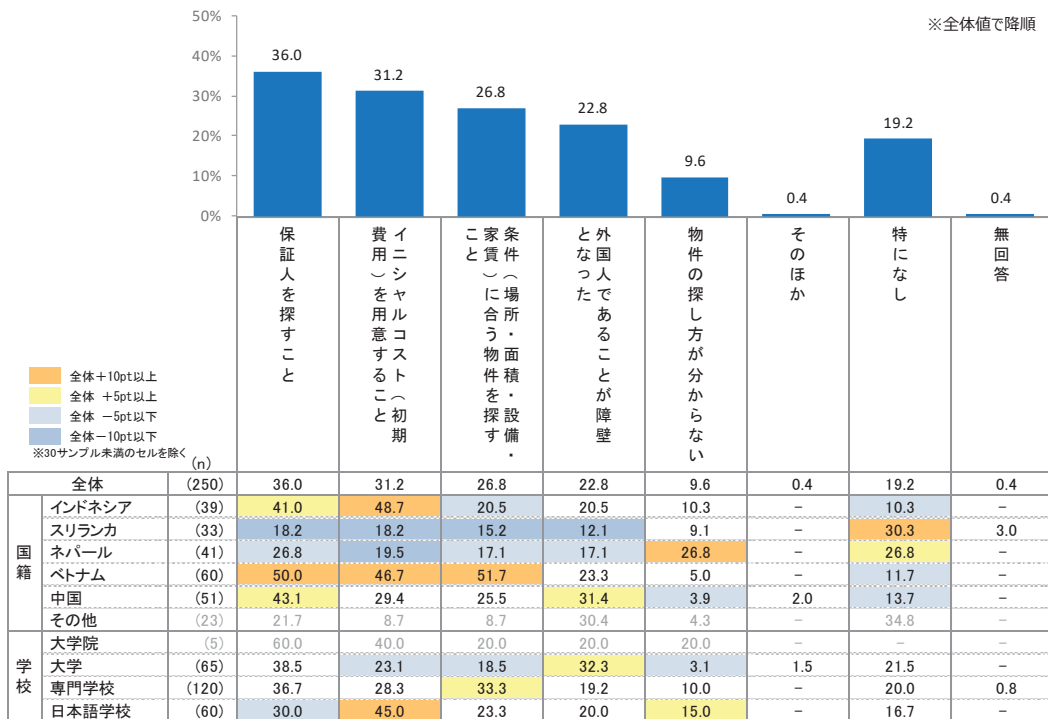


# 住居について(住まいを探す際に困ったこと)

## ■ 住まいを探す際に困ったこと

- 全体では「保証人を探すこと」が36%で最多。次いで「イニシャルコストを用意すること」が31%。
  - 国籍別にみると、ベトナムでは「保証人を探すこと」「イニシャルコスト」「条件に合う物件を探すこと」が、いずれも5割前後と高い。
  - 「保証人を探すこと」はインドネシアと中国、「イニシャルコスト」はインドネシアにおいても各4割台と高め。
  - ネパールでは「物件の探し方が分からない」(27%)が「保証人を探すこと」と並び、困りごとのトップ。
  - 他方、スリランカでは全般的に困りごとをあげる割合が他国と比べて低い。
  - 学校別にみると、日本語学校では「イニシャルコスト」が4割を超え、他の層を大きく上回る。一方、大学では「外国人であることが障壁となった」、専門学校では「条件に合う物件を探すこと」が各3割強と、他の層に比べて高い。

Q23. お住まいを探す際に困ったことをお答えください。(MA)



# 住居について(希望物件を断られた経験)

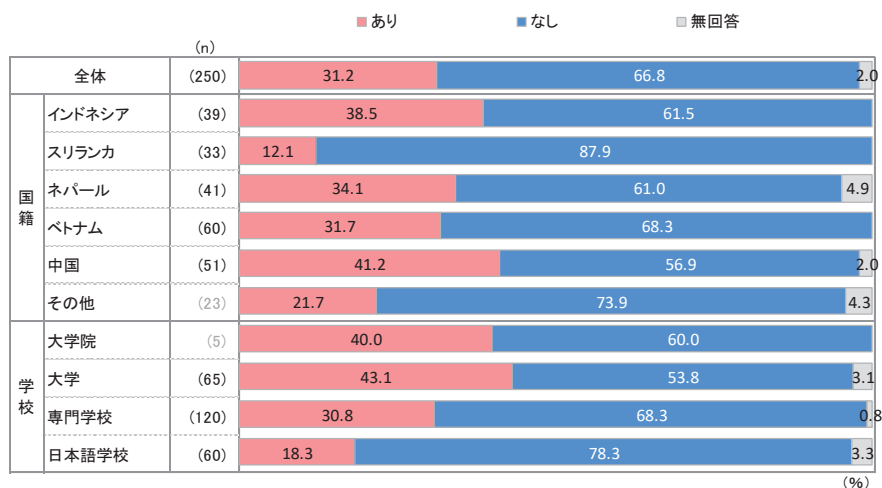
## ■ 希望の物件を断られた経験

- 全体では「あり」が31%。
  - 国籍別に「あり」の割合をみると、中国(41%)、次いでインドネシア(39%)で高い。最も低いのはスリランカで12%。

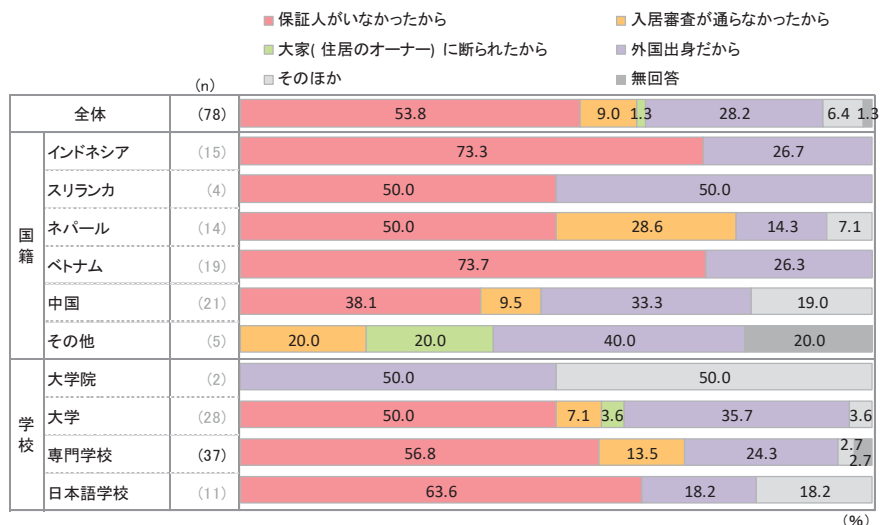
## ■ 断られた主な理由

- 全体では「保証人がいなかったから」が54%で最多。次いで「外国出身だから」が28%。

Q24-1. 入居を希望した物件を断られた経験はありますか。(SA)



Q24-2. 断られた主な理由を一つだけお答えください。(SA) <物件を断られた経験「あり」と回答した者>



# 住居について(同居人数)

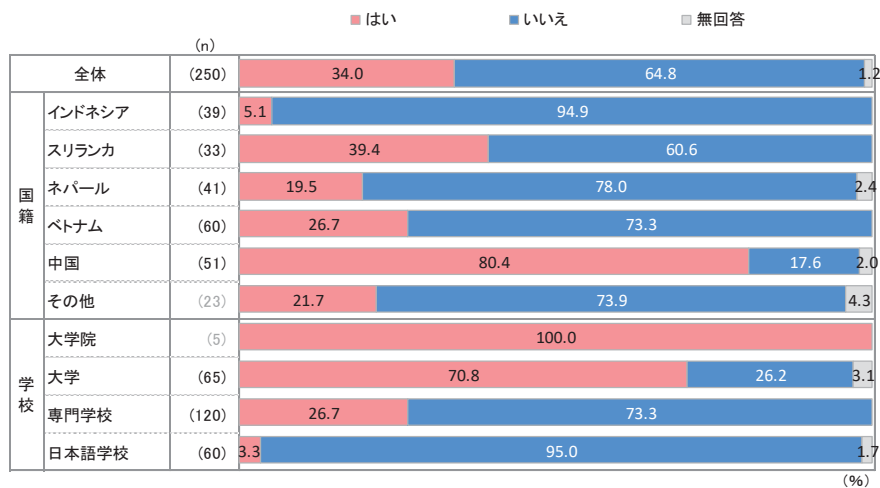
## ■ ひとり暮らしか否か

- ひとり暮らしの割合は全体の34%。
  - 国籍別にみると、中国ではひとり暮らしが80%と圧倒的多数。インドネシア、ネパールでは複数で居住の割合が8~9割程度と高い。
  - 学校別にみると、大学生ではひとり、専門学校、日本語学校では複数での居住が多数を占める。

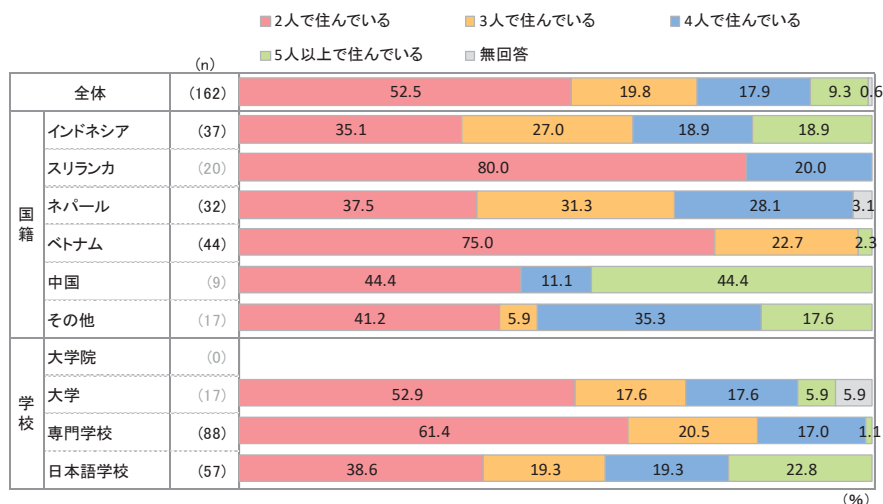
## ■ 同居人の人数

- 全体では「2人」が53%で最多。次いで「3人」「4人」がともに約2割。
  - 参考値を含むが、国籍別では傾向の差が大きく、インドネシア、ネパールでは『3人以上』が各6割程度と高い。

Q25-1. あなたは一人で住んでいますか。(SA)



Q25-2. 何人で住んでいますか。(SA) <2人以上で住んでいると回答した者>



# 住居について(個人で使用できる面積／家賃)

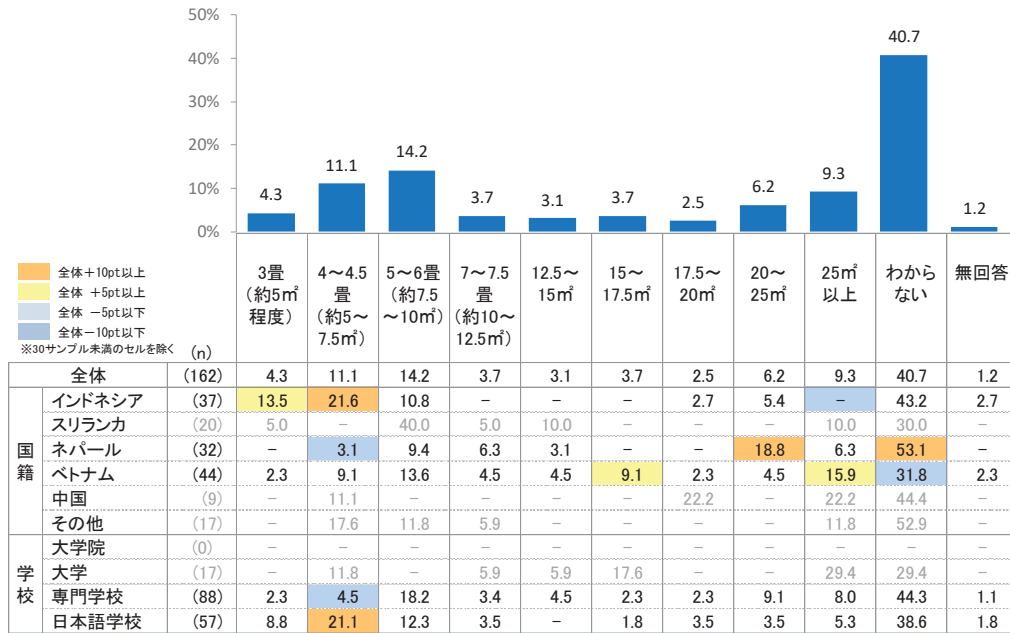
## ■ 個人で使用できる面積

- 全体では「わからない」が4割を占めるが、具体的な回答では「5～6畳」(14%)、「4～4.5畳」(11%)、「25㎡以上」(9%)が比較的多い。

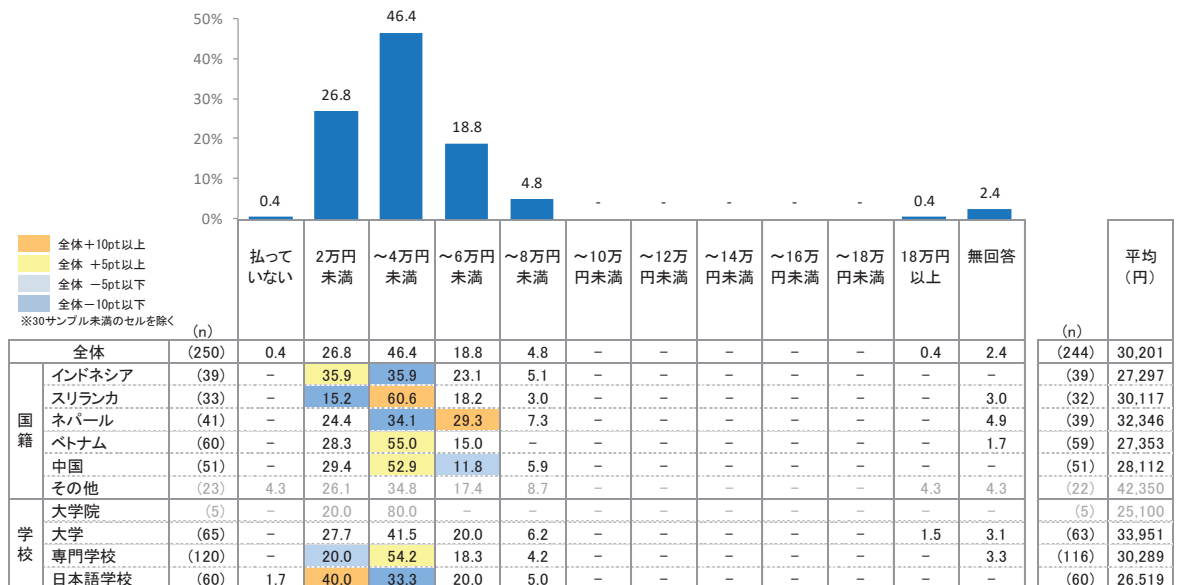
## ■ 1ヶ月分の家賃

- 全体では「2万円～4万円未満」が46%で最多。次いで「2万円未満」が27%、「4万円～6万円未満」が19%。
- 学校別にみると、大学、専門学校では「2万円～4万円未満」、日本語学校では「2万円未満」が最も多い。

Q26. 現在住んでいる部屋の中で、個人で使用できる面積を教えてください。(SA) <2人以上で住んでいると回答した者>



Q27. 現在あなたが払うヶ月分の家賃(光熱水費を除く)を教えてください。





# トラブルや病気への対処(相談相手／公的・医療機関利用時の不安)

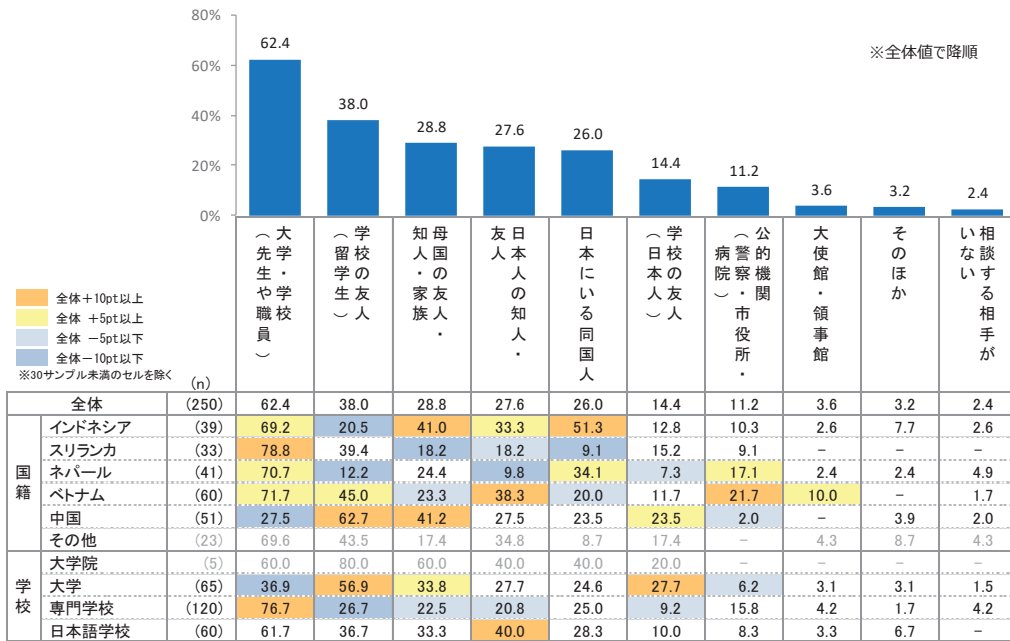
## ■ 困った時の相談相手・機関

- 全体では「大学・学校」が62%で最多。次いで「学校の友人(留学生)」が38%。
  - 国籍別にみると、スリランカで「大学・学校」が約8割と特に高い。
  - 国籍別の中国、学校別の大学では「大学・学校」が2~3割と低く、「学校の友人(留学生)」が多くあがる。

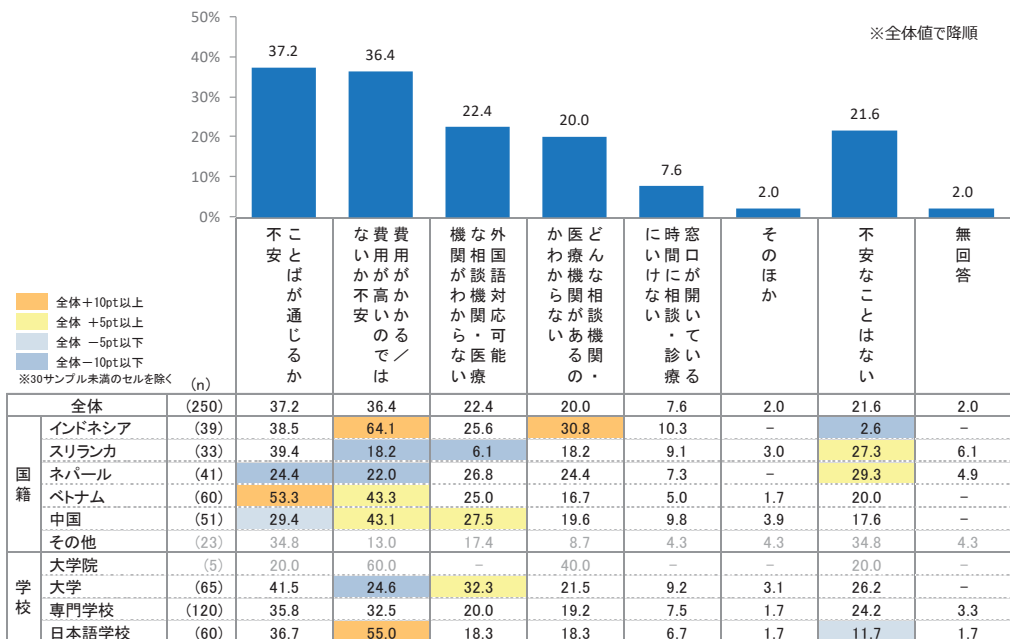
## ■ 公的機関・医療機関の利用時に不安なこと

- 全体では「ことばが通じるか」(37%)、「費用がかかる／高いのではないか」(36%)が上位。
  - インドネシア、中国では「費用」、スリランカ、ベトナムでは「ことばが通じるか」により不安を感じる傾向。
  - 学校別にみると、日本語学校では「費用」が5割と最も高く、他の層との差が大きい。

Q28. 困った時に相談する相手や機関をお答えください。(MA)



Q29. 公的機関・医療機関を利用する際に不安なことをお答えください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# トラブルや病気への対処(日本での受診経験)

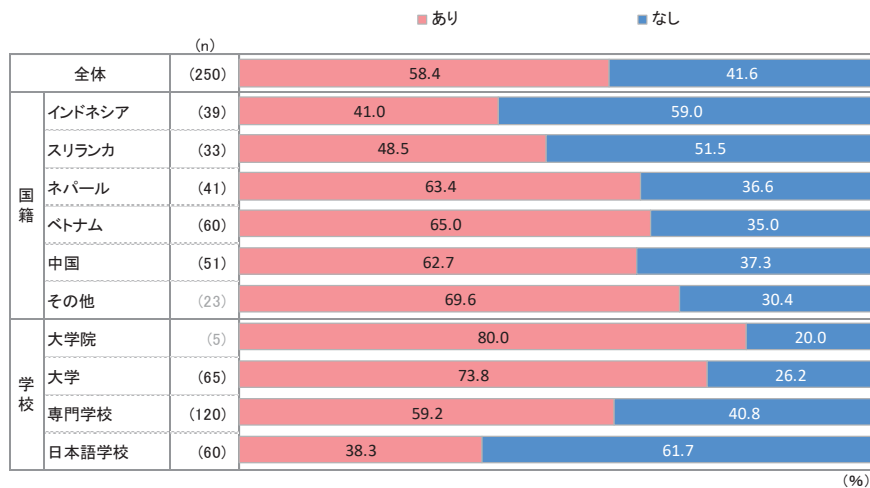
## ■ 日本での病院の受診経験

- 全体では「あり」が58%。
  - ネパール、ベトナム、中国では受診経験者が6割を超えるのに対し、インドネシア、スリランカでは4割台にとどまる。
  - 学校別に経験率をみると、大学(74%)>専門学校(59%)>日本語学校(38%)の順に高い。

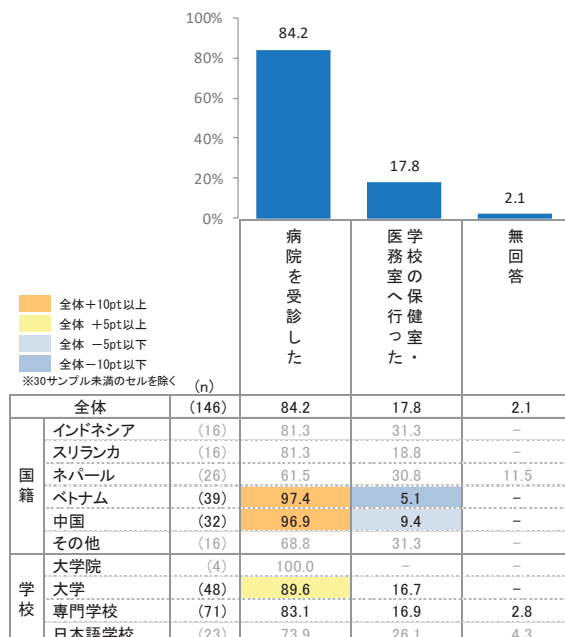
## ■ 受診した場所

- 受診した場所は「病院」が84%。「学校の保健室・医務室」の利用経験者は18%。

Q30-1. 日本で病院を受診したことはありますか。(SA)



Q30-2. それはどこですか。(MA) <受診経験「あり」と回答した者>



# トラブルや病気への対処(非受診理由／公的機関の認知)

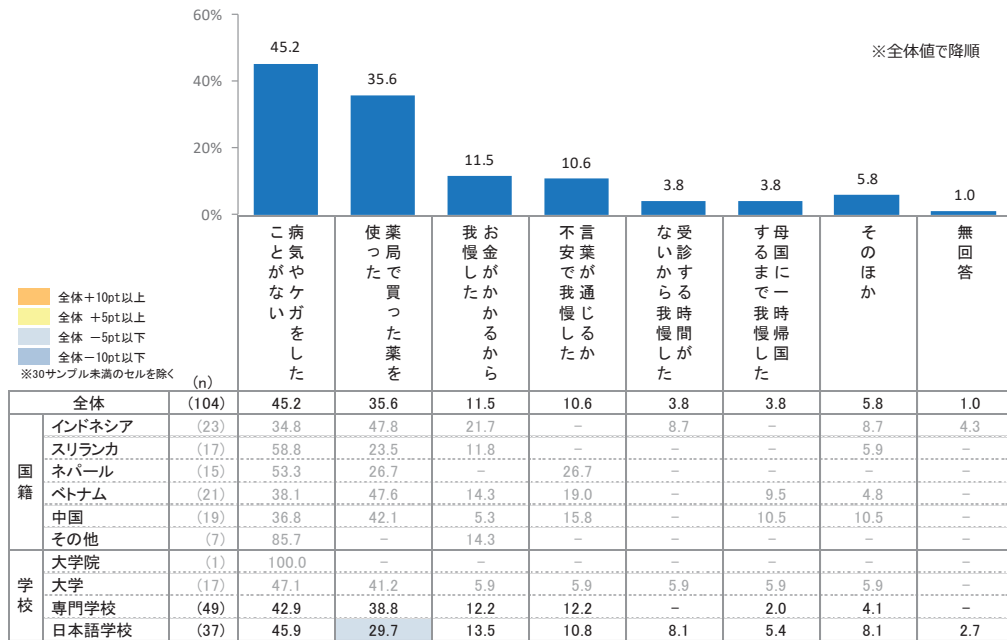
## ■ 受診していない理由

- ・「病気やケガをしたことがない」(45%)、「薬局で買った薬を使った」(36%)が理由の上位。
- ・「お金がかかる」「言葉が通じるか不安」など、経済事情や言語障壁を理由に受診しなかった人は各1割強。

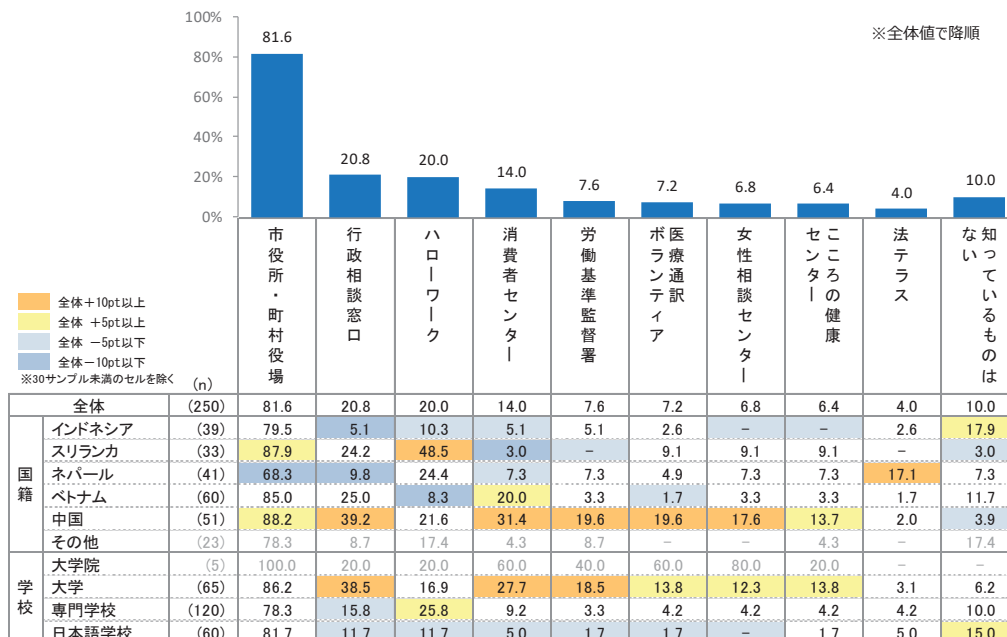
## ■ 公的機関の認知

- ・「市役所・町村役場」が82%と最も高い。続く「行政相談窓口」「ハローワーク」の認知はそれぞれ2割程度。

Q30-3. それはなぜですか。(MA) <受診経験「なし」と回答した者>



Q31. 次の公的機関のうち知っているものに、全て○をつけてください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(卒業後の予定／希望の業務内容)

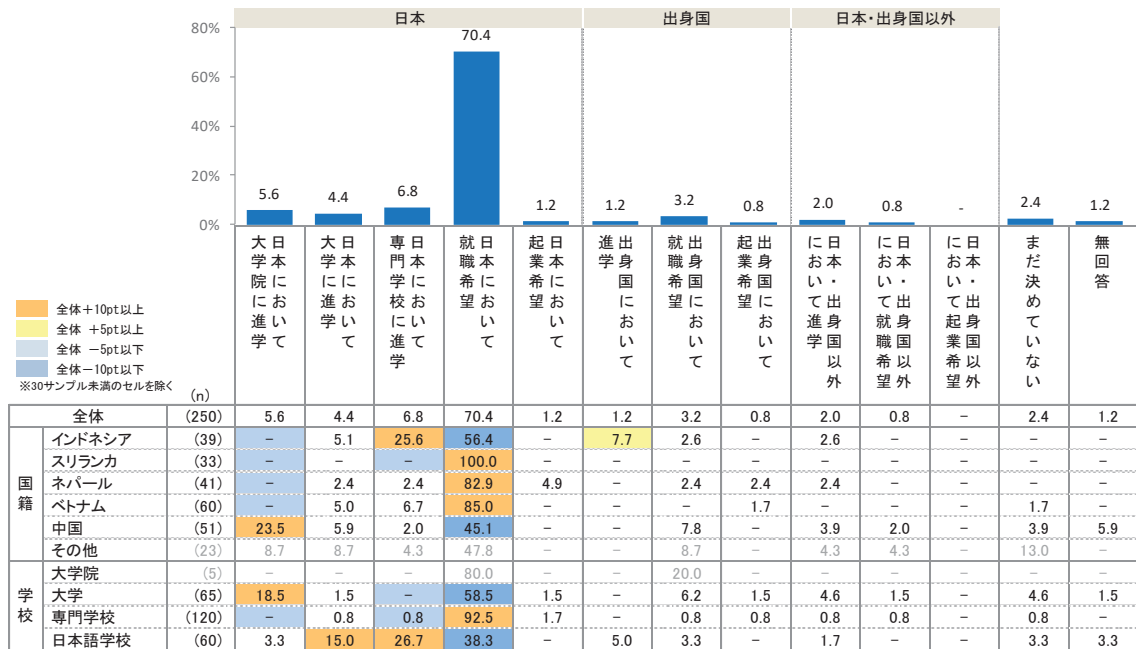
## ■ 卒業後の予定

- 全体では「日本において就職希望」が70%と突出。

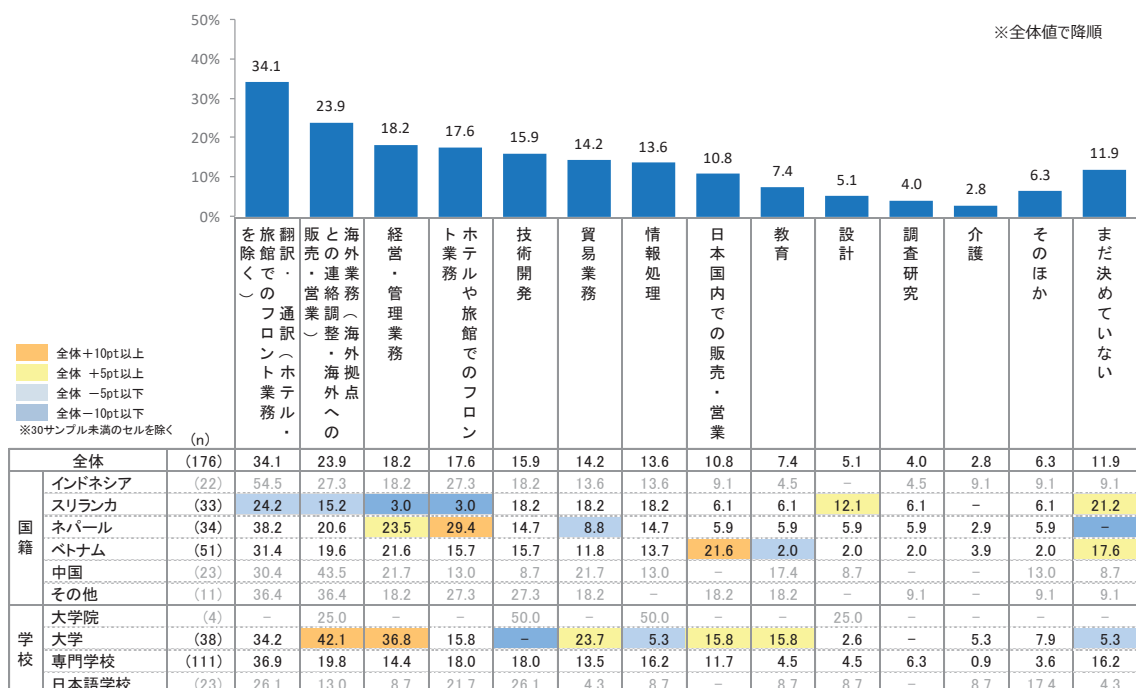
## ■ 希望の業務内容

- 前問で「日本において就職」と回答した人が希望する業種をみると、「翻訳・通訳(ホテル・旅館でのフロント業務を除く)」(34%)、次いで「海外業務(海外拠点との連絡調整・海外への販売・営業)」(24%)が多くあがる。

Q32. あなたの卒業後の予定を教えてください。(SA)



Q33. あなたの希望する業務内容を教えてください。(MA) <日本での就職希望者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(日本で働きたい期間/就活で不安なこと)

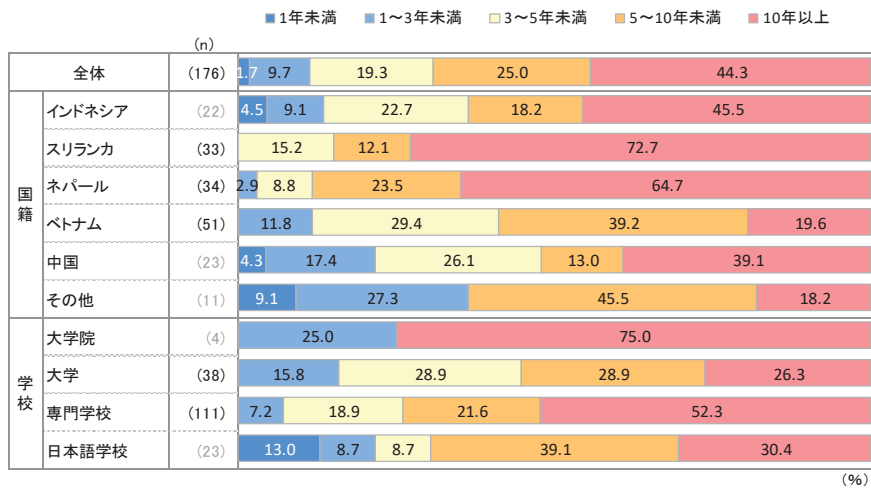
## ■ 日本で働きたいと思う期間

- 日本での就職希望者が働きたいと思う期間は、「10年以上」が44%で最多。「5～10年未満」が25%で続き、『5年以上』がほぼ7割を占める。

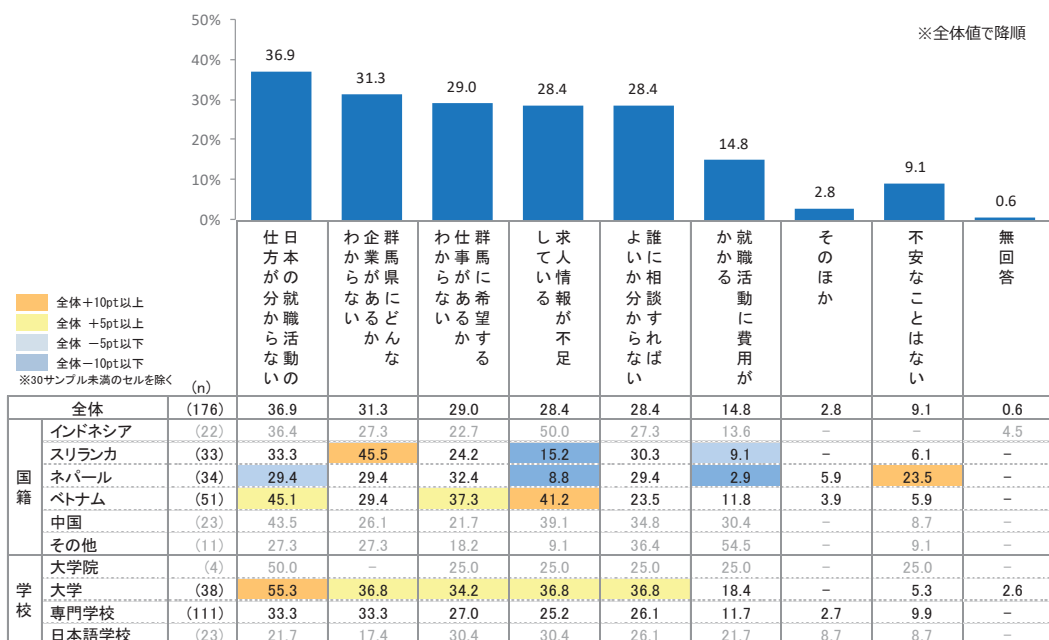
## ■ 就職活動で不安なこと

- 「日本の就職活動の仕方が分からない」(37%)が不安に思うことのトップ。
- 以下、「群馬県にどんな企業があるかわからない」「群馬に希望する仕事があるかわからない」「求人情報が不足している」「誰に相談すればよいか分からない」がそれぞれ3割前後で続く。

Q34. あなたはどのくらいの期間日本で働きたいですか。(SA) <日本での就職希望者>



Q35. 就職活動への不安なことを教えてください。(MA) <日本での就職希望者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(仕事の探し方／相談窓口の認知)

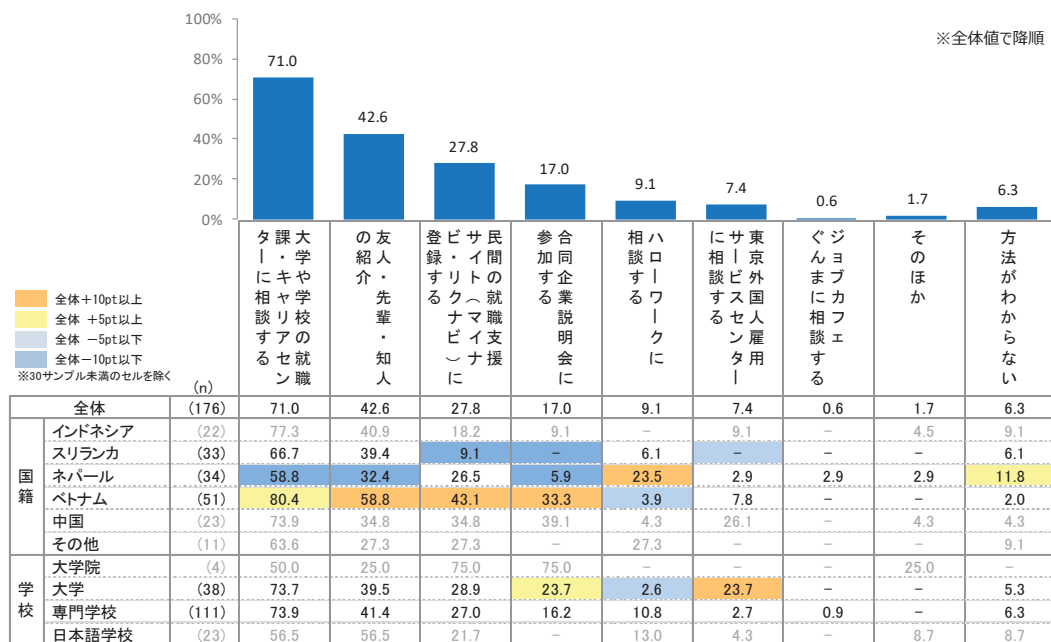
## ■ 仕事を探す際の方法

- 「大学や学校の就職課・キャリアセンターに相談する」が71%で最多。以下、「友人・先輩・知人の紹介」(43%)、「民間の就職支援サイトに登録する」(28%)と続く。

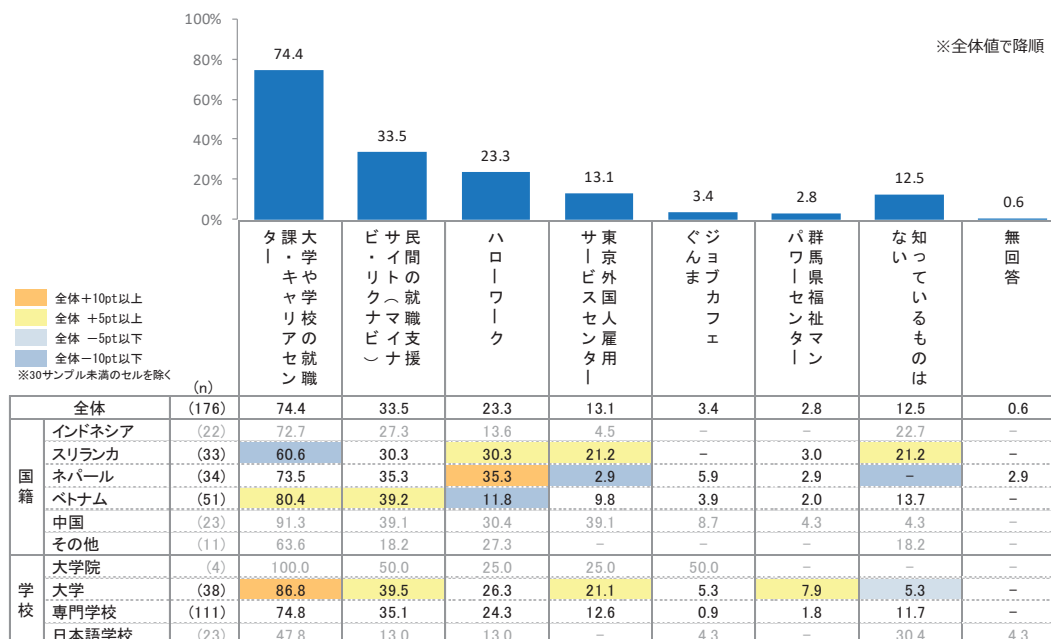
## ■ 就職相談窓口の認知

- 「大学や学校の就職課・キャリアセンター」が74%と最も高い。
- 以下、「民間の就職支援サイト」(34%)、「ハローワーク」(23%)、「東京外国人雇用サービスセンター」(13%)、「ジョブカフェぐんま」「群馬県福祉マンパワーセンター」(各3%)の順。

Q36. 仕事を探す際の方法を教えてください。(MA) <日本での就職希望者>



Q37. あなたの知っている就職相談窓口に、全て○をつけてください。(MA) <日本での就職希望者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(選ぶ際の重視点/就活開始時期)

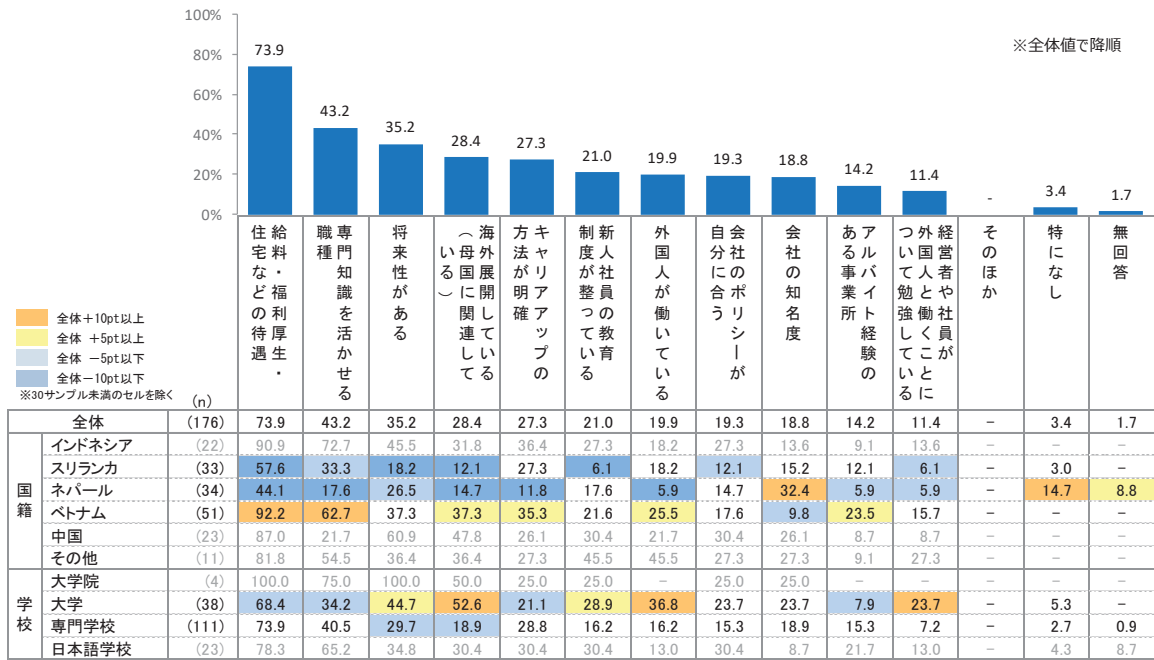
## ■ 就職先を選ぶ際の重視点

- ・ 「給料・福利厚生・住宅などの待遇」が74%で最多。次いで「専門知識を活かせる職種」が43%、「将来性がある」が35%。

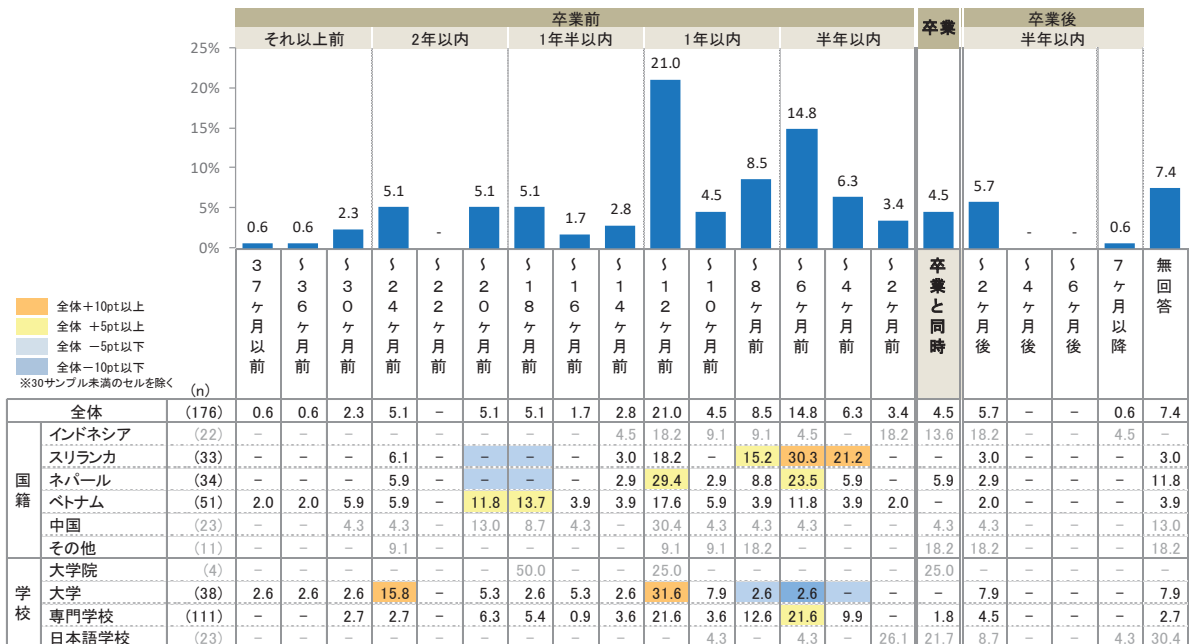
## ■ 就職活動開始のタイミング

- ・ 「卒業の12ヶ月前」が最も多く、就職希望者の21%。次いで高いのが「卒業の6ヶ月前」で15%。
- ・ 卒業前の1年間に活動を始める人が約6割を占める。1年以上前から始める人は2割強。

Q38. あなたが就職先を選ぶ際に重視することをお答えください。(MA) <日本での就職希望者>



Q39. 卒業年月を起点とした就職活動の開始時期 <日本での就職希望者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。



# 卒業後の進路について(心配ごと／希望する地域)

## ■ 日本で働く上での心配ごと・受け入れ難いルール

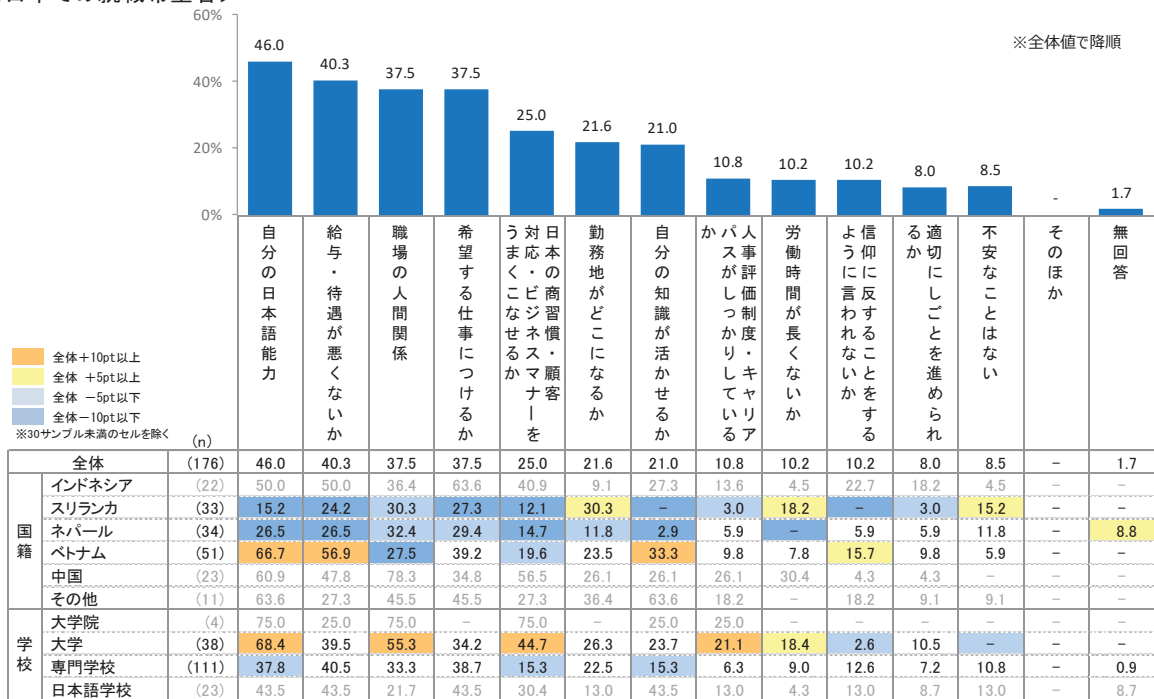
- ・「自分の日本語能力」が46%で最多。以下、「給与・待遇が悪くないか」(40%)、「職場の人間関係」「希望する仕事につけるか」(各38%)と続く。

## ■ 就職先として希望する地域

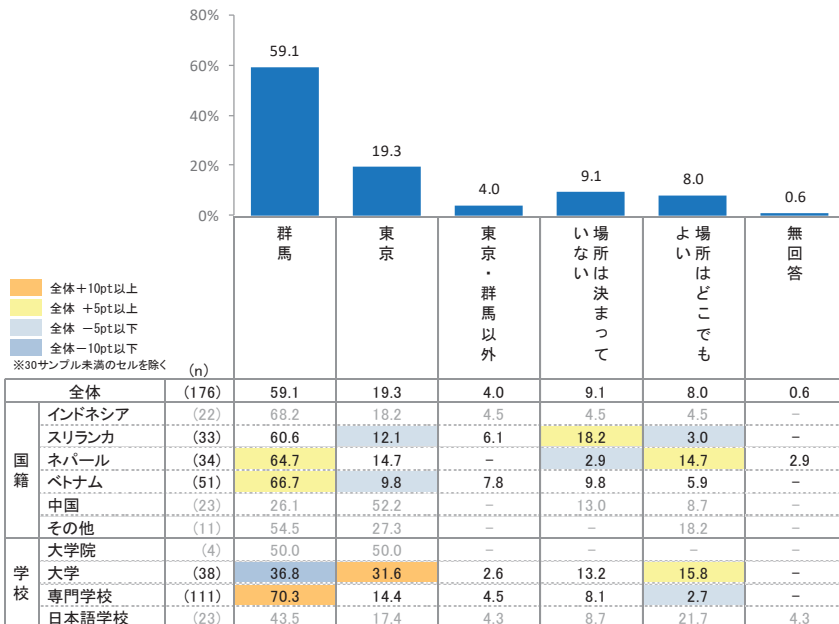
- ・「群馬」が59%と最も高く、「東京」(19%)、「東京・群馬以外」(4%)を大きく上回る。

Q40. 日本で働く上で、心配していること・受け入れることが難しいルールを教えてください。(MA)

<日本での就職希望者>



Q41. 就職希望場所(第1希望)をひとつだけお答えください。(SA) <日本での就職希望者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(群馬県希望理由／就労で不安なこと)

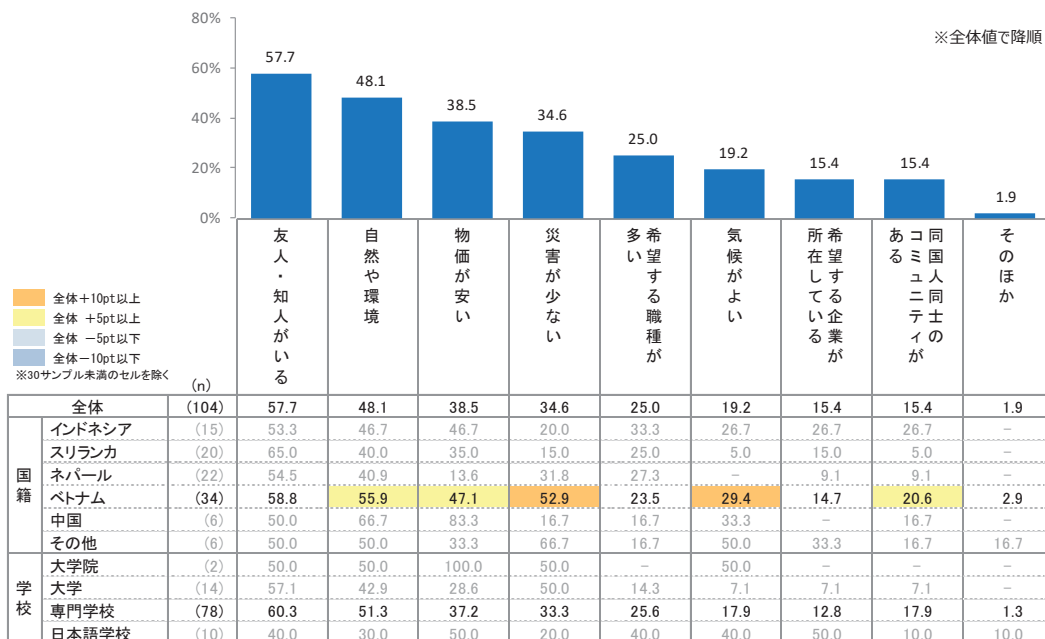
## ■ 群馬県を希望する理由<群馬県での就職希望者>

- ・「友人・知人がいる」が58%で最多。以下、「自然や環境」(48%)、「物価が安い」(39%)、「災害が少ない」(35%)と続く。

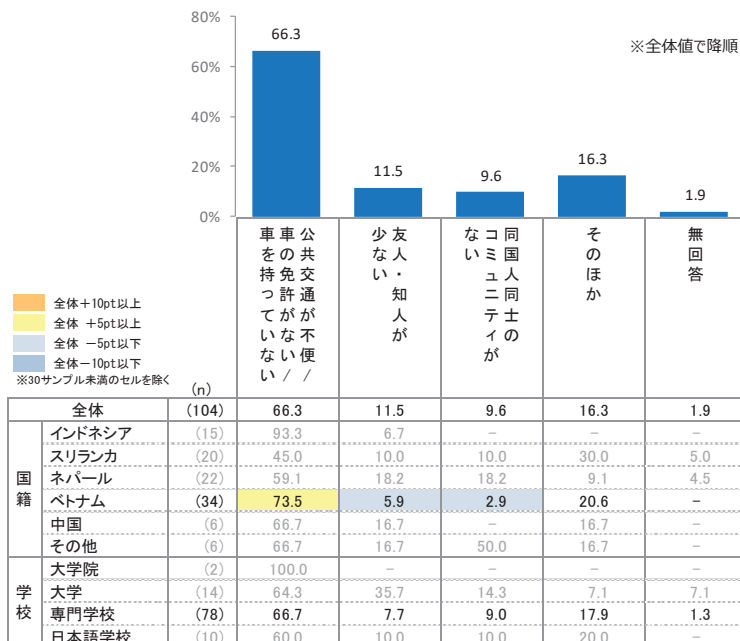
## ■ 群馬県で就労する上で不安なこと<群馬県での就職希望者>

- ・「公共交通が不便/車の免許がない/車を持っていない」が66%と突出。以下、「友人・知人が少ない」が12%、「同国人同士のコミュニティがない」が10%。

Q42-1. 群馬県を就労場所として希望する理由をお答えください。(MA) <就職希望場所で群馬県選択者>



Q42-2. 群馬県で就労する上で、不安なおことをお答えください。(MA) <就職希望場所で群馬県選択者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 卒業後の進路について(群馬県を希望しない理由)

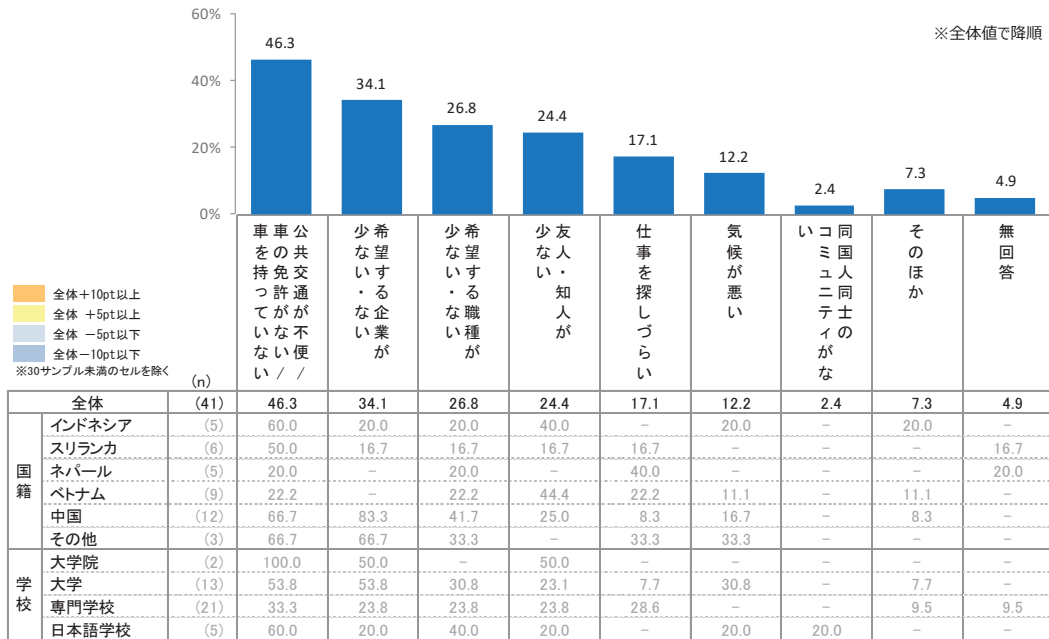
## ■ 群馬県を希望しない理由<群馬県での就職非希望者>

- ・「公共交通が不便/車の免許がない/車を持っていない」が46%で最多。以下、「希望する企業が少ない・ない」(34%)、「希望する職種が少ない・ない」(27%)、「友人・知人が少ない」(24%)と続く。

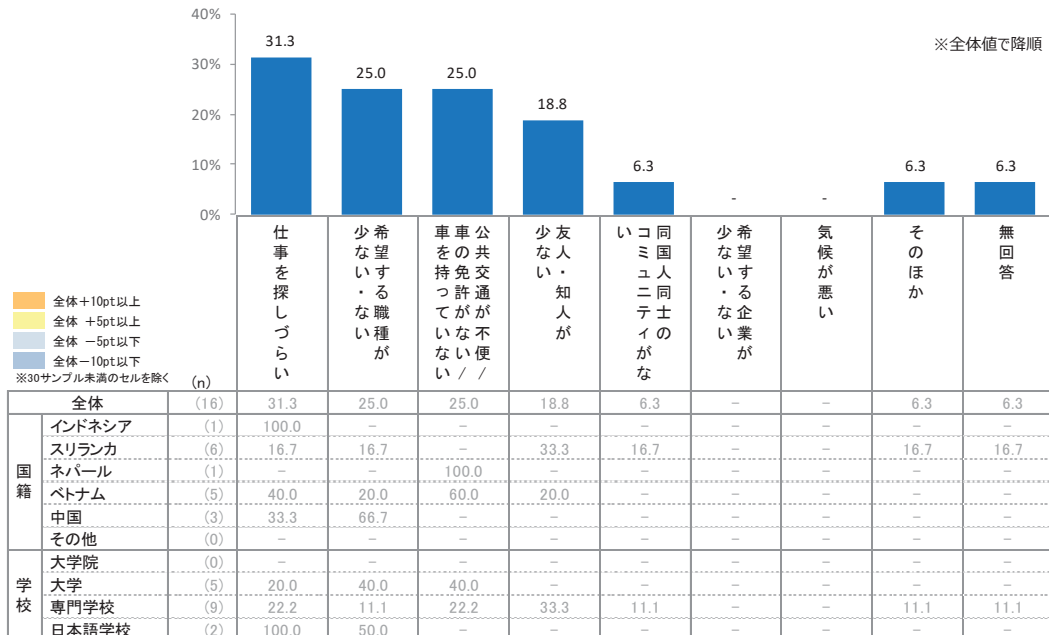
## ■ 群馬県で就労する上で不安なこと<希望場所未定者>

- ・小サンプルのため参考値だが、「仕事を探しづらい」(31%)、「希望する職種が少ない・ない」「公共交通が不便/車の免許がない/車を持っていない」(各25%)が理由の上位。

Q43-1. 群馬県を就労場所として希望しない理由をお答えください。(MA) <就職希望場所で群馬県以外選択者>



Q44. 群馬県を就労場所とする場合、不安なことをお答えください。(MA) <就職希望場所未定の者>



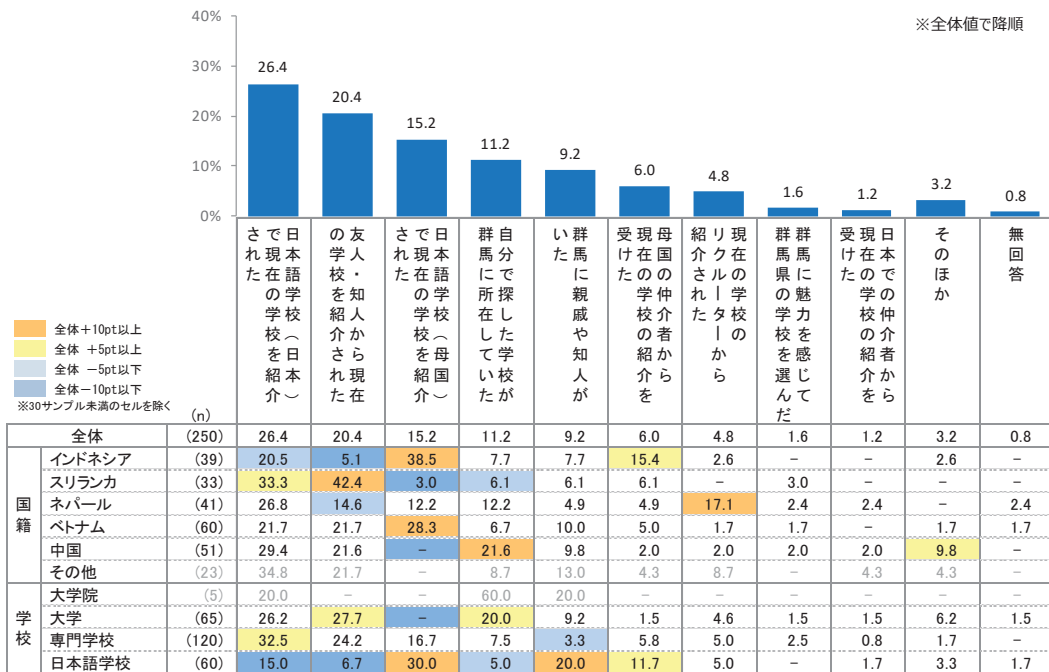
※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 地域の魅力について(県内就学理由)

## ■ 群馬県で就学した一番の理由

- ・ 「日本語学校(日本)で現在の学校を紹介された」が26%で最多。次いで「友人・知人から現在の学校を紹介された」が20%。
  - 国籍別にみると、インドネシア、ベトナムでは「日本語学校(母国)で現在の学校を紹介された」、スリランカでは「友人・知人から現在の学校を紹介された」が理由のトップ。
  - ネパールでは「現在の学校のリクルーターから紹介された」が17%と、他国に比べて高い。
  - 学校別にみると、日本語学校では「日本語学校(母国)で現在の学校を紹介された」「群馬に親戚や知人がいた」が理由の上位。

Q45. 群馬で就学している一番の理由をお答えください。(SA)

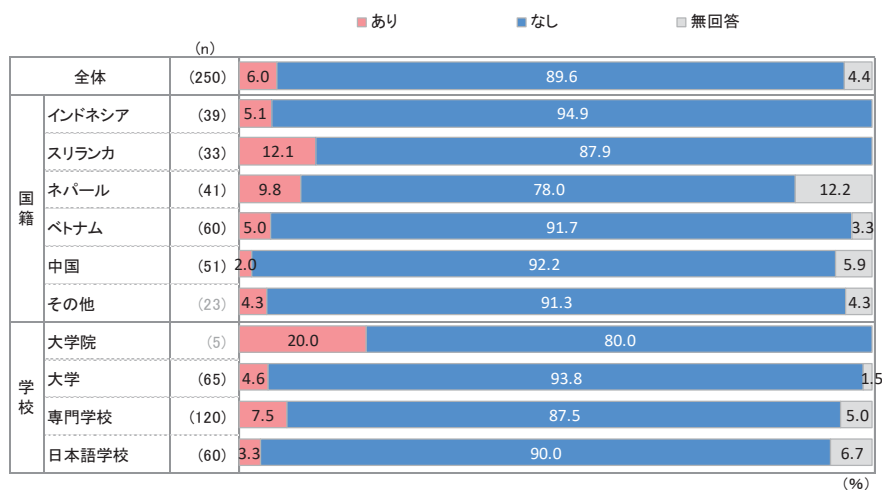


# 地域の魅力について(外国人コミュニティの有無)

## ■ 知っている・所属している外国人コミュニティの有無

- 全体では「あり」が6%。
  - 国籍別で「あり」が最も高いのはスリランカで12%。次いでネパールが10%。

Q46-1. 群馬県内で知っている/所属している外国人コミュニティがありますか。(SA)



# 地域の魅力について(群馬県の名物)

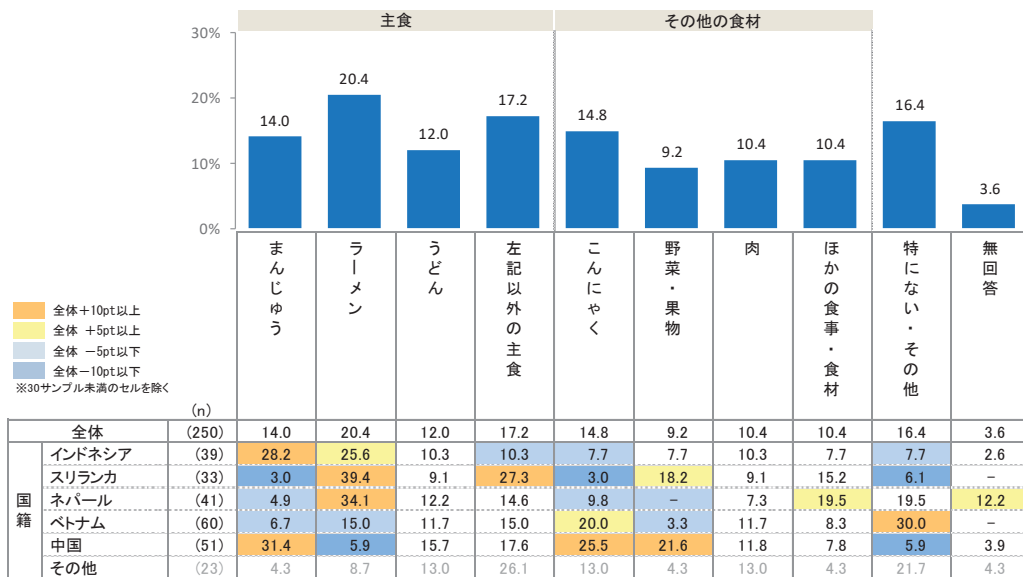
## ■ おすすめの群馬の食事・食材

- 全体では「ラーメン」(20%)が最多。以下、「ラーメン・うどん以外の主食」(17%)、「こんにやく」(15%)など。
- 国籍別にみると、スリランカ、ネパールでは「ラーメン」、インドネシア、中国では「まんじゅう」、ベトナムでは「こんにやく」がトップ。「野菜・果物」は中国、スリランカで比較的多くあげられている。

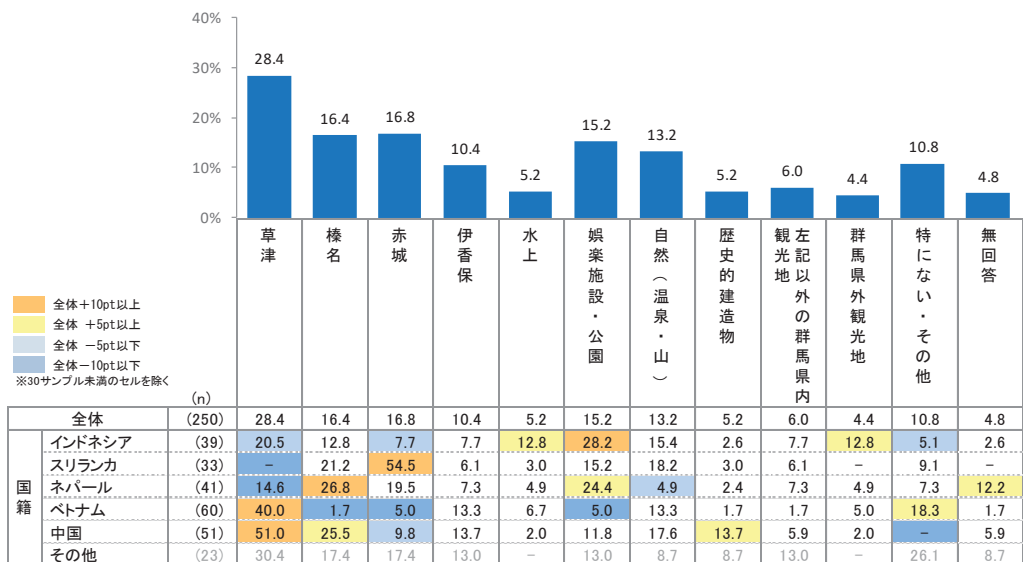
## ■ おすすめの群馬の観光地

- 全体では「草津」が28%でトップ。以下、「赤城」(17%)、「榛名」(16%)、「娯楽施設・公園」(15%)など。
- スリランカでは「赤城」、ベトナム、中国では「草津」が4~5割台と高い。インドネシアでは「娯楽施設・公園」、ネパールでは「榛名」が最多となっている。

Q47. おすすめの群馬の食事・食材をお答えください。(自由回答)



Q48. おすすめの群馬の観光地をお答えください。(自由回答)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 留学生在籍校に関する調査 結果詳細





# 基本情報(学校種別／在籍人数／留学生の学内ネットワークの有無)

## ■ 学校種別

- ・ 「大学院・大学」が47%で最多。「専門学校」と「日本語学校」が各27%。

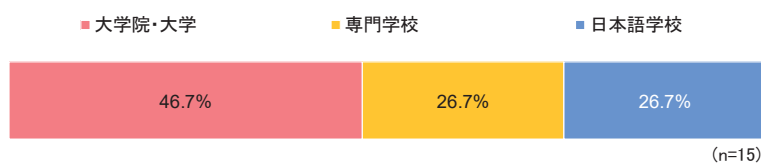
## ■ 在籍留学生の人数

- ・ 「30～50人」、「101～150人」、「201人以上」が各27%と同列で、次いで「～30人未満」が20%と続く。

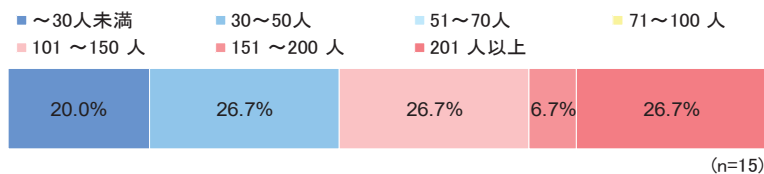
## ■ 留学生の学内ネットワーク有無

- ・ 「ない／把握していない」が67%を占める。「ある」との回答では「国別ネットワーク」が20%で、「国を問わないネットワーク」(13%)に比べて多い。

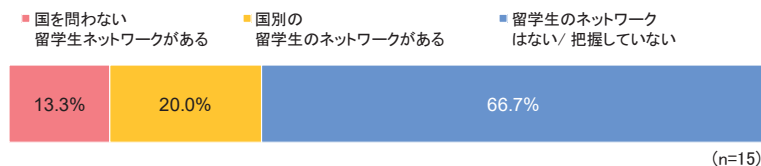
Q1. 学校の種類についてお答えください。(SA)



Q2. 貴校に在籍している留学生の人数をお答えください。(SA)



Q3. 公認・非公認を問わず、学内に留学生同士のネットワークはありますか。(SA)



# 基本情報(留学生受け入れ傾向／受け入れで困っていること)

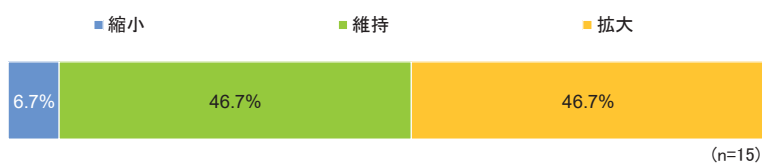
## ■ 今後の留学生受け入れ意向

- ・「維持」と「拡大」がそれぞれ47%で、両者を併せて9割以上。「縮小」は7%。

## ■ 留学生の受入全般で困っていること

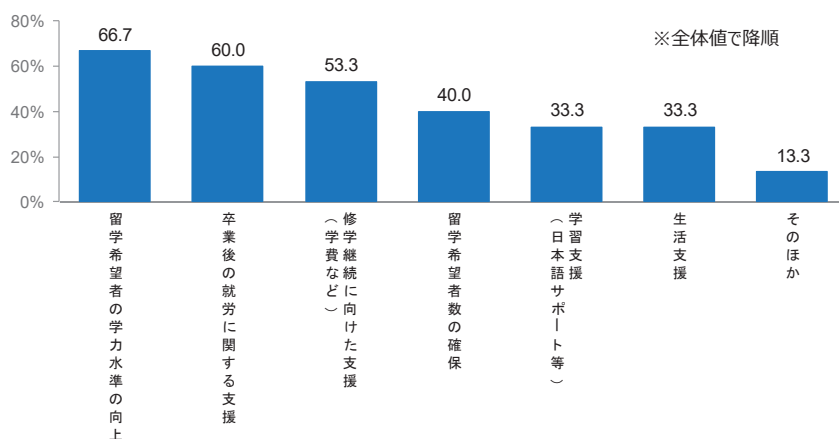
- ・「留学希望者の学力水準の向上」が67%で最多。以下、「卒業後の就労に関する支援」が60%、「修学継続に向けた支援」が53%で続く。

Q4. 今後の留学生受け入れの意向についてお答えください。(SA)



Q5. 留学生の受入全般に関して困っていることはありますか。(MA)

(n=15)



# 在籍する留学生について(奨学金の受給状況と情報提供)

## ■ 受給奨学金の種類

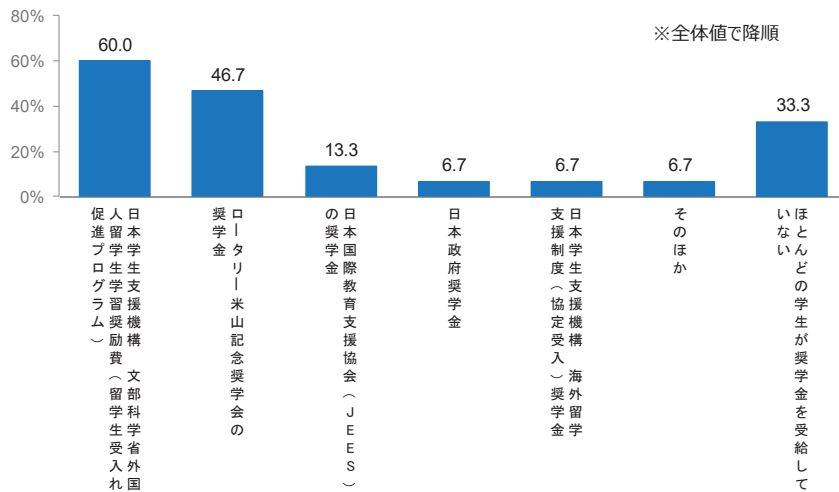
- 「日本学生支援機構 文部科学省外国人留学生学習奨励費」(60%)、次いで「ロータリー米山記念奨学会の奨学金」(47%)が多い。他方、「ほとんどの学生が受給していない」も3割強みられる。

## ■ 奨学金情報の提供状況

- 「提供し、手続きの援助を行っている」が47%で最多。以下、「提供しているが、手続きの援助は行っていない」「提供しておらず、手続きの援助をしていない」が各20%で続く。

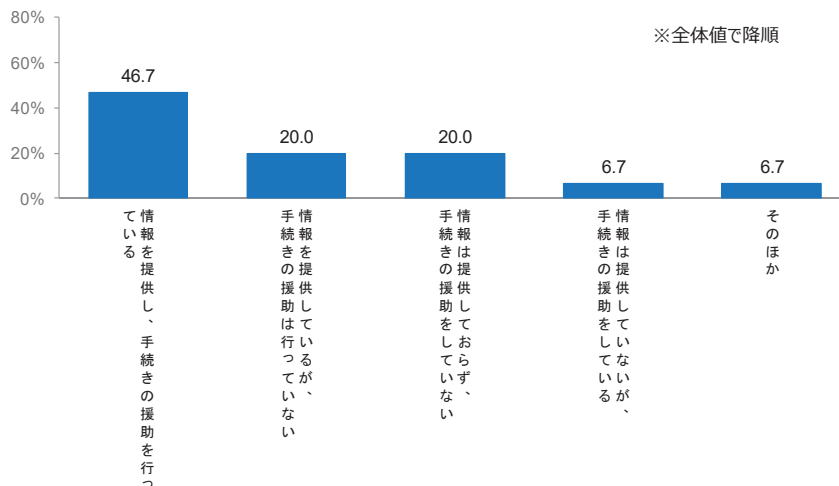
Q6. 留学生が受給している主な奨学金についてお答えください。(MA)

(n=15)



Q7. 留学生(入学予定者)への奨学金情報の提供状況についてお答えください。(MA)

(n=15)



# アルバイト状況(求人件数・業種／留学生用求人の有無／学業との両立状況)

## ■ 1ヶ月あたりのアルバイト求人数

- ・「月に10件未満」が7割弱。以下、「10～20件」が13%、「20～30件」「30件以上」が各7%。

## ■ アルバイト求人業種

- ・「飲食店」(80%)、「コンビニ」(67%)、「工場」(60%)が求人件数の上位。

## ■ 留学生限定求人の有無

- ・「あり」は20%。

## ■ 学業とアルバイトの両立度合

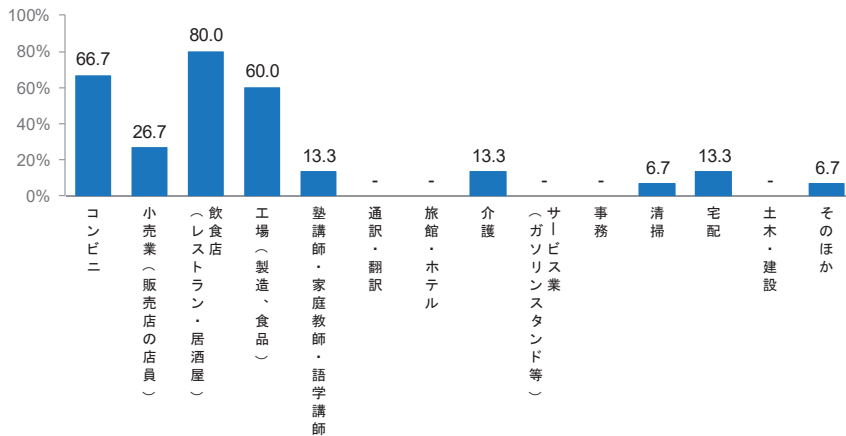
- ・「ほとんどの者は支障をきたすほどではない」が6割、「一時的に支障をきたす者がいる」が4割。

Q8. 貴校が受け入れているアルバイト求人について、1ヶ月あたりの件数をお答えください。(SA)

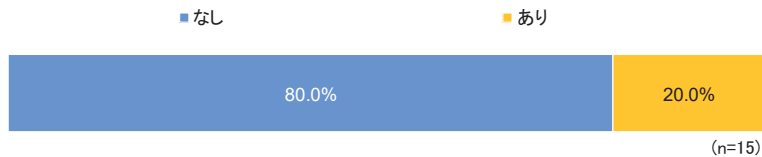


Q9. アルバイト求人業種について、件数の多い順に上位3業種をお答えください。(上位3つ)

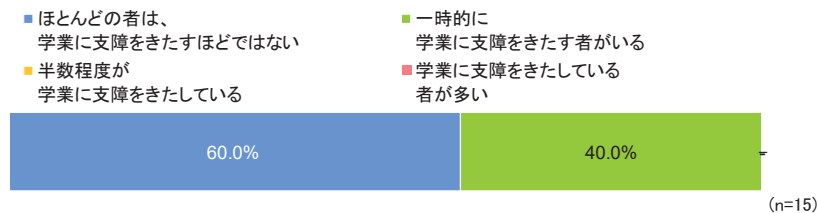
(n=15)



Q10. 留学生に限定したアルバイト求人はありますか。(SA)



Q11. 留学生の学業とアルバイトの両立度合についてお答えください。(SA)



# 生活支援状況(留学生向けの住居支援・生活支援の有無)

## ■ 留学生向けの住居支援内容

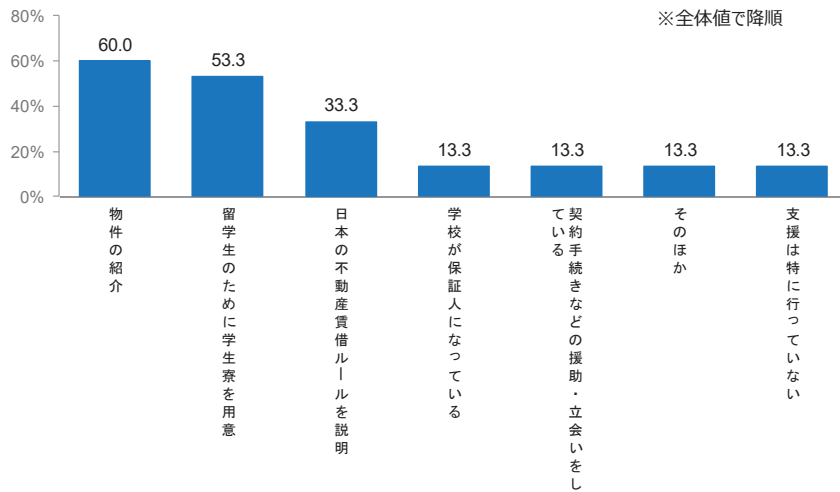
- ・「物件の紹介」が6割で最多。次いで「学生寮を用意」が5割強、「日本の不動産賃借ルールを説明」が3割強で続く。

## ■ 留学生向けの生活支援内容

- ・「日本人学生との交流機会の提供」(71%)、「アルバイトの紹介」「日本での生活マナー、ルールの説明」(各64%)が上位。

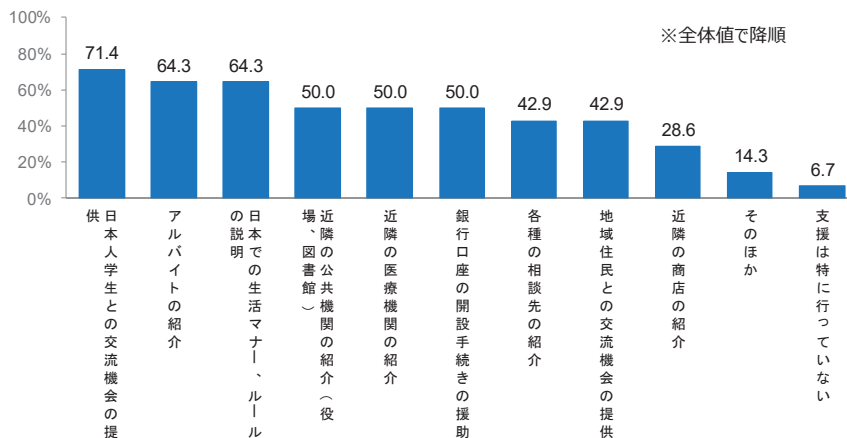
Q12. 貴校では、留学生向けに住居の支援を行っていますか。(MA)

(n=15)



Q13. 貴校では留学生向けに生活の支援を行っていますか。(MA)

(n=15)



# 生活支援状況(留学生関連の相談内容／支援機関・支援策の認知)

## ■ 留学生からの主な相談内容

- ・ 「在留資格に関すること」が80%で最多。次いで「就職に関すること」が73%。

## ■ 留学生以外からの留学生に関する相談内容

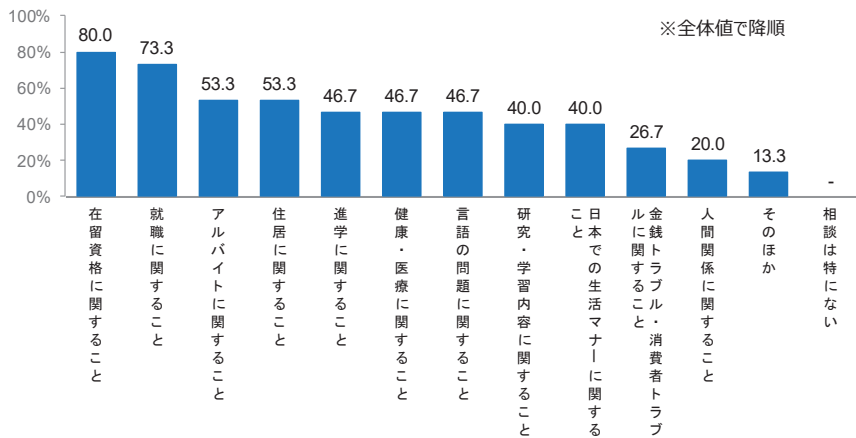
- ・ 「不動産業者・大家」(53%)、「アルバイト先」(47%)、「行政」(40%)が相談内容の上位。

## ■ 外国人/留学生向け支援機関・支援策の認知

- ・ 「県留学生定着促進事業(バスツアー、交流会等)」の認知率が87%と最も高く、「市役所・町役場等の外国語相談」が80%で続く。その他の機関・施策の認知率は4～5割。

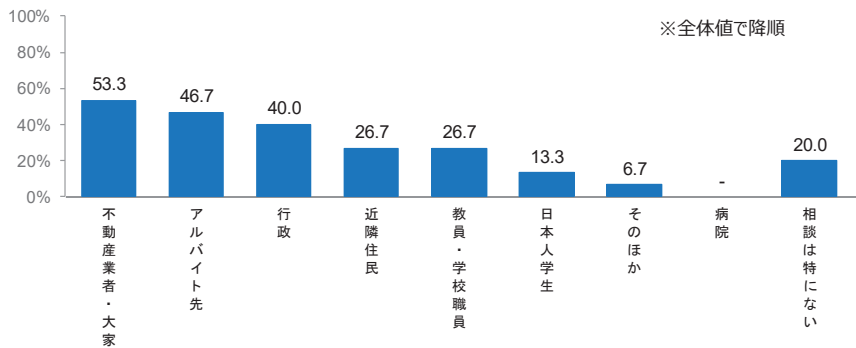
Q14. 留学生からの相談内容について、主にどのような相談を受けていますか。(MA)

(n=15)



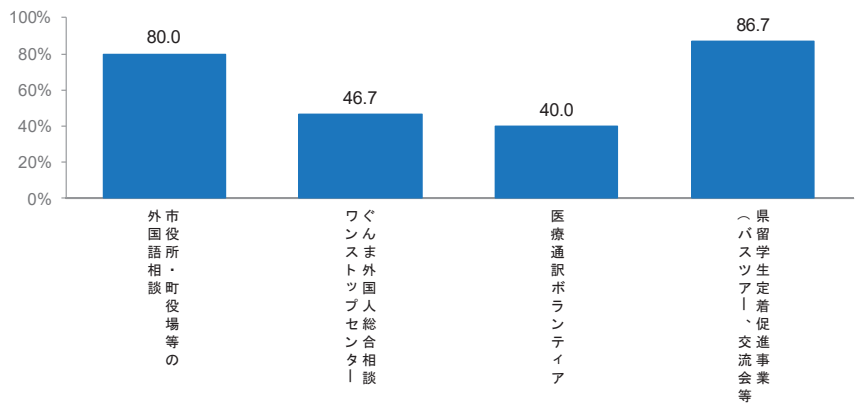
Q15. 留学生以外からの留学生に関する相談内容についてお答えください。(MA)

(n=15)



Q16. 【認知率一覧】以下の外国人/留学生向け支援機関及び支援策をご存知ですか。(各SA)

(n=15)



# 卒業後の進路(就職支援の課題/卒業後の連絡方法/「特定技能」について)

## ■ 留学生の就学支援における課題

- 「企業と出会う場が少ない」(60%)、「留学生を採用する企業が少ない」「留学生の業界・企業研究が不十分」(各47%)が課題の上位。

## ■ 卒業後の留学生との連絡方法

- 「(日本人を含む)連絡手段がある」(33%)と「留学生に特化した連絡手段がある」(20%)を合わせて、連絡手段があるのは5割強。

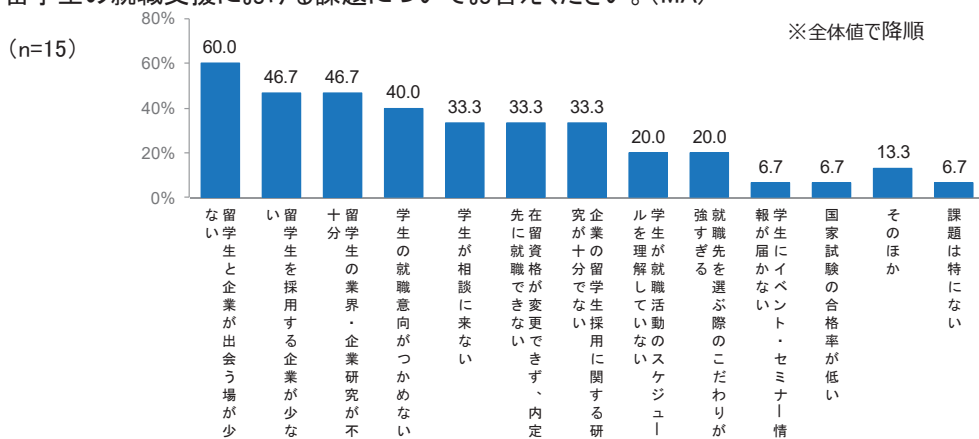
## ■ 留学生が就職先を検討する際の「特定技能」意識度

- 「検討学生がほとんどいない」が半数近く(47%)を占める。「半分程度の学生が考えている」は20%。

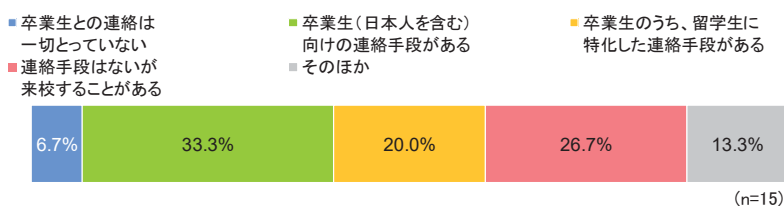
## ■ 学校での「特定技能」に対する取り組み

- 「推奨する予定はない」が半数近く(47%)で最多。推奨・合格支援のいずれかを行っている学校は3割弱。

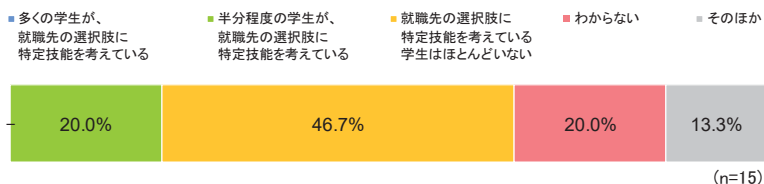
Q17. 留学生の就職支援における課題についてお答えください。(MA)



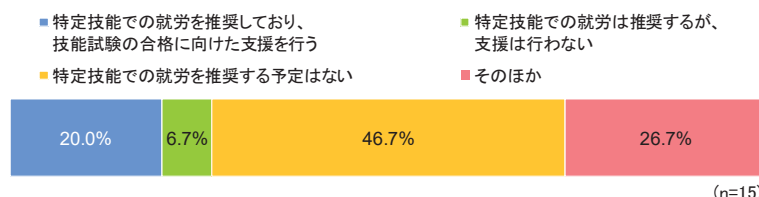
Q18. 卒業後の留学生との連絡方法についてお答えください。(SA)



Q19. 留学生が就職先を検討する際に、「特定技能」をどの程度意識していますか。(SA)




Q20. 貴校での「特定技能」に対する取組についてお答えください。(SA)





# 不動産業者に関する調査 結果詳細



# 外国人留学生に対するあっせん状況と課題

## ■ 不動産のあっせん件数

- ・ 「～10件程度」が8割。「11～50件程度」が2割(1件)。

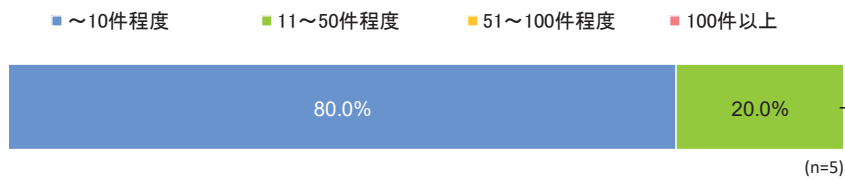
## ■ 不動産あっせん件数の傾向

- ・ 「縮小傾向」が6割。「横ばい」「拡大傾向」が各2割。

## ■ あっせんにおける課題

- ・ 「外国人を受け入れない物件が多い」「騒音・ゴミ出しなど生活ルールを守ってもらえない」「家賃の滞納が発生しがち」が各8割で上位。

Q1. 外国人留学生へのあっせん件数をお答えください。(年間) (SA)

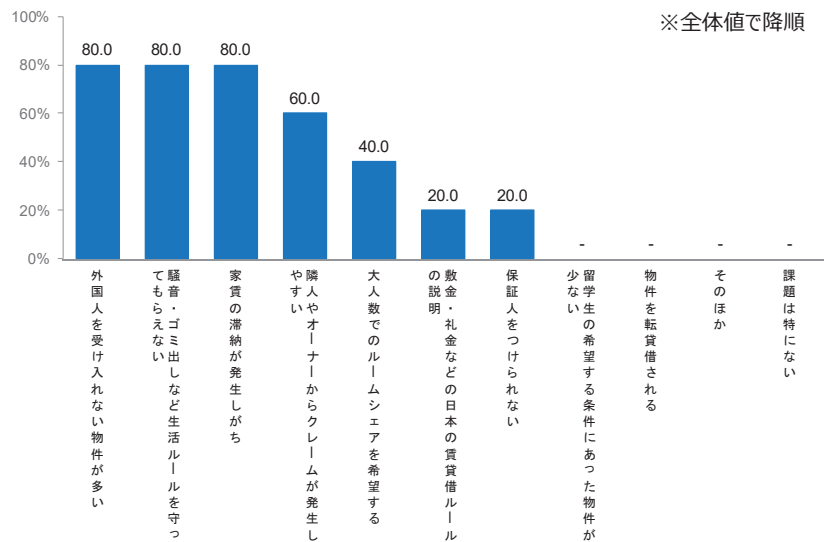


Q2. 外国人留学生へのあっせん件数の傾向はどのようになっていますか。(SA)



Q3. 外国人留学生へのあっせんの課題は何ですか。(MA)

(n=5)



# クレーム発生状況／外国人利用者に対するサービス

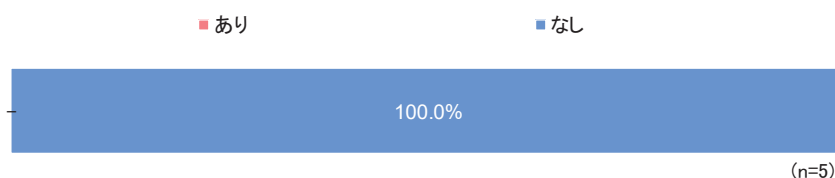
## ■ 外国人留学生に関するクレーム状況

- ・ 【外国人留学生からのクレーム】は、各事業者ともに「なし」との回答。
- ・ 一方、【外国人留学生に対するクレーム】は、いずれの事業者も「あり」としている。

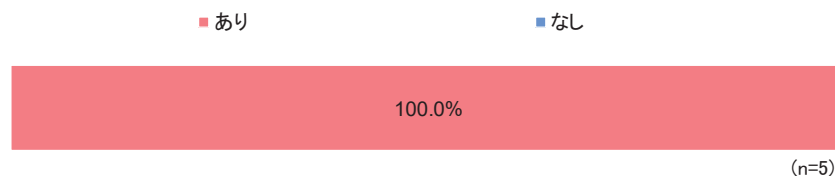
## ■ 外国人向けのサービス実施状況

- ・ 「特になし」が6割で最多。
- ・ 実施しているサービスでは「通訳サービス」「契約書等の翻訳サービス」があがる。

Q4. 外国人留学生からのクレームはありますか。(SA)

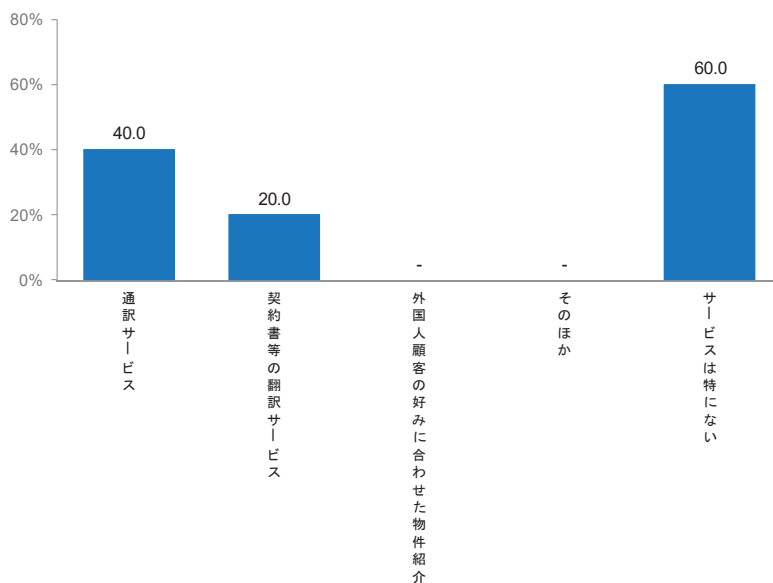


Q5. 外国人留学生に対するクレームはありますか。(SA)



Q6. どの様な外国人顧客向けのサービスを実施していますか。(MA)

(n=5)





# 留学生アルバイト先に関する調査 結果詳細



# アルバイト先の業種／留学生アルバイトの人数と就学先

## ■ アルバイト先の業種

- ・ 「コンビニ」が6割で最多。以下、「飲食店」「旅館・ホテル」が各2割。

## ■ 留学生のアルバイト人数(月平均5日以上勤務者)

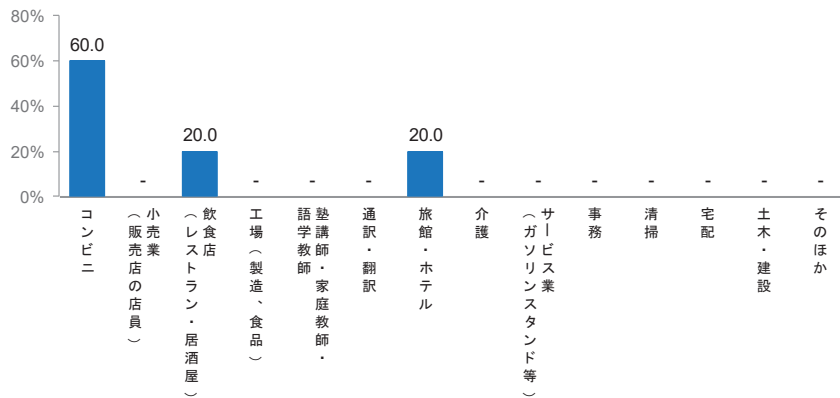
- ・ 各事業者ともに10人未満で、平均は4.6人。

## ■ 留学生アルバイトの就学先

- ・ 「大学院・大学」が6割で最多。次いで「日本語学校」が4割、「専門学校」が2割。

Q1. あなたが経営している業種は何ですか。(SA)

(n=5)



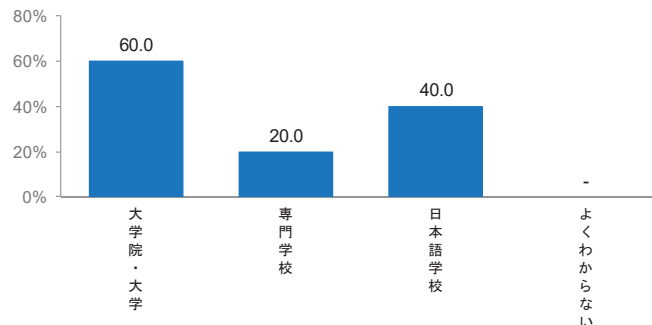
Q2. 留学生のアルバイト人数(平均して月5日以上働いている留学生)をお答えください。

平均：4.6人



Q3. 留学生アルバイトの就学先で多いものをお答えください。(MA)

(n=5)



# 留学生の採用ルート／労務管理上の課題と工夫

## ■ 留学生アルバイトの主な採用ルート

- ・「すでに採用していた留学生アルバイトから紹介」が8割で最多。

## ■ 労務管理上の課題

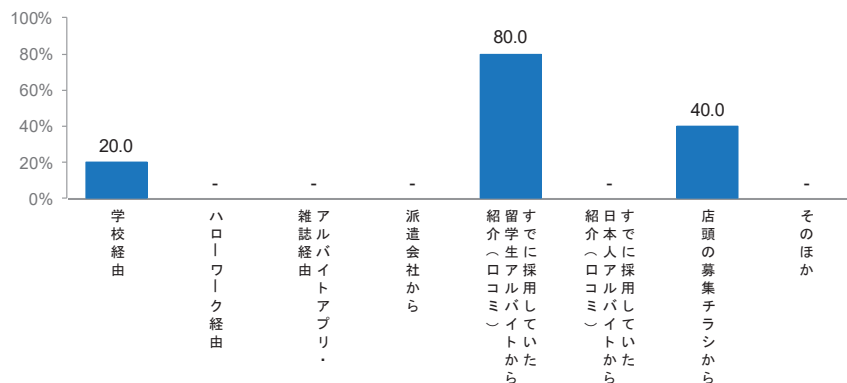
- ・「制度上28時間しか働けない」が8割。「早期退職が多い」も2割(1件)みられる。

## ■ 労務管理上の工夫

- ・「日本人社員よりも細やかな説明」が6割で最多。次いで「マニュアルなどを母国語に翻訳」「シフトの変更(一時帰国中や学校のテスト期間はシフトを外す)」が各4割。

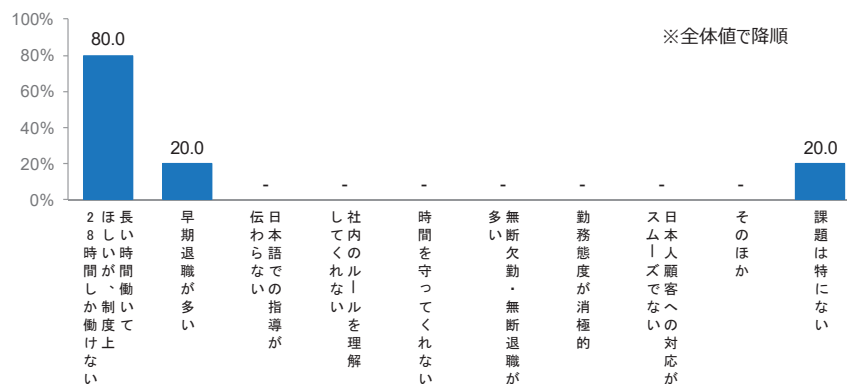
Q4. 留学生アルバイトの主な採用ルートは何ですか。(MA)

(n=5)



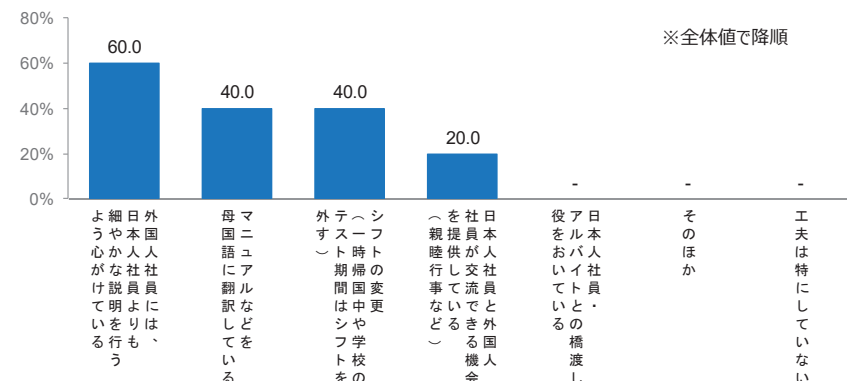
Q5. 留学生アルバイトの労働管理上の課題はどのようなものがありますか。(MA)

(n=5)



Q6. 留学生アルバイトを労務管理する上での工夫はどのようなものがありますか。(MA)

(n=5)



# 留学生アルバイト雇用のメリット／正社員登用の有無

## ■ 留学生アルバイトを雇うメリット

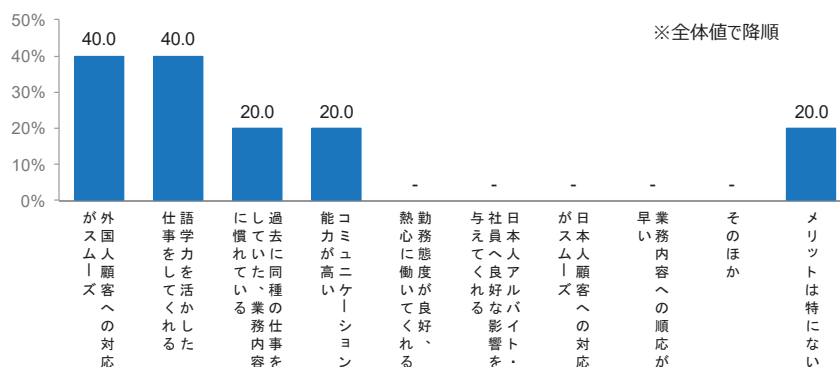
- ・ 「外国人顧客への対応がスムーズ」「語学力を活かした仕事をしてくれる」が上位にあがり、“多言語対応”が主なメリット。

## ■ 正社員登用の状況

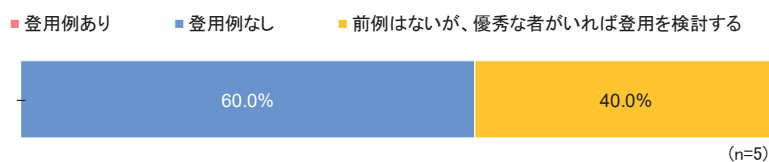
- ・ 各事業者ともに登用例はないが、「検討意向者（優秀な者がいれば検討）」は4割みられる。

Q7. 留学生アルバイトを雇うメリットは何ですか。(MA)

(n=5)



Q8-1. 留学生アルバイトの卒業後の正社員登用に関して、貴社の現状をお答えください。(SA)





# 技能実習生に関する調査 結果詳細



# 基本情報(性別／国籍)

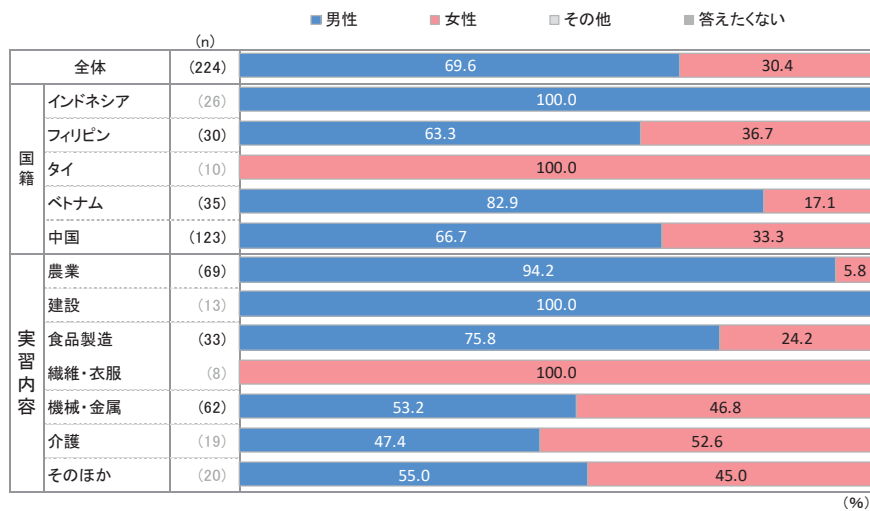
## ■ 性別

- 回答者の性別は、男性が70%、女性が30%。

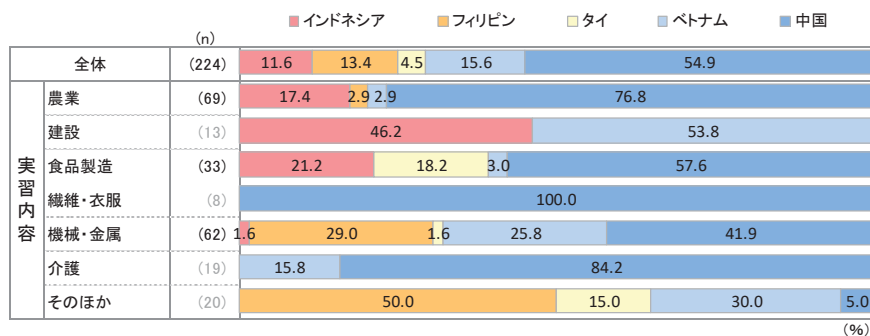
## ■ 国籍

- 「中国」が55%で最多。以下、「ベトナム」「フィリピン」「インドネシア」と各1割台で続く。

Q1. あなたの性別をお答えください。(SA)



Q2. あなたの国籍をお答えください。(SA)



# 基本情報(最終学歴／技能実習区分)

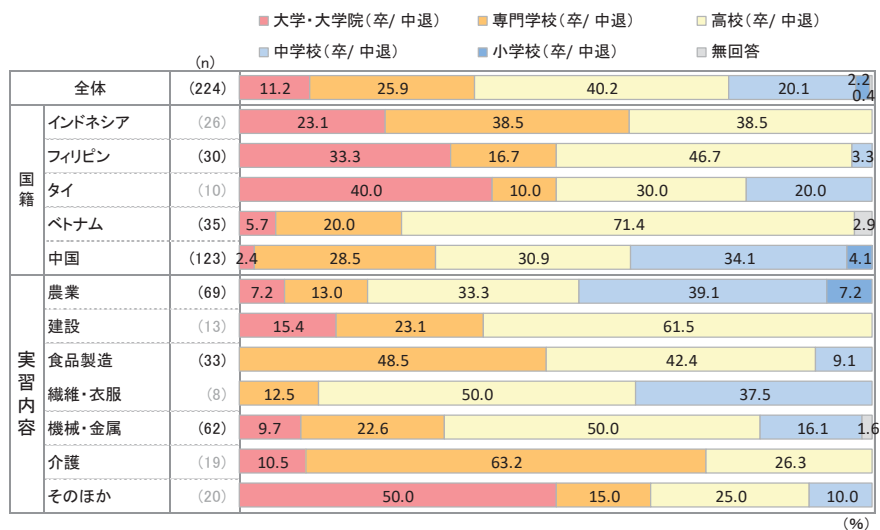
## ■ 最終学歴

- ・「高校(卒/中退)」(40%)、次いで「専門学校(卒/中退)」(26%)が多い。

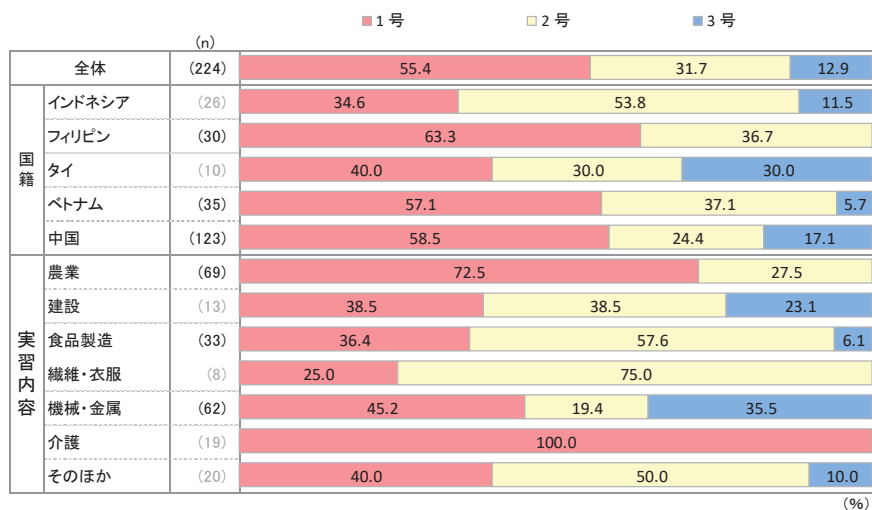
## ■ 技能実習の区分

- ・「1号」が55%で最多。以下、「2号」が32%、「3号」が13%となっている。

Q3. 母国での最終学歴をお答えください。(SA)



Q4. あなたは、現在技能実習何号ですか。(SA)



# 実習の状況(実習内容／基本月収)

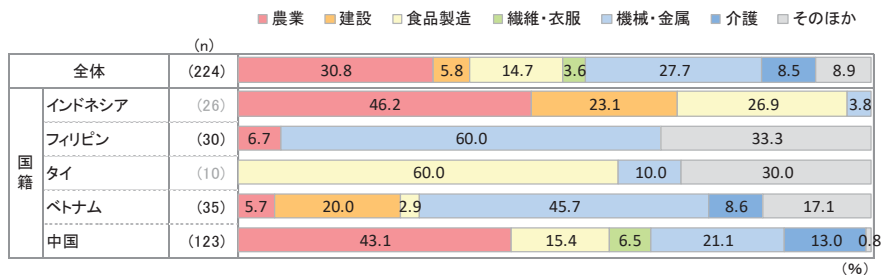
## ■ 実習内容

- ・ 「農業」(31%)、「機械・金属」(28%)が多い。次いで「食品製造」が15%。

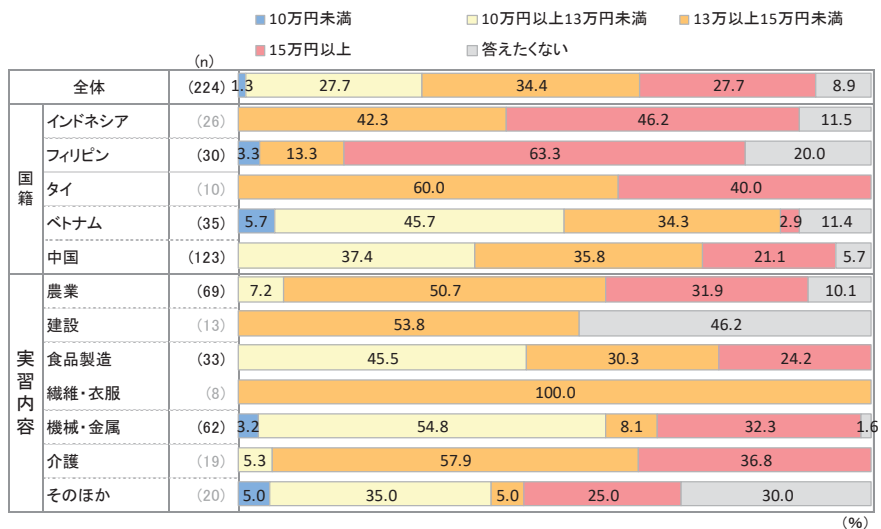
## ■ 基本月収

- ・ 「13万以上15万円未満」が34%で最多。次いで「10万円以上13万円未満」「15万円以上」がそれぞれ28%。

Q5. あなたの实習内容をお答えください。(SA)



Q6. あなたの基本月収(税引き前かつ残業代抜き)をお答えください。(SA)



# 実習の状況(所定労働時間／勤務日)

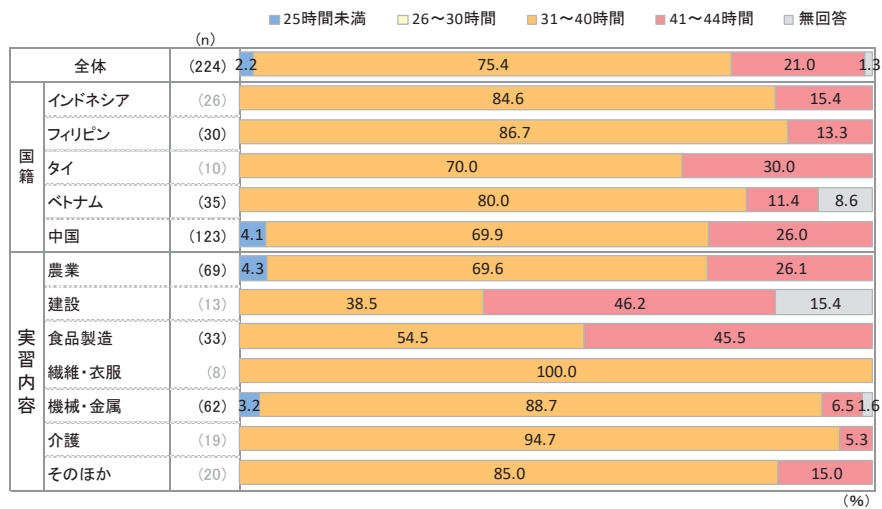
## ■ 所定労働時間(週あたり)

- ・ 「31～40時間」が75%を占める。以下、「41～44時間」が21%、「25時間未満」が2%。

## ■ 勤務日

- ・ 「月曜」から「金曜」まではいずれも95%以上。「土曜」の勤務者は47%、「日曜」は25%。

Q7. 1週間あたりの所定労働時間をお答えください。(残業時間は含まない)(SA)



Q8. あなたの勤務している曜日をお答えください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 実習の状況(残業の状況)

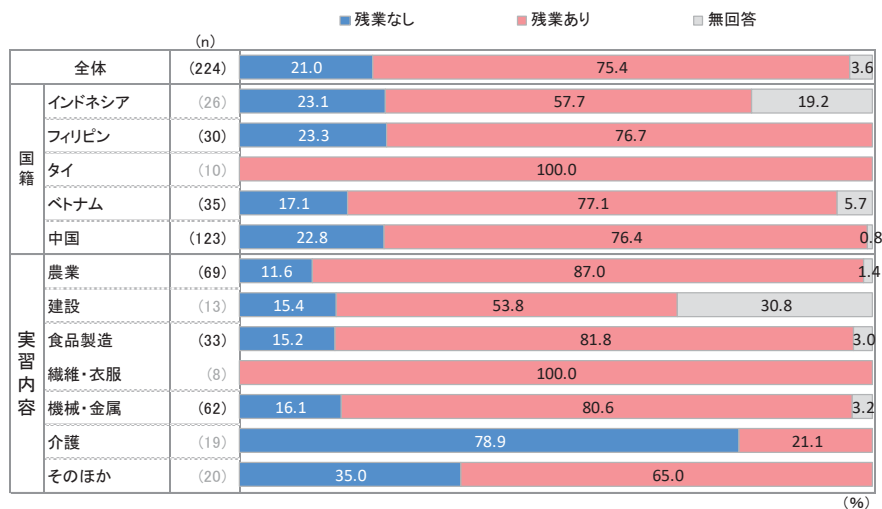
## ■ 残業の有無

- ・「残業あり」が75%。

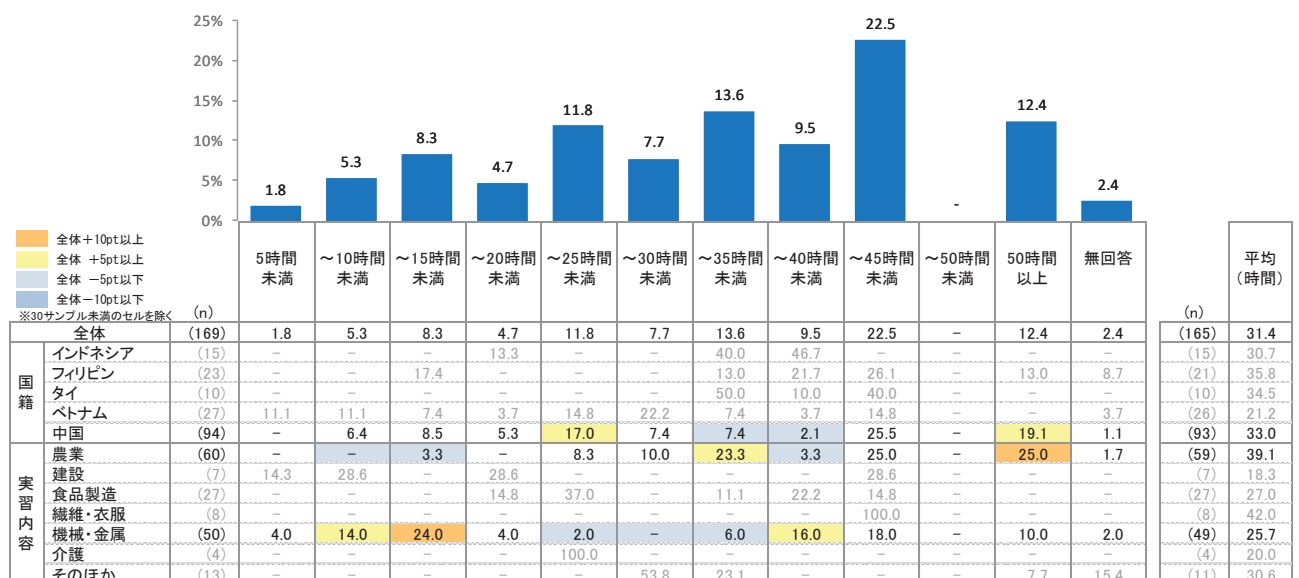
## ■ 平均残業時間(月あたり)

- ・「40～45時間未満」が23%で最多。以下、「30～35時間未満」「50時間以上」「20～25時間未満」が各1割台で続き、ばらつきが大きい。
- ・平均時間は31時間。

Q9. 【残業の有無】あなたの月の平均残業時間をお答えください。(SA)



Q9. 【残業時間】あなたの月の平均残業時間をお答えください。(SA) <残業「あり」と回答した者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 実習の状況(実習先の満足点／困っていること)

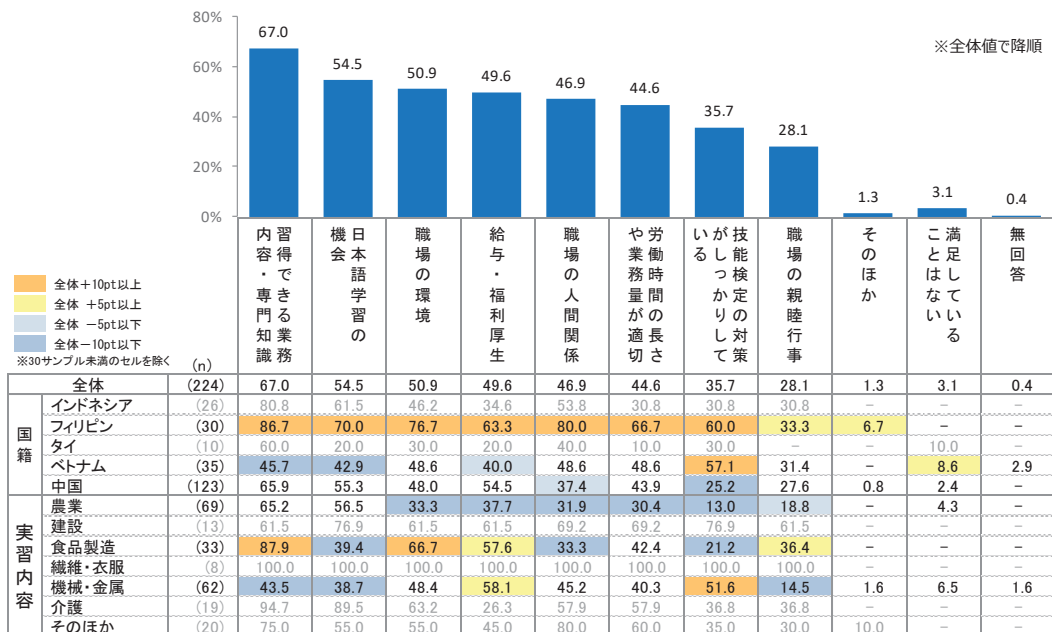
## ■ 実習先の満足点

- 「習得できる業務内容・専門知識」が67%で最多。以下、「日本語学習の機会」「職場の環境」「給与・福利厚生」と5割前後で続く。

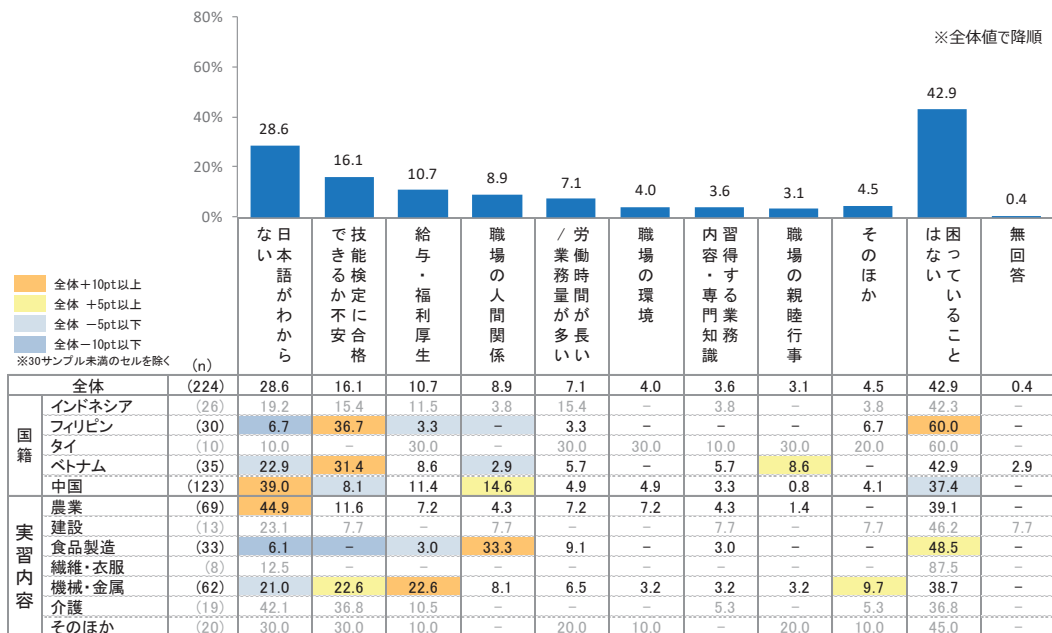
## ■ 実習先で困っていること

- 「日本語がわからない」(29%)が困っていることのトップ。次いで「技能検定に合格できるか不安」が16%、「給与・福利厚生」が11%。

Q10. 実習先で満足していることを次の項目から選んでください。(MA)



Q11. 実習先で困っていることを次の項目から選んでください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 実習の状況(日本語の学習・コミュニケーションについて)

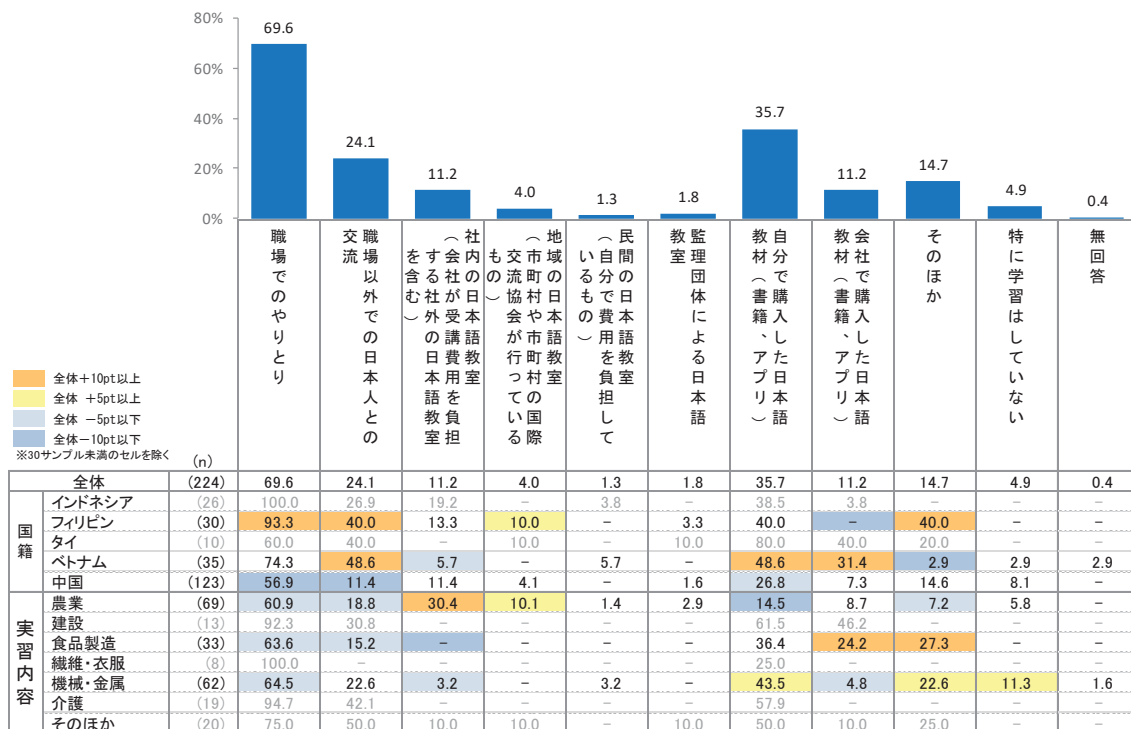
## ■ 日本語の学習方法

- 「職場でのやりとり」が70%で最多。以下、「自分で購入した日本語教材(書籍、アプリ)」(36%)、「職場以外での日本人との交流」(24%)と続く。

## ■ 日本語のコミュニケーションスキル

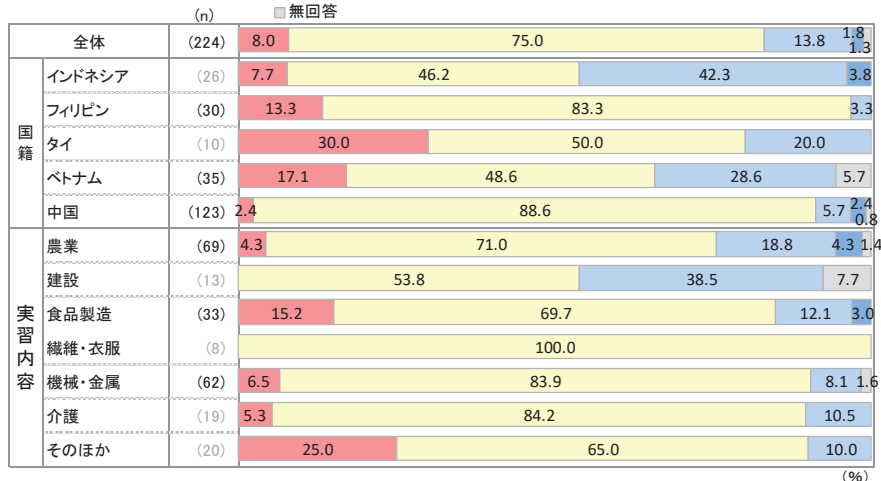
- 「日常会話は難しいが職場でのやりとりで問題を感じることはない」が75%を占める。「仕事以外のやりとりでも問題なく会話できる」は8%。
- 「職場のやりとりでわからないことが1日の中で何回もある」も1割強みられる。

Q12. 現在、日本語はどのように学習していますか。(MA)



Q13. 日本語のコミュニケーションに関してお答えください。(SA)

- 仕事以外のやりとりでも問題なく会話できる
- 日常会話は難しいが職場でのやりとりで問題を感じることはない
- 職場のやりとりでわからないことが1日の中で何回もある
- 職場でやりとりされる日本語はほとんど分からない/日本語が使われていない
- 無回答



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。



# 実習の状況(日本語能力資格／日本語で難しい点)

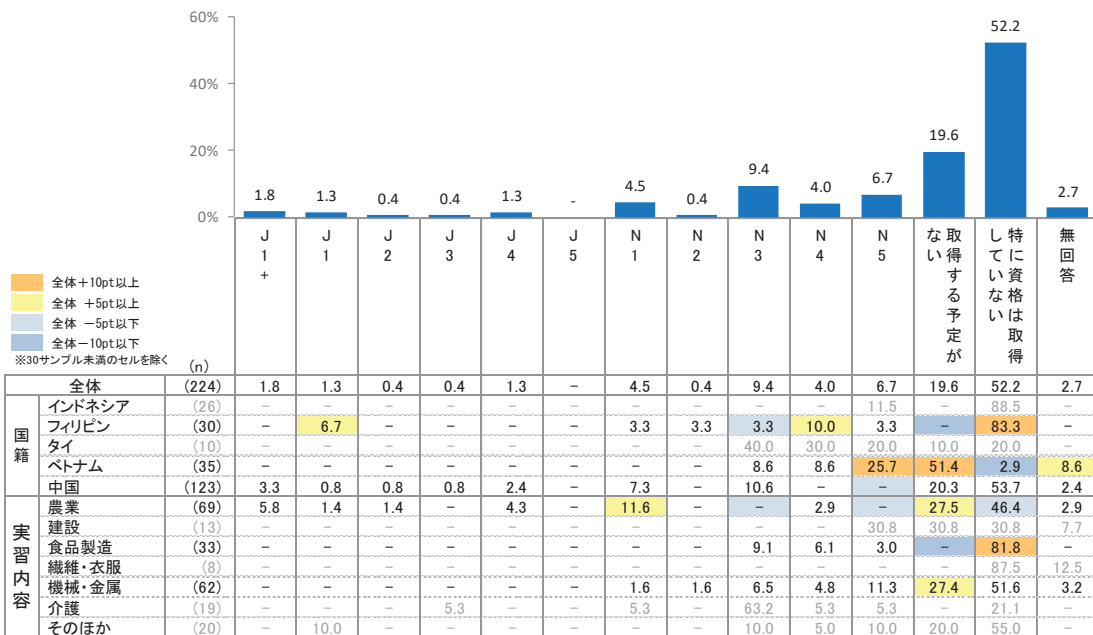
## ■ 日本語能力資格の取得状況

- 取得率が比較的高いのは「N3」(9%)、次いで「N5」(7%)。
- 「取得する予定がない」も2割みられる。

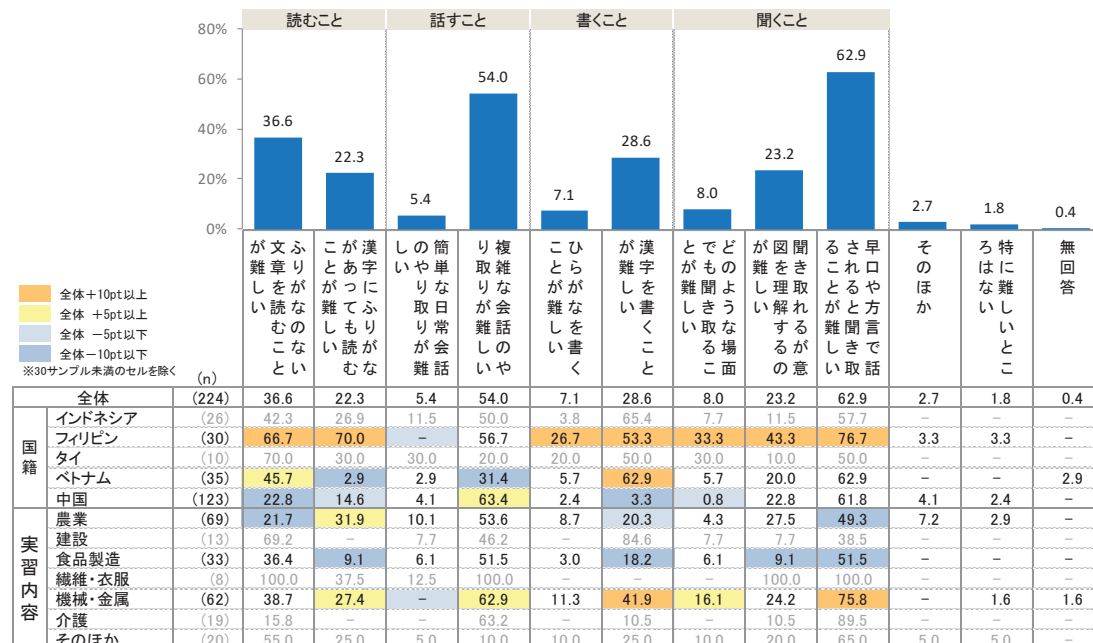
## ■ 日本語で難しい点

- 「早口や方言で話されると聞き取ることが難しい」「複雑な会話のやり取りが難しい」が5～6割で上位。次いで「ふりがなのない文章を読むことが難しい」が37%。

Q14. 現在、あなたは、日本語能力の資格を取得していますか。(MA)



Q15. 日本語を使う上で難しい点をお答えください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 実習の状況(応募方法／実習先の変更意向)

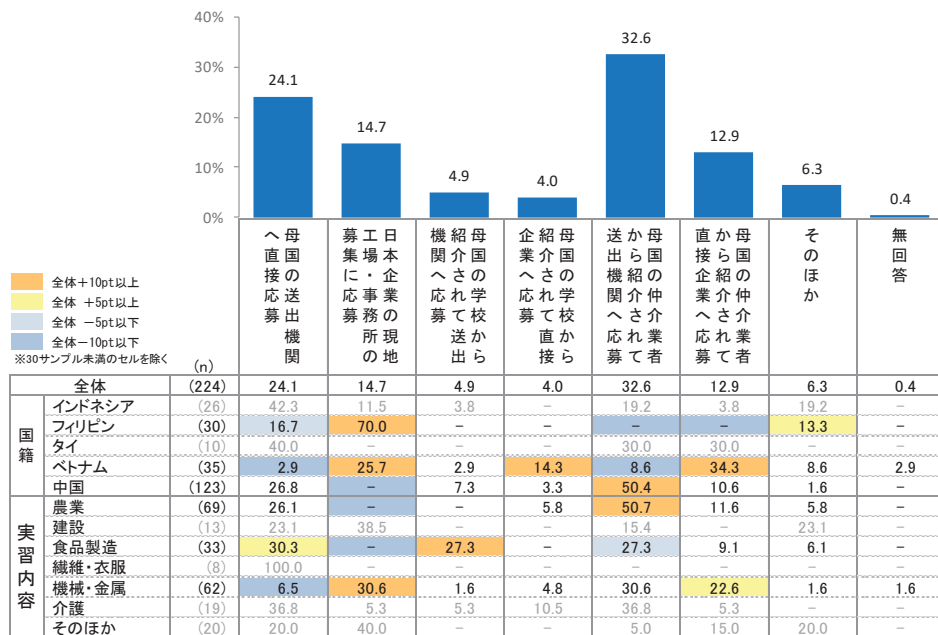
## ■ 実習への応募方法

- 「母国の仲介業者から紹介されて送出機関へ応募」(33%)、次いで「母国の送出機関へ直接応募」(24%)が多い。

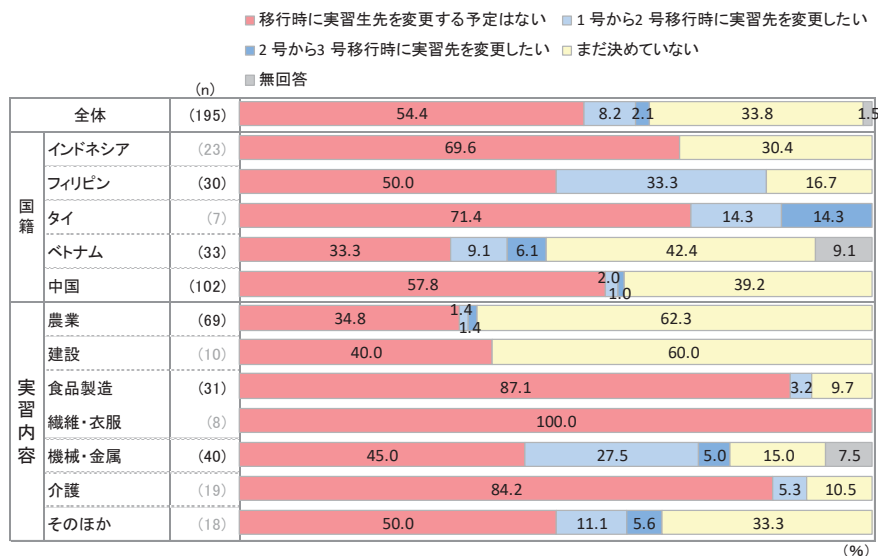
## ■ 実習先の変更意向

- 「変更する予定はない」が54%。「まだ決めていない」は34%。
- 変更意向では「1号から2号移行時に」が8%、「2号から3号移行時に」が2%。

Q16. あなたはどのように来日されましたか。(SA)



Q17. 在留資格移行時に、実習先の変更希望はありますか。(SA) <在留資格保有者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 日本の生活と暮らし(日本人との交流について)

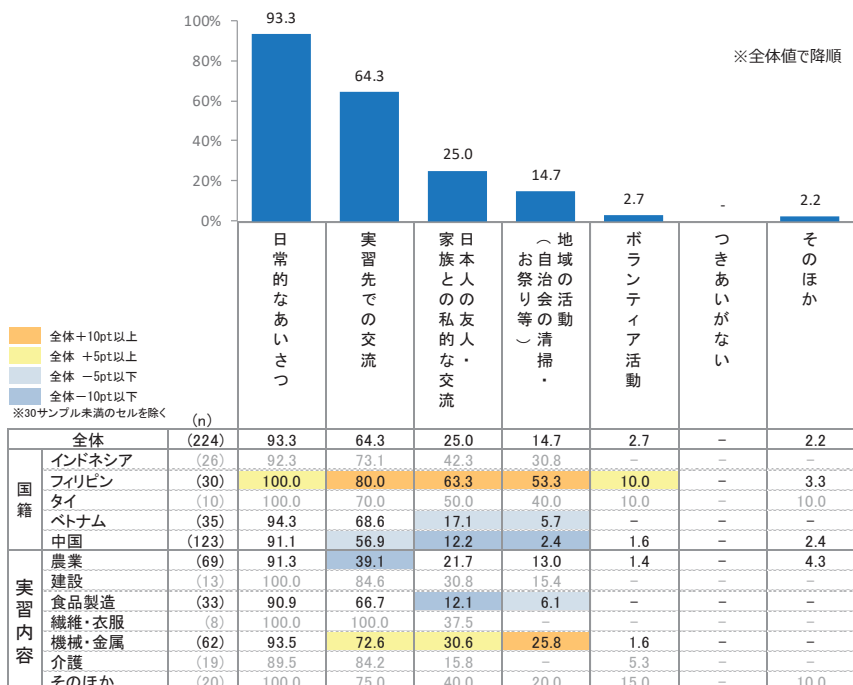
## ■ 日本人との交流状況

- ・「日常的なあいさつ」(93%)、「実習先での交流」(64%)が多い。次いで「日本人の友人・家族との私的な交流」(25%)、「地域の活動(自治会の清掃・お祭り等)」(15%)など。

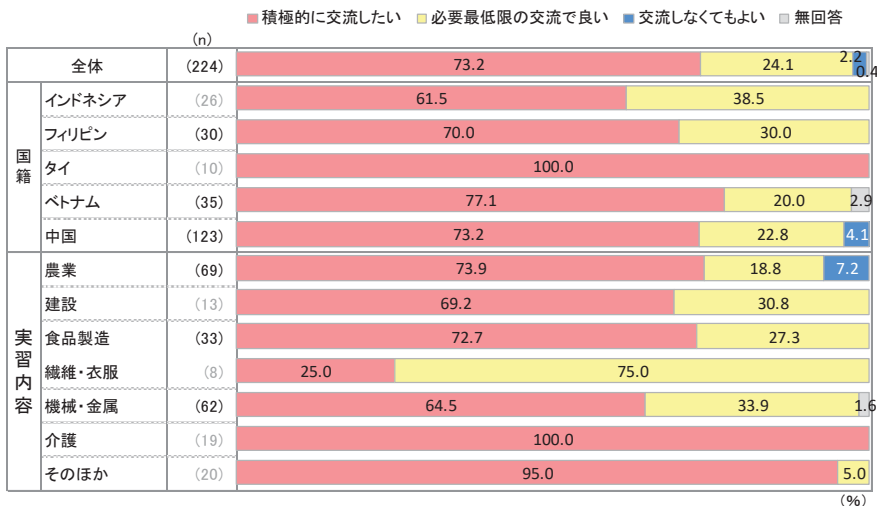
## ■ 日本人との交流への態度

- ・「積極的に交流したい」が73%を占める。

Q18. あなたは普段、日本人とどのような交流をしていますか。(MA)



Q19. 日本人との交流に対する意識をお答えください。(SA)

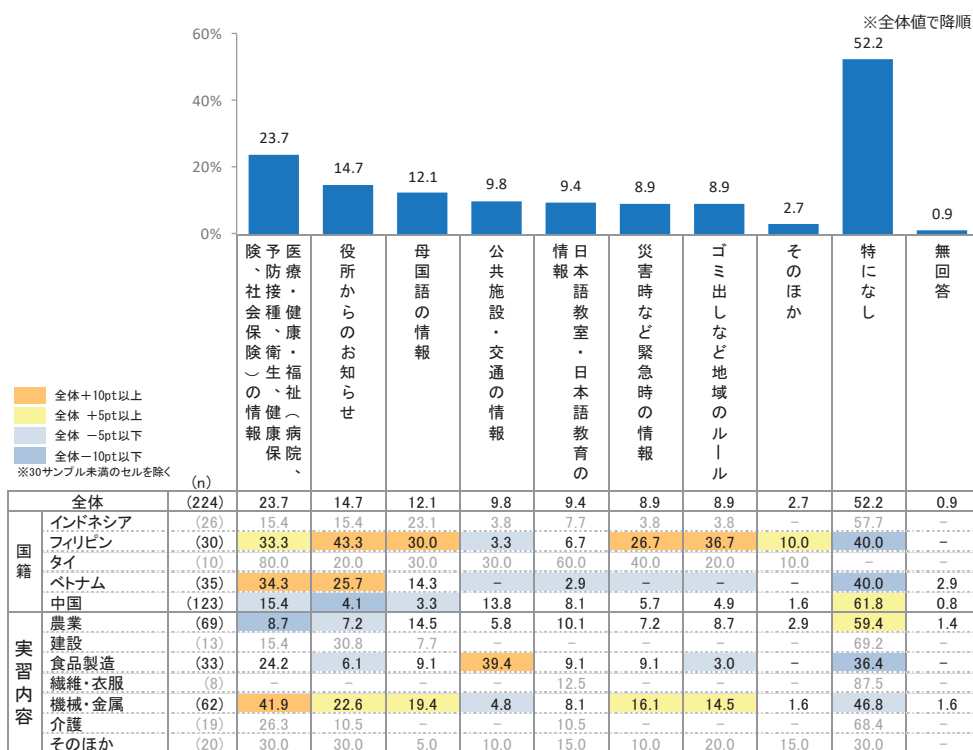


# 日本の生活と暮らし(手に入らない情報)

## ■ 手に入らず困っている情報

- 約5割が何らかの情報をあげており、最も多いのは「医療・健康・福祉の情報」で24%。次いで「役所からののお知らせ」が15%、「母国語の情報」が12%。

Q20. 日本で生活する上で、手に入らなくて困っている情報はありますか。(MA)



# 日本の生活と暮らし(苦情を受けた経験について)

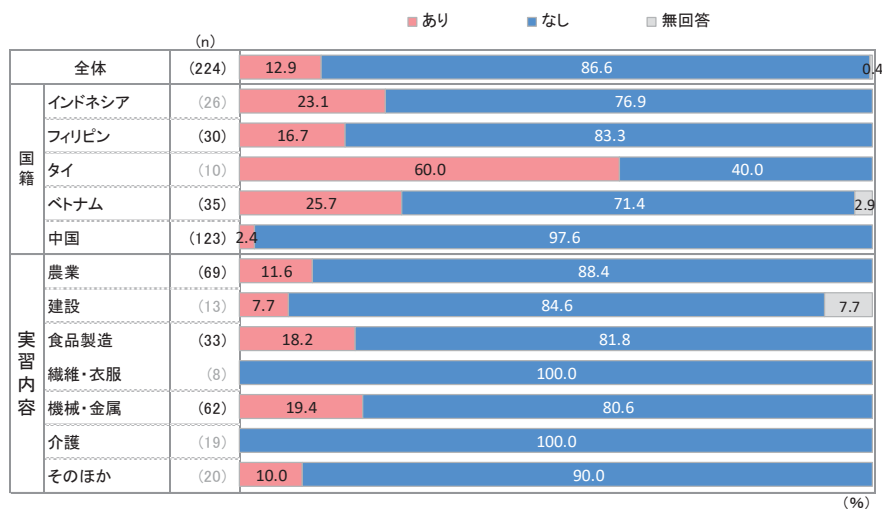
## ■ 住民・大家から苦情を受けた経験

- ・「あり」が13%。

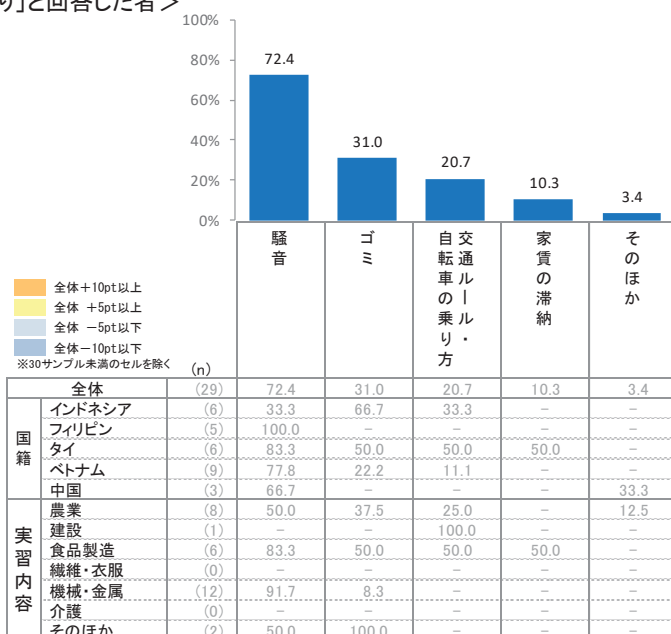
## ■ 受けた苦情の内容

- ・「騒音」が72%で最多。次いで「ゴミ」が31%。※30サンプル未満のため参考値

Q21-1. 住民や大家などから苦情を言われた経験・内容を教えてください。(SA)



Q21-2. 「あり」と回答した方にお尋ねします。それはどのような内容でしたか。(MA)  
 <苦情を言われた経験「あり」と回答した者>



# 日本の生活と暮らし(困っている・受け入れられないこと)

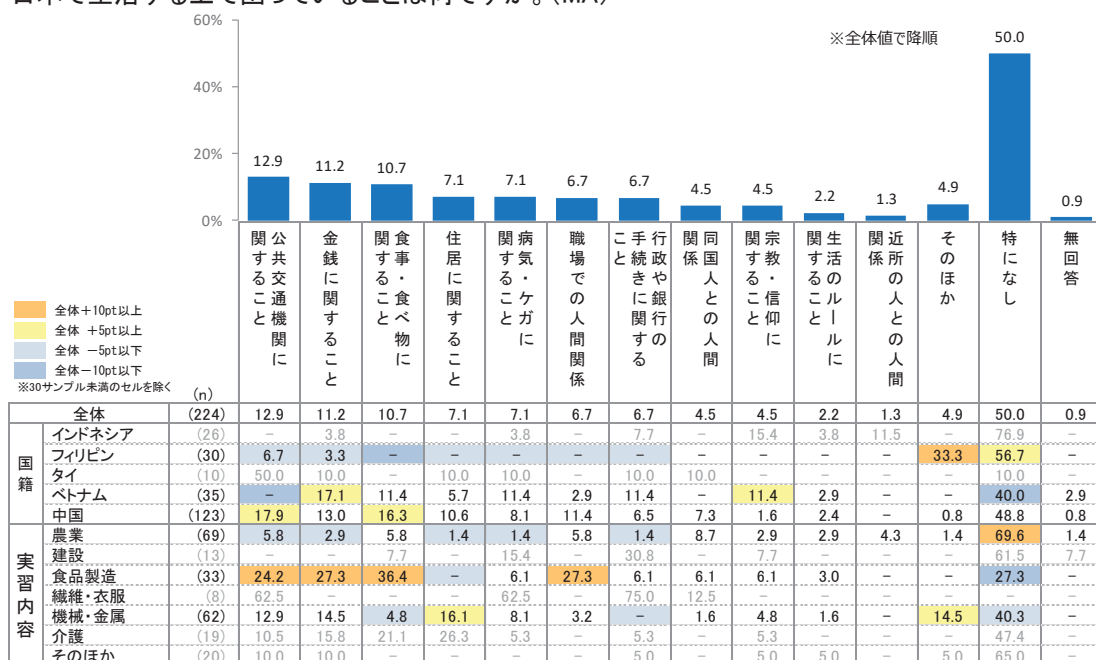
## ■ 生活で困っていること

- 全体の約5割が何らかの事柄で「困っている」と回答。
- 具体的には「公共交通機関に関すること」(13%)、「金銭に関すること」「食事・食べ物に関すること」(各11%)が上位にあがる。

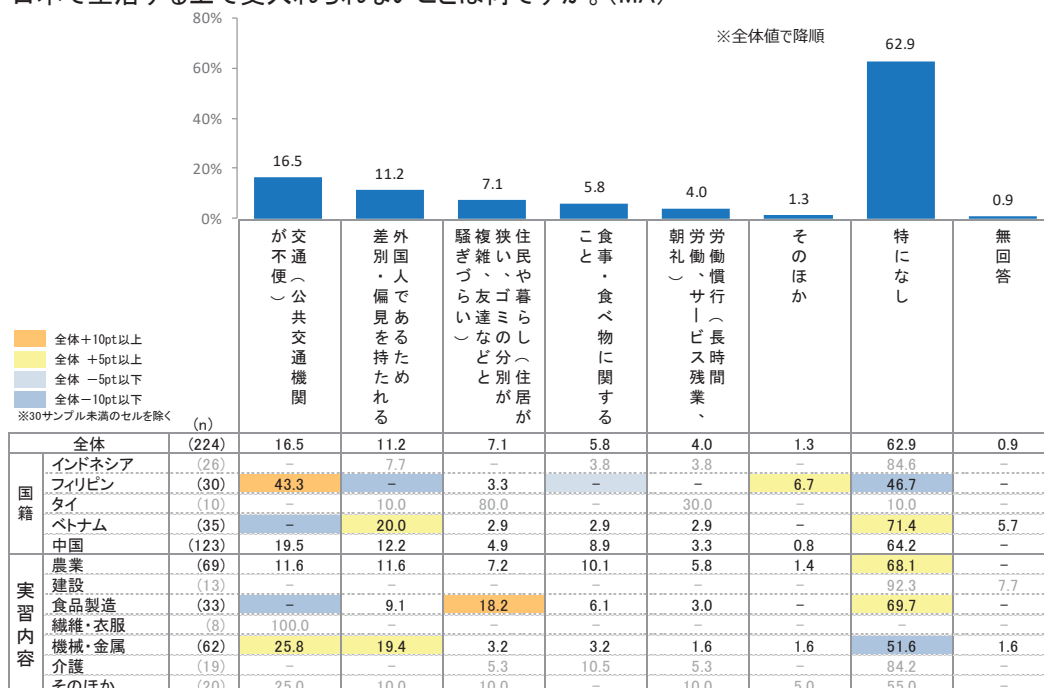
## ■ 生活する上で受け入れられないこと

- 「交通(公共交通機関が不便)」が17%で最多。次いで「外国人であるため差別・偏見を持たれる」が11%。

Q22. 日本で生活する上で困っていることは何ですか。(MA)



Q23. 日本で生活する上で受け入れられないことは何ですか。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 住居について(住まいの種類／部屋の広さ)

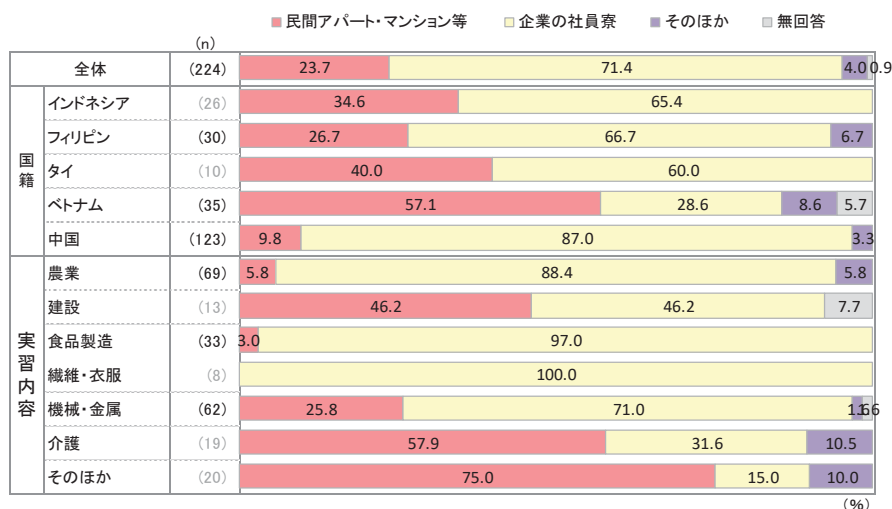
## ■ 住まいの種類

- ・「企業の社員寮」が71%と、「民間アパート・マンション等」(24%)を大きく上回る。

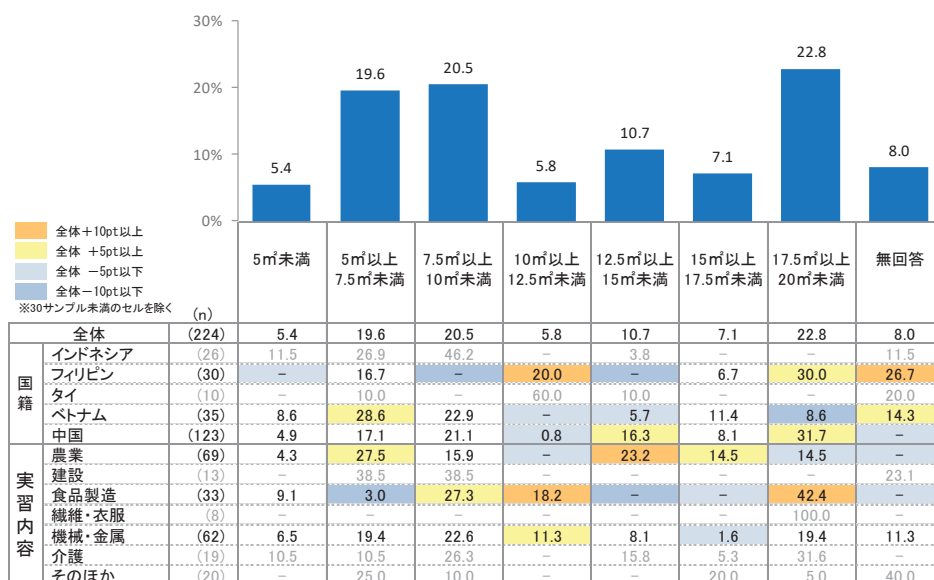
## ■ 部屋の広さ

- ・「17.5㎡以上20㎡未満」(23%)が最も多いが、「7.5㎡以上10㎡未満」「5㎡以上7.5㎡未満」もそれぞれ2割程度みられ、ばらつきが大きい。

Q24. あなたの住まいは次のうちどれに当てはまりますか。(SA)



Q25. あなたの住んでいる部屋の広さをお答えください。(SA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 住居について(同居人数)

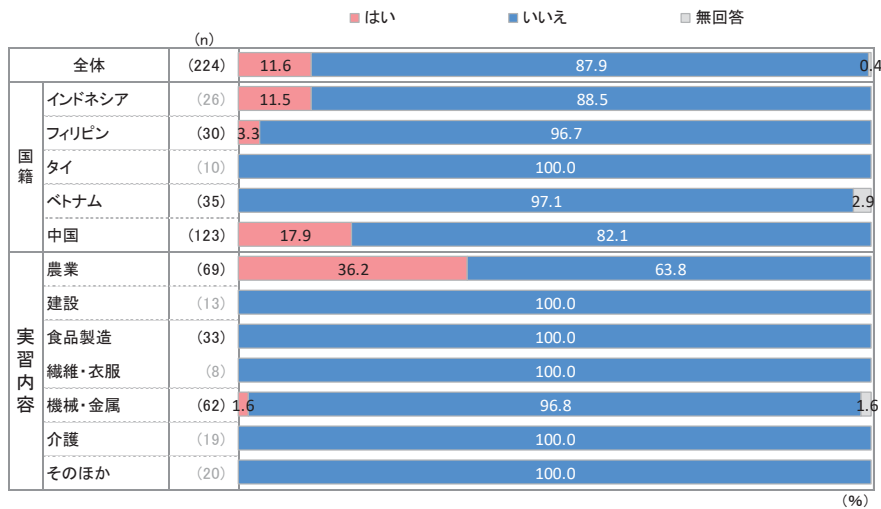
## ■ 一人暮らしか否か

- ・ 全体における一人暮らしの割合は12%。

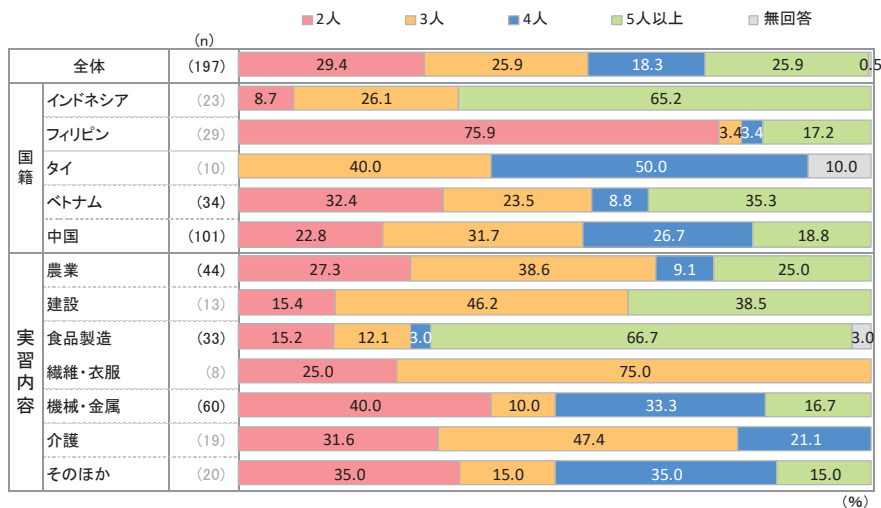
## ■ 同居人の人数

- ・ 「2人」が29%で最多。次いで「3人」「5人以上」が各26%。

Q26-1. あなたは一人暮らしですか。(SA)



Q26-2. 「いいえ」と回答した方にお尋ねします。何人で住んでいますか。(SA) <2人以上で住んでいると回答した者>





# 住居について(個人で使用できる面積／家賃)

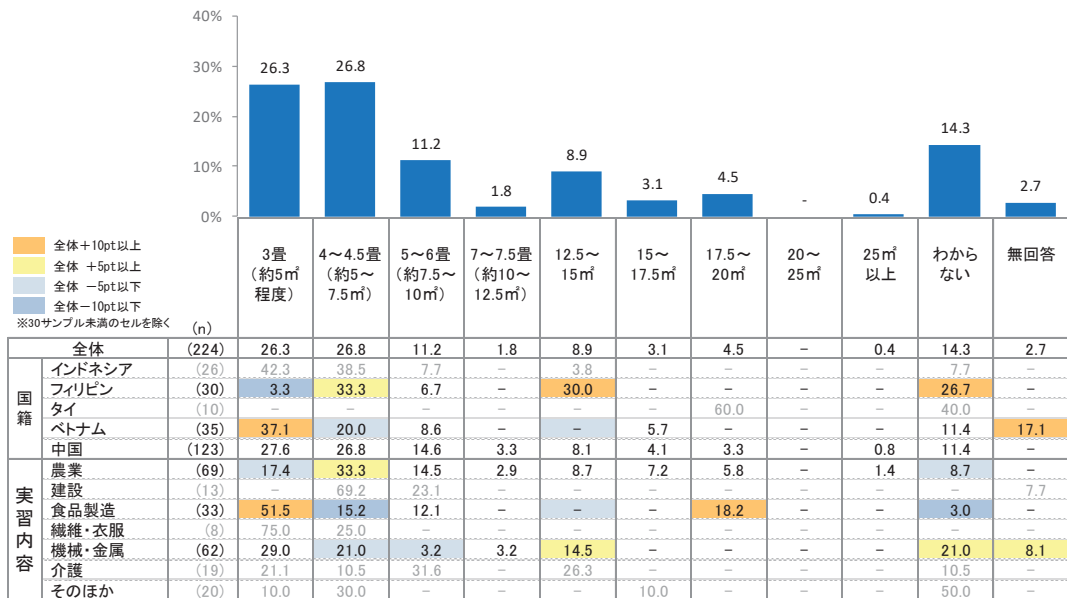
## ■ 個人で使用できる面積

- ・ 「4～4.5畳」(27%)、「3畳」(26%)が多く、「4.5畳以下」が5割強。

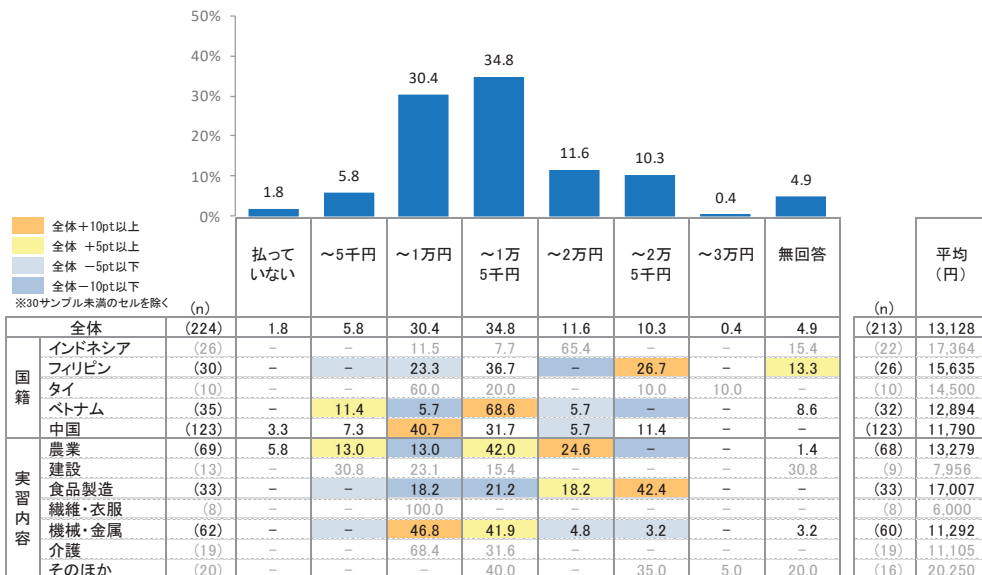
## ■ 1ヶ月分の家賃

- ・ 「1万円～1万5千円」(35%)、次いで「5千円～1万円」(30%)が多い。
- ・ 平均金額は13,128円。

Q27. 現在住んでいる部屋の中で、個人で使用できる面積をお答えください。(SA)



Q28. 現在あなたが払うヶ月分の家賃(光熱水費を除く)を教えてください。(SA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# トラブルや病気への対処(相談相手/公的・医療機関利用時の不安)

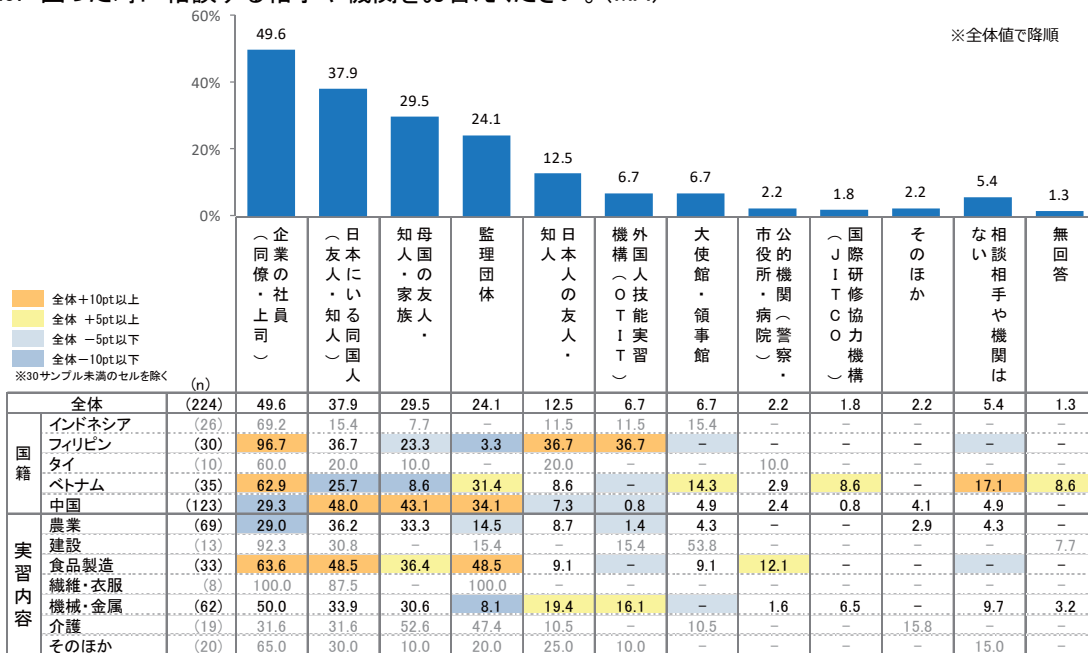
## ■ 困った時の相談相手・機関

- ・「企業の社員(同僚・上司)」が50%で最多。以下、「日本にいる同国人(友人・知人)」(38%)、「母国の友人・知人・家族」(30%)、「監理団体」(24%)と続く。

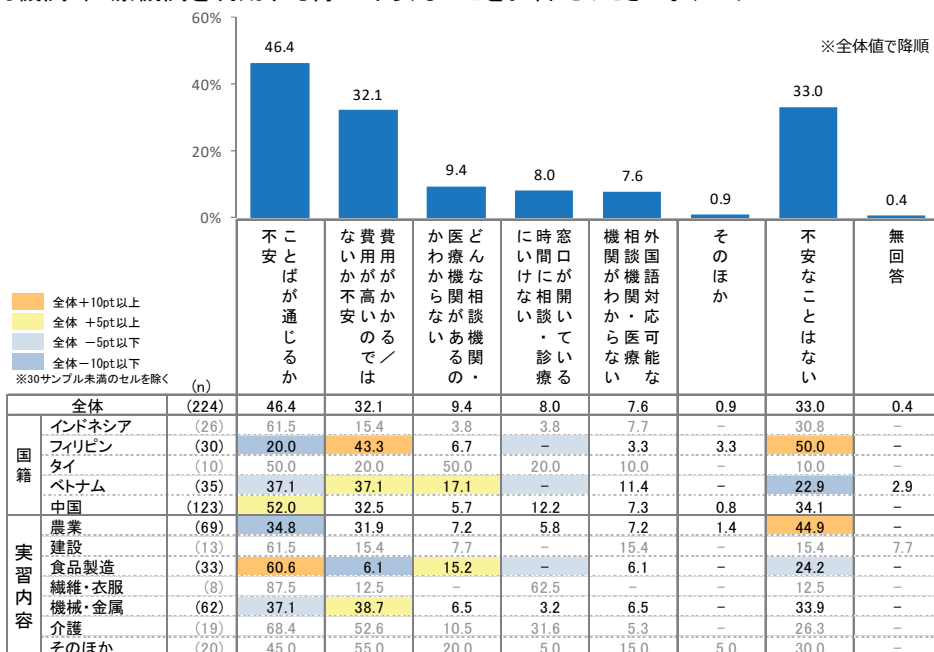
## ■ 公的機関・医療機関の利用時に不安なこと

- ・「ことばが通じるか」(46%)、「費用がかかる/費用が高いのではないか」(32%)が不安の上位。

Q29. 困った時に相談する相手や機関をお答えください。(MA)



Q30. 公的機関・医療機関を利用する際に不安なことをお答えください。(MA)



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# トラブルや病気への対処(日本での受診経験)

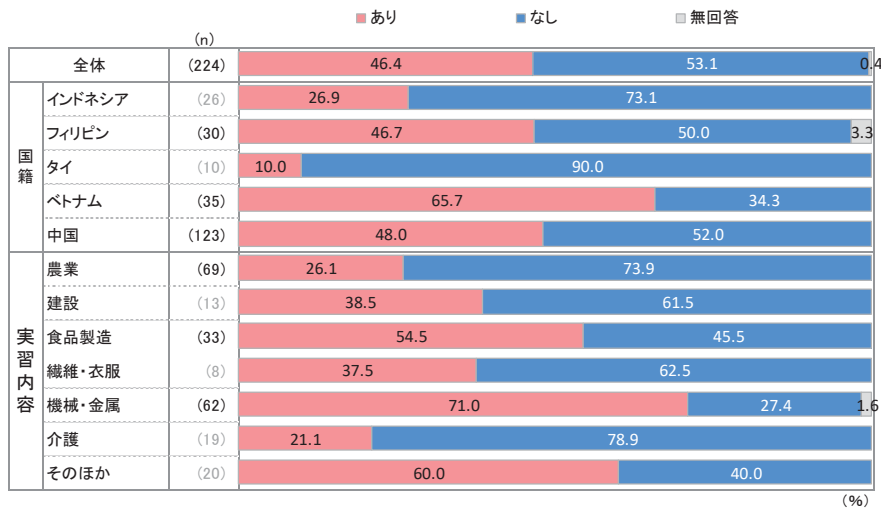
## ■ 日本での病院の受診経験

- 全体における受診経験者は46%。

## ■ 【経験者】受診した場所 / 【未経験者】受診していない理由

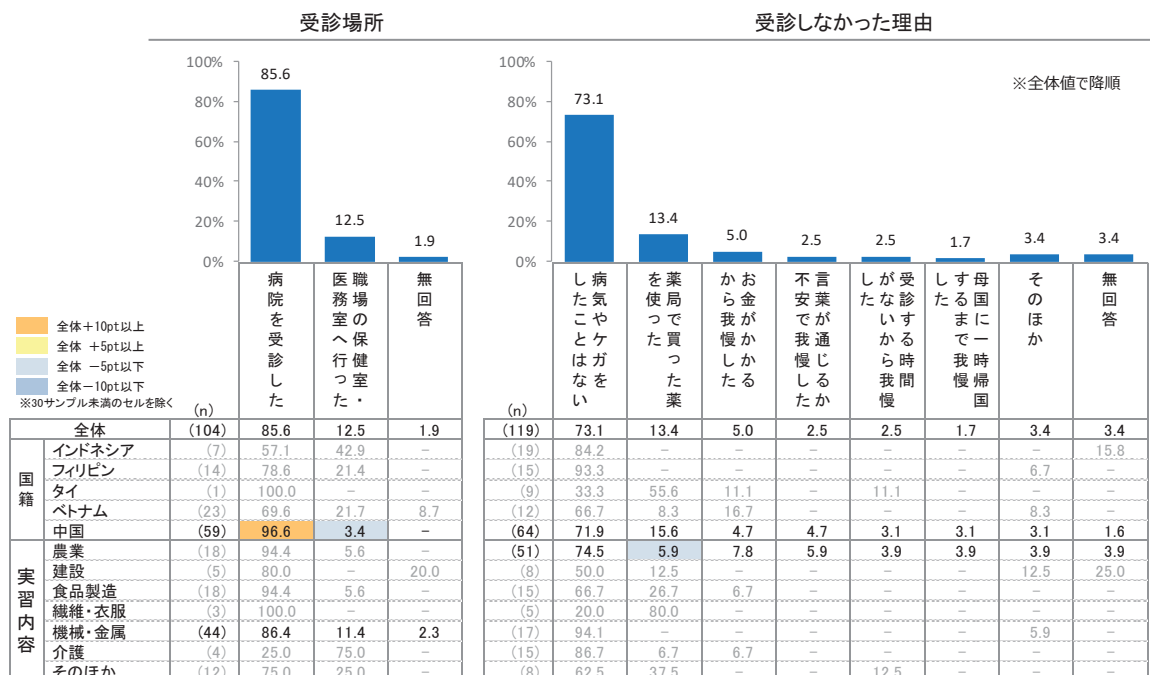
- 受診先では「病院」(86%)が多く、「職場の保健室・医務室」の利用経験者は13%。
- 非受診理由をみると、「病気やケガをしたことはない」(73%)以外では「薬局で買った薬を使った」(13%)、次いで「お金がかかるから我慢した」(5%)が多くあがる。

Q31. 日本で病院を受診したことはありますか。(SA)



Q31. 日本で病院を受診したことはありますか。／場所(MA) <受診経験「あり」と回答した者>

Q31. 日本で病院を受診したことはありますか。／しなかった理由(MA) <受診経験「なし」と回答した者>



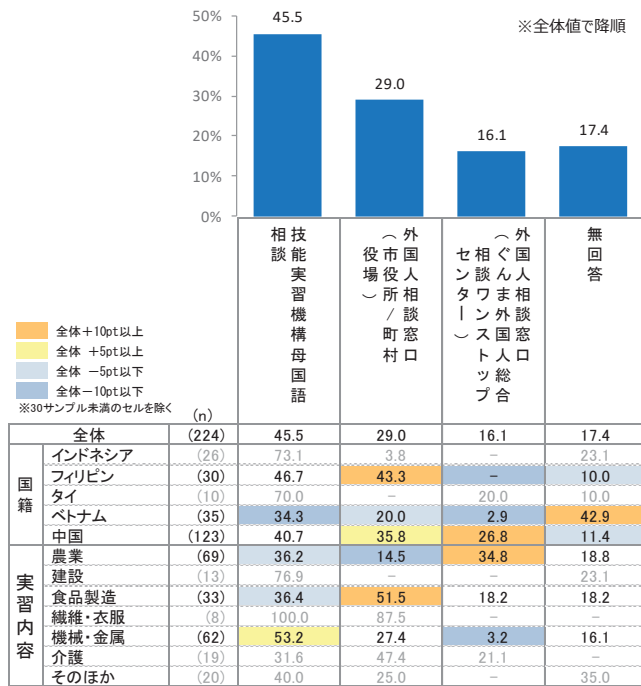
※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# トラブルや病気への対処(公的機関の認知)

## ■ 公的機関の認知

- 「技能実習機構母国語相談」が46%と最も高い。以下、「外国人相談窓口(市役所/町村役場)」(29%)、「外国人相談窓口(ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター)」(16%)の順。

Q32. 次の公的機関のうち知っているものをお答えください。(MA)



# 今後のキャリアについて(特定技能制度の認知/今後の希望)

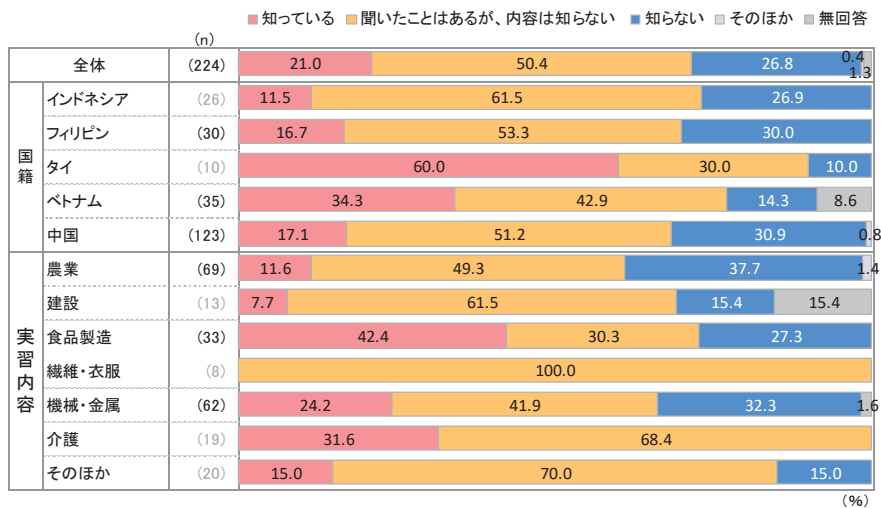
## ■「特定技能制度」の認知

- 「知っている」が21%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」は50%。両者を合わせると、特定技能制度の名称を認知している実習生は全体の71%。

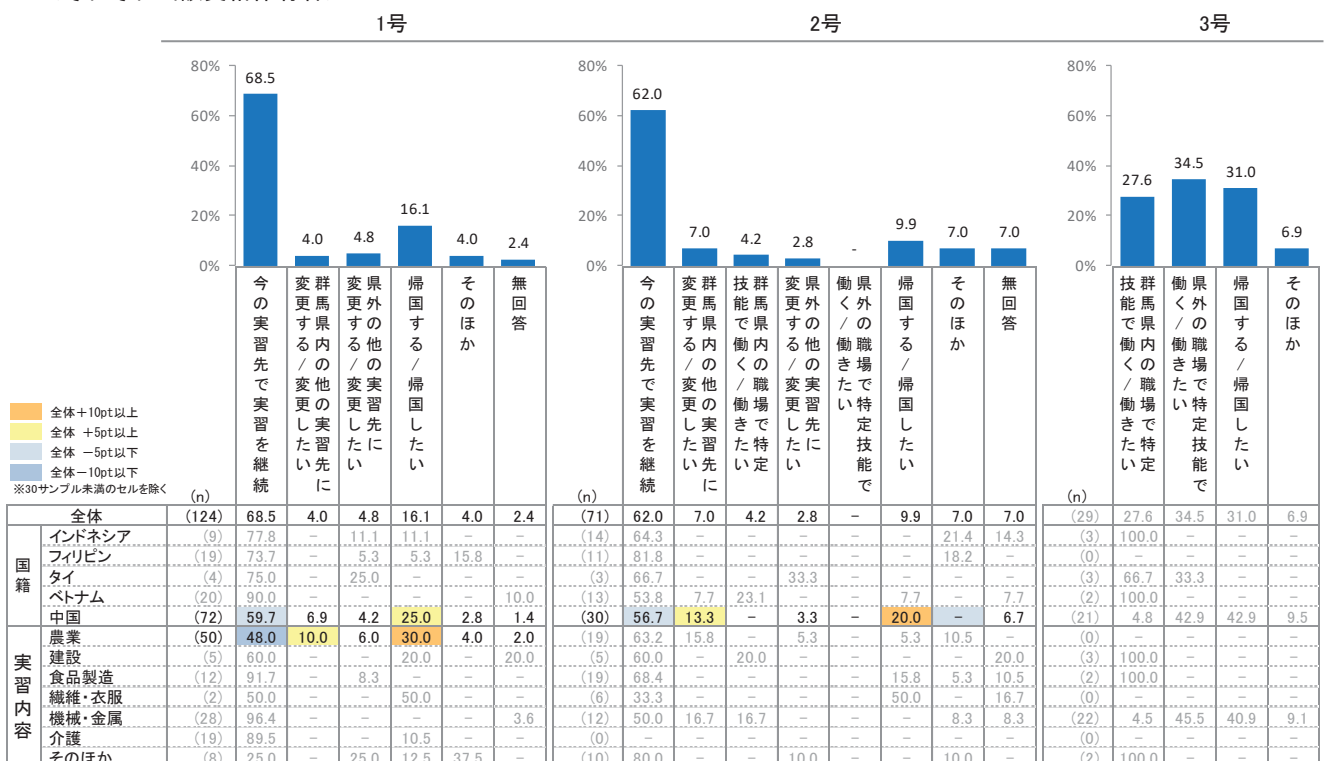
## ■ 今後のキャリアについての希望

- 実習生区分の1号、2号ではともに「今の実習先で実習を継続」が6割を超える。変更希望者、帰国希望者はそれぞれ1割前後。
- 3号は小サンプルのため参考値だが、「県外の職場で特定技能で働く/働きたい」(35%)、「帰国する/帰国したい」(31%)、「群馬県内の職場で特定技能で働く/働きたい」(28%)の順となっている。

Q33. 「特定技能制度」について知っていますか。(SA)



Q34. 今後のキャリアについてお伺いします。当てはまるものをお答えください。(各SA)  
 <それぞれ当該資格保有者>



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 今後のキャリアについて(希望する地域の選択理由)

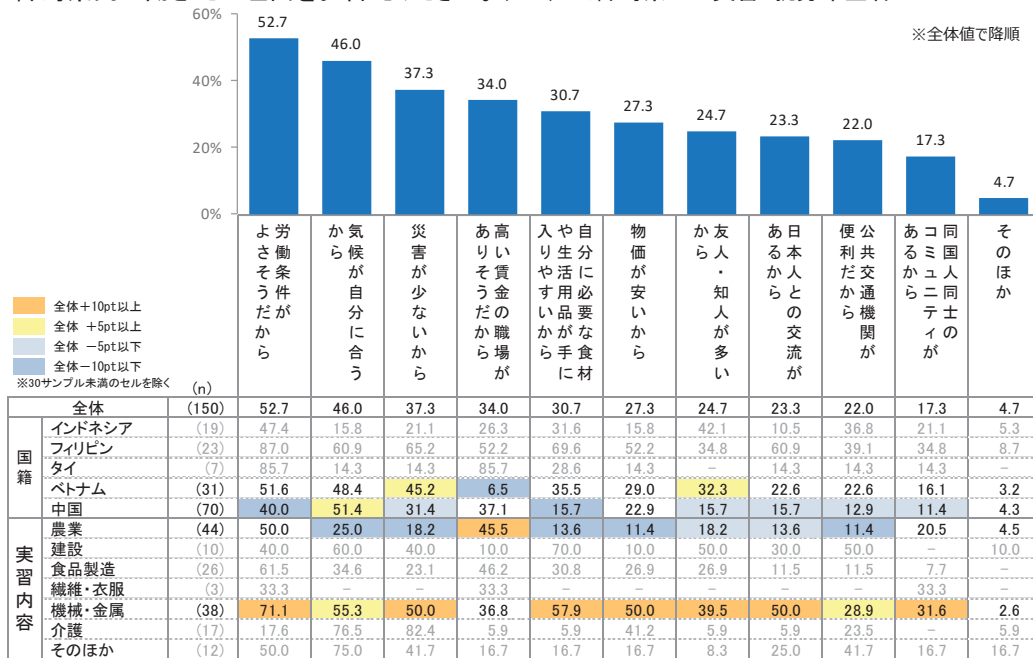
## ■ 群馬県で働きたい理由

- ・「労働条件がよさそうだから」が53%で最多。次いで「気候が自分に合うから」が46%。

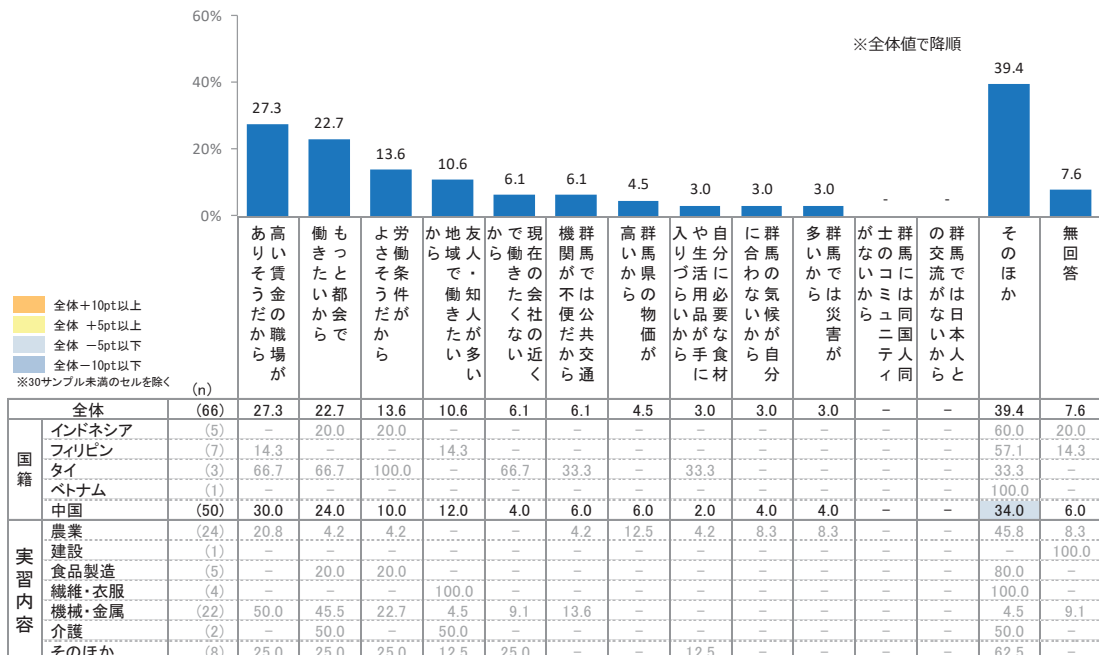
## ■ 群馬県以外で働きたい理由

- ・「そのほか」が4割と高いが、それ以外では「高い賃金の職場がありそうだから」(27%)、「もっと都会で働きたいから」(23%)が比較的多い。

Q35. 群馬県内で働きたい理由をお答えください。(MA) <群馬県での実習・就労希望者>



Q36. 群馬県外で働きたい理由をお答えください。(MA) <群馬県以外での実習・就労希望者>



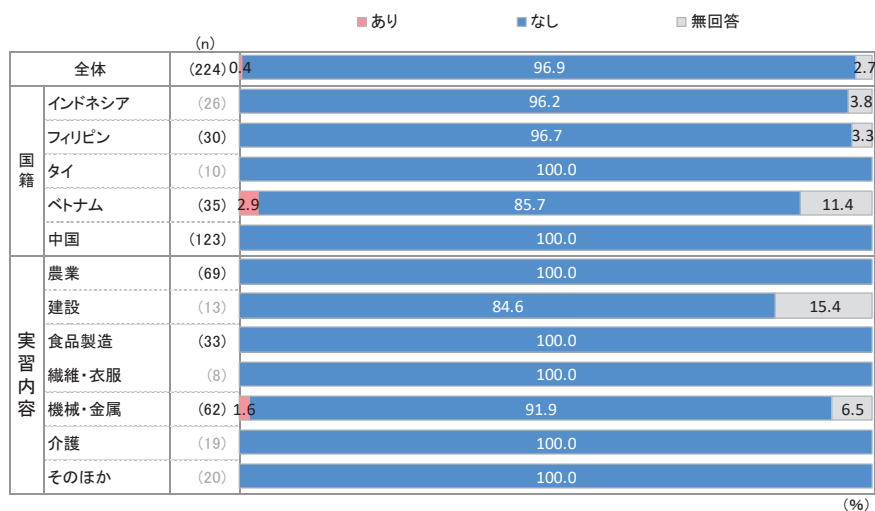
※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。

# 地域の魅力について(外国人コミュニティの有無)

## ■ 知っている・所属している外国人コミュニティの有無

- ・ 「なし」が97%を占める。

Q37-1. 群馬県内で知っている/所属している外国人コミュニティがありますか。(SA)



# 地域の魅力について(群馬県の名物)

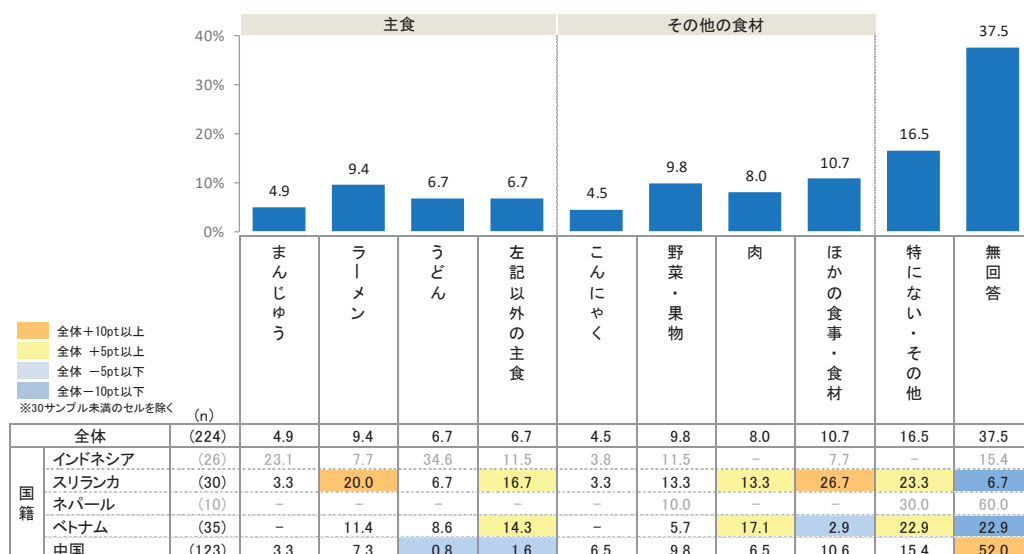
## ■ おすすめの群馬の食事・食材

- ・「ほかの食事・食材」(11%)、「野菜・果物」(10%)、「ラーメン」(9%)が比較的多い。

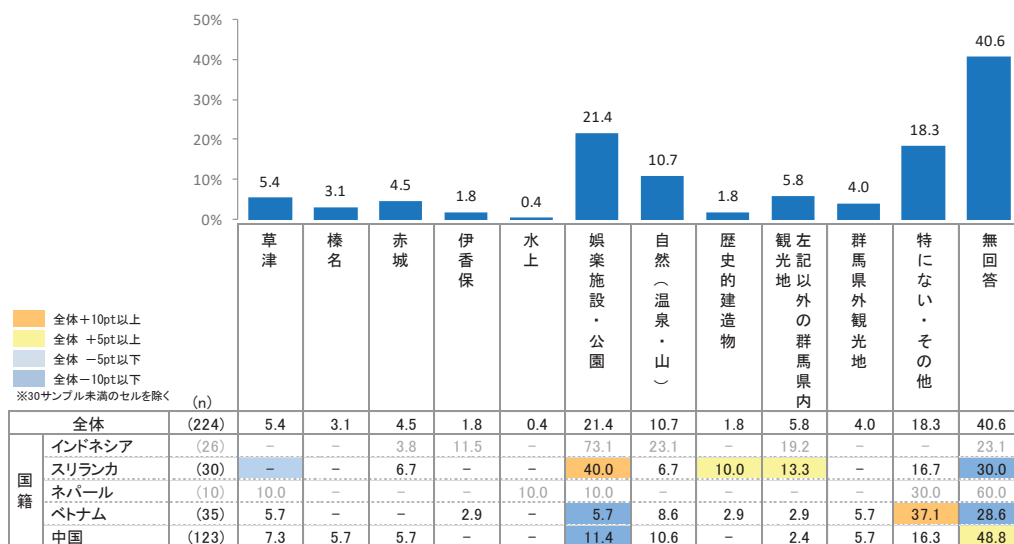
## ■ おすすめの群馬の観光地

- ・「娯楽施設・公園」(21%)、次いで「自然(温泉・山)」(11%)が多い。

Q38. おすすめの群馬の食事・食材をお答えください。




Q39. おすすめの群馬の観光地をお答えください。



※各設問ともに、30サンプル未満のセルは参考値のため文字色をグレーにしている。



# 受入企業に関する調査 結果詳細



# 基本情報(従業員規模／受入方式／受入業種)

## ■ 従業員規模

- ・「6～20人以下」が35%で最多。次いで「101～300人以下」が18%。

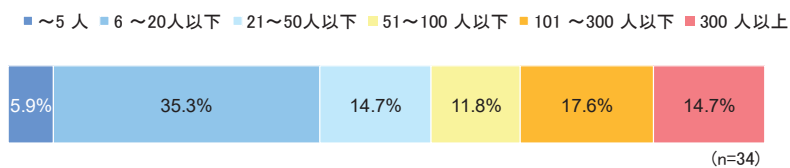
## ■ 実習生の受入方式

- ・「団体監理型」が94%を占める。

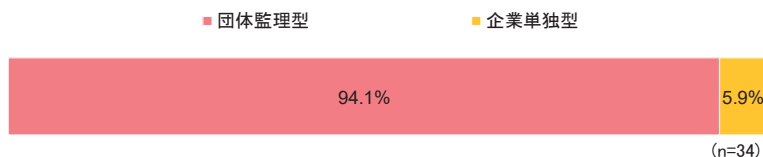
## ■ 現在の受入業種

- ・「農業」(24%)、「機械・金属」(21%)、「食品製造」(18%)が受け入れの多い業種の上位。

Q1. 全従業員規模をお答えください。(SA)

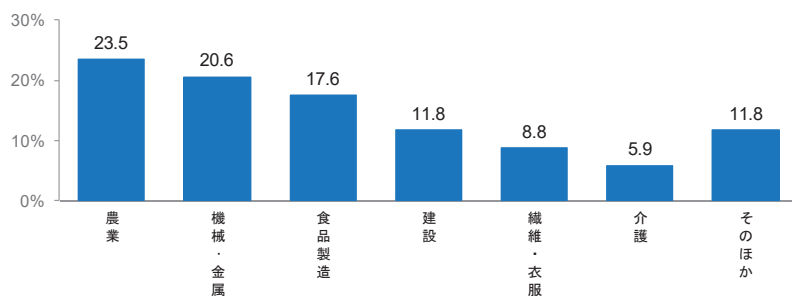


Q2. 実習生の受入方式をお答えください。(SA)



Q3. 現在の実習生の受入業種をお答えください。(SA)

(n=34)



# 基本情報(実習生数／出身国)

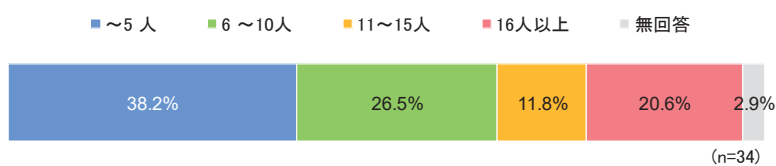
## ■ 現在の所属実習生数

- ・ 「～5人」が38%で最多。次いで「6～10人」が27%、「16人以上」が21%。

## ■ 実習生の出身国

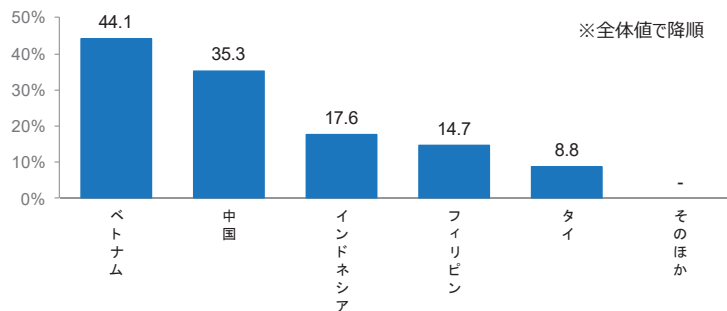
- ・ 「ベトナム」(44%)、次いで「中国」(35%)が多い。以下、「インドネシア」(18%)、「フィリピン」(15%)、「タイ」(9%)の順。

Q4. 現在の所属している実習生数をお答えください。(SA)



Q5. 現在の所属している実習生の出身国をお答えください。(MA)

(n=34)



# 実習生の労働環境(所定労働時間／勤務日／残業有無)

## ■ 所定労働時間(1週間あたり)

- ・ 「31～40時間」が82%を占める。そのほかでは「41～44時間」が18%。

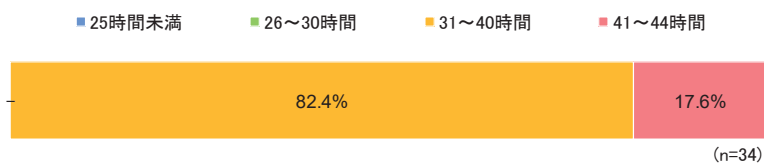
## ■ 勤務している曜日

- ・ 「月曜」から「金曜」はいずれも100%。「土曜」が44%、「日曜」は9%。

## ■ 残業の有無

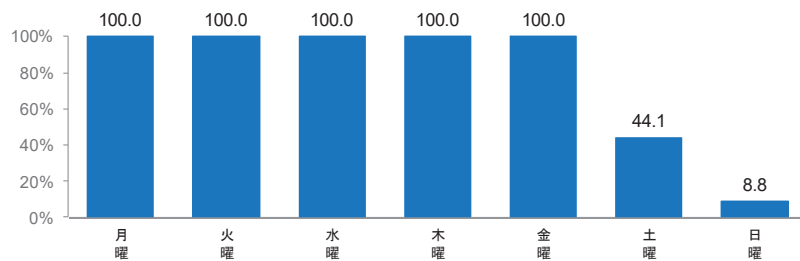
- ・ 「あり」が88%。

Q6. 実習生の1週間あたりの所定労働時間をお答えください。(SA)

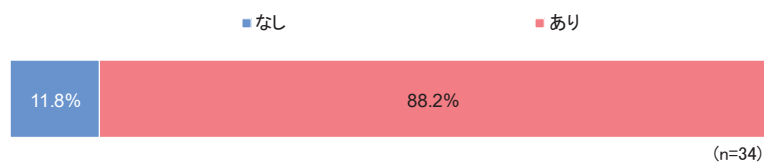


Q7. 実習生が勤務している曜日をお答えください。(MA)

(n=34)



Q8. 実習生の残業の有無をお答えください。(SA)



# 実習生の労働環境(支援内容／代わりに負担する経費)

## ■ 実施している支援内容

- ・「生活の相談に乗ってくれる職員を配置」「日本語学習の機会を提供」「日本文化を学ぶ機会を提供」が各5割以上で上位にあがる。

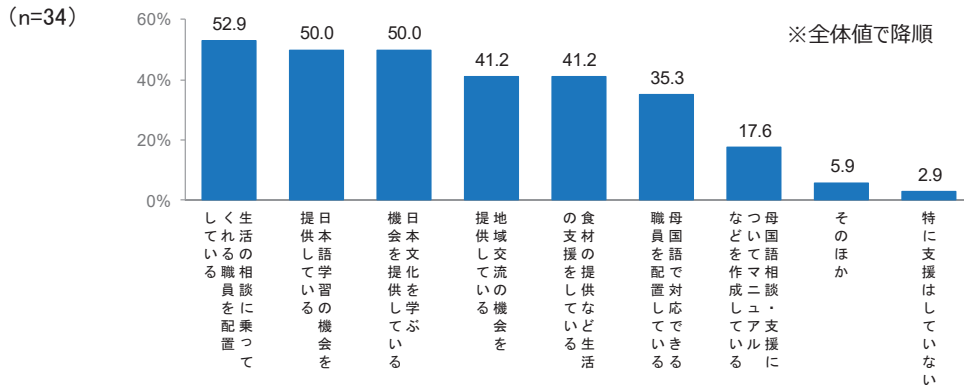
## ■ 実習生の代わりに負担する経費(返済不要なもの)

- ・「技能検定受検費用」(82%)、次いで「職務に関連する研修費用」(62%)が多い。以下、「光熱水費」「日本語学習費」(各27%)など。

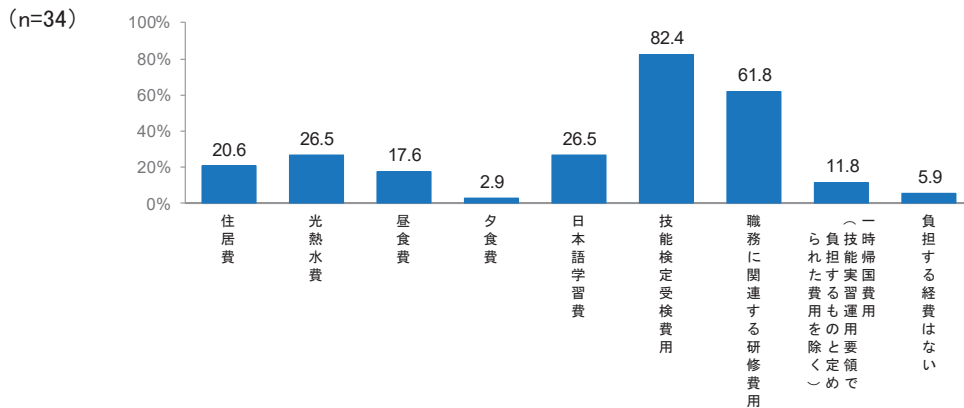
## ■ 実習生の代わりに負担する経費(返済が必要なもの)

- ・「光熱水費」(38%)、「住居費」(35%)が比較的多い。

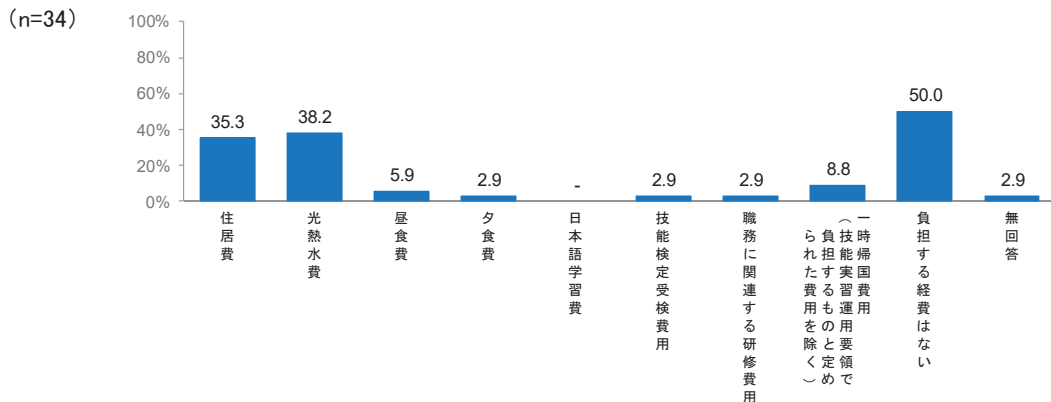
Q10. 貴社が実施する支援をお答えください。(MA)



Q11. 貴社が実習生に代わって負担する経費(返済不要)をお答えください。(MA)



Q12. 貴社が実習生に代わって負担する経費(返済要)をお答えください。(MA)



# 実習生の労働環境(コミュニケーションについて)

## ■ 主なコミュニケーション言語

- ・「日本語」が88%を占め、「実習生の母語(社員等が通訳)」は12%。

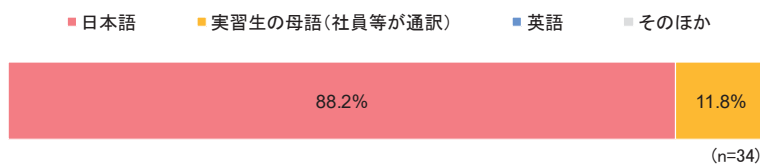
## ■ 実習生の日本語理解度

- ・「職場でのやりとり」が問題なくできているのは約8割で、残り2割程度は「わからないことが1日の中で何回もある」と回答。

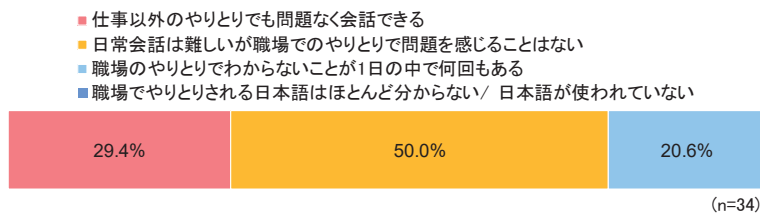
## ■ 日本語指導の有無

- ・「あり」が77%。

Q13. 実習生との主なコミュニケーション言語をお答えください。(SA)



Q14. 実習生の日本語理解度(平均)をお答えください。(SA)



Q15. 日本語指導の有無をお答えください。(SA)



# 実習生の労働環境／失踪者の有無

## ■ 実習期間中の一時帰国について

- ・「認めている」「申し出を受けたことがないが、申し出があったら認める」が各47%で、9割以上の企業が一時帰国を認める方針。

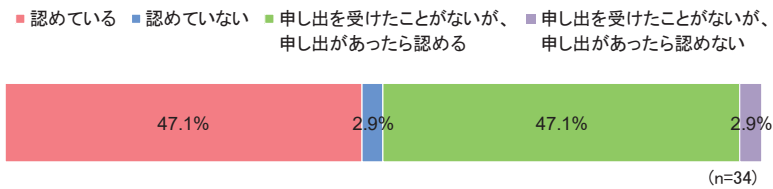
## ■ 帰国後のやりとりについて

- ・「帰国後のやりとりはない」が44%で最多。以下、「概ね半分以上の実習生と帰国後も連絡を取り合っている」(29%)、「ほとんどの実習生と帰国後も連絡を取り合っている」(18%)の順。

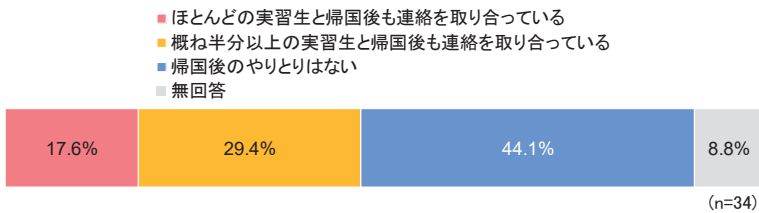
## ■ 失踪者の有無

- ・「あり」は24%。

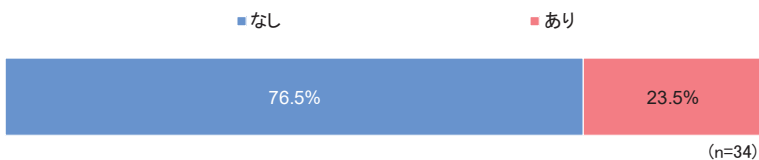
Q16. 実習期間中の一時帰国(自己都合の帰国)について、お答えください。(SA)



Q17. 帰国後のやりとりについて、お答えください。(SA)



Q27. 失踪者の有無をお答えください。(SA)



# 採用意向

## ■ 実習生の採用意向

- ・「維持」が62%。「拡大」は38%。

## ■ 特定技能の採用意向

- ・「自社実習生を特定技能で採用」が53%で最多。次いで「自社で働いていた実習生（帰国済）を特定技能で採用」が47%。

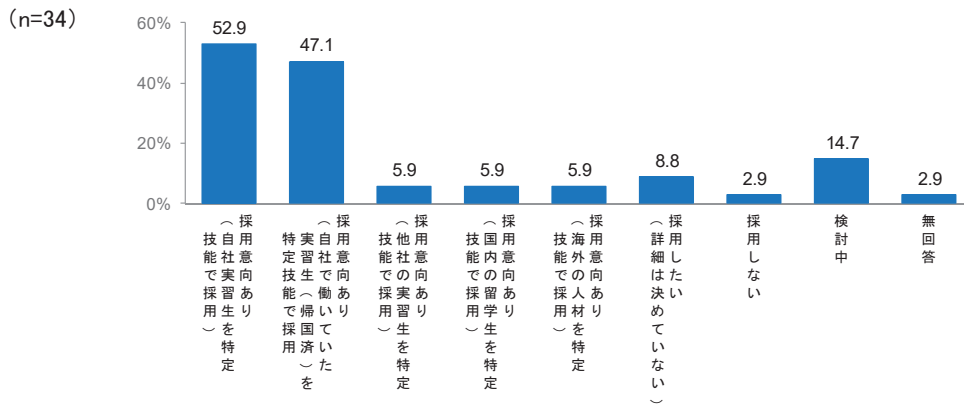
## ■ 実習生・特定技能の特定国からの採用意向

- ・「ベトナム」が38%と最も高く、以下、「中国」(25%)、「フィリピン」「インドネシア」(各16%)と続く。

Q29. 今後の実習生採用の意向について、お答えください。(SA)

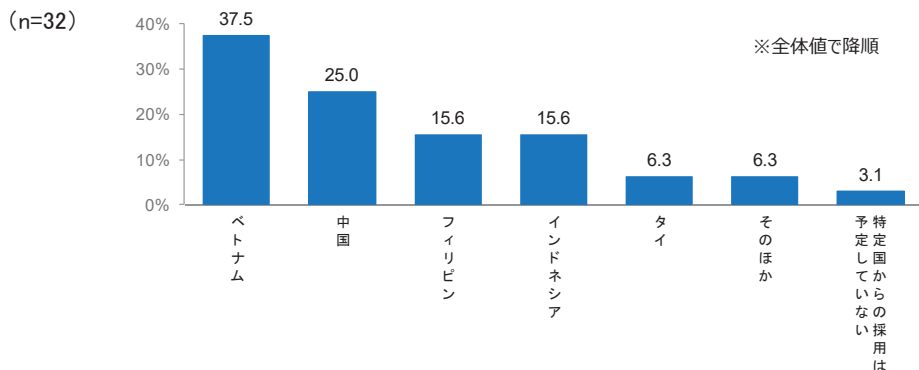


Q30. 特定技能の採用意向について、お答えください。(MA)



Q31. 実習生・特定技能の特定国からの採用予定について、お答えください。(MA)

<「採用意向あり」または「検討中」と回答した企業>





# 監理団体に関する調査 結果詳細



# 基本情報(職種／受入人数／受入国)

## ■ 技能実習の職種

- ・ 「機械・金属」が44%で最多。次いで「農業」「食品製造」が各38%。

## ■ 技能実習生の受入人数(年間平均)

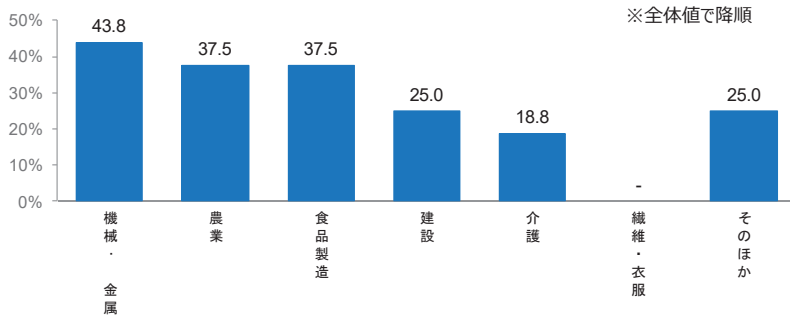
- ・ 「11～50人」「51～100人」(各38%)が多い。

## ■ 受入人数の多い国

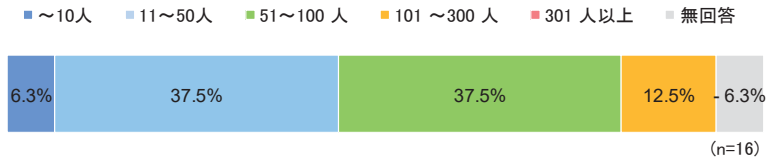
- ・ 「ベトナム」「中国」からの受入が各5割以上と高い。以下、「インドネシア」(25%)、「フィリピン」「タイ」「カンボジア」(各19%)、「モンゴル」(6%)の順。

Q1. 技能実習の職種についてお答えください。(MA)

(n=16)

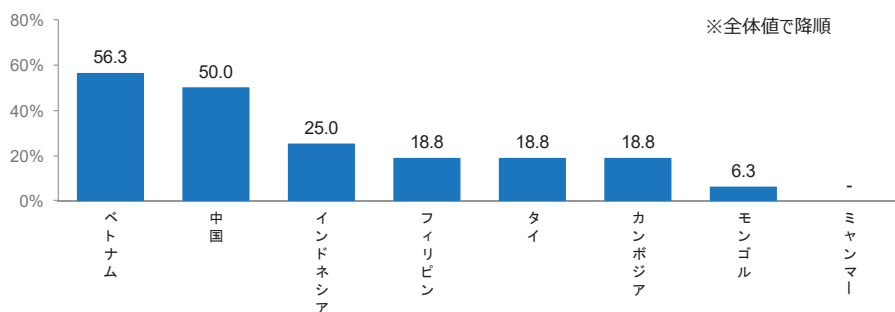


Q2. 現在、貴団体では平均で年間に何人の技能実習生を受入れていますか。(SA)



Q3. 受入人数の多い国をお答えください。(MA)

(n=16)



# 受入先企業とのマッチング状況

## ■ 企業における実習生受入傾向

- ・ 「増加」が69%を占め、そのほかは「横ばい」(31%)。

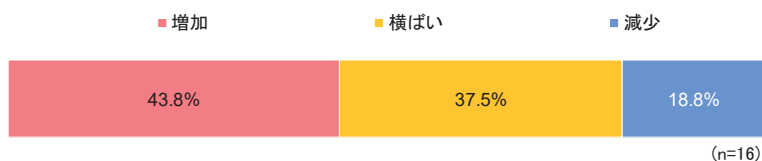
## ■ 企業における実習生候補人材の動向

- ・ 「増加」は44%。そのほかは「横ばい」が38%、「減少」が19%。

Q4. 受入先企業における外国人技能実習生の受入について、最近の傾向を教えてください。(SA)



Q5. 受入れ企業における実習生候補となる人材数の動向について、最近の傾向を教えてください。(SA)



# 送出国での活動(契約締結・面接の状況／送出国の動向)

## ■ 契約締結をしている送出国

- ・ 「ベトナム」(69%)、次いで「中国」(50%)が多い。以下、「インドネシア」(25%)など。

## ■ 実習生候補者との面接実施状況

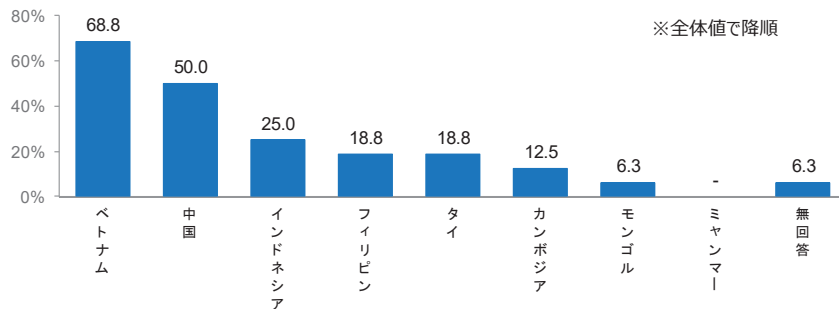
- ・ 「監理団体と受入企業で現地で面接」が88%で最多。次いで「現地にて監理団体の職員が対面での面接を実施」が50%。

## ■ 送出国の動向

- ・ 【積極的姿勢】では「ベトナム」(50%)、次いで「中国」(38%)が多くあがる。

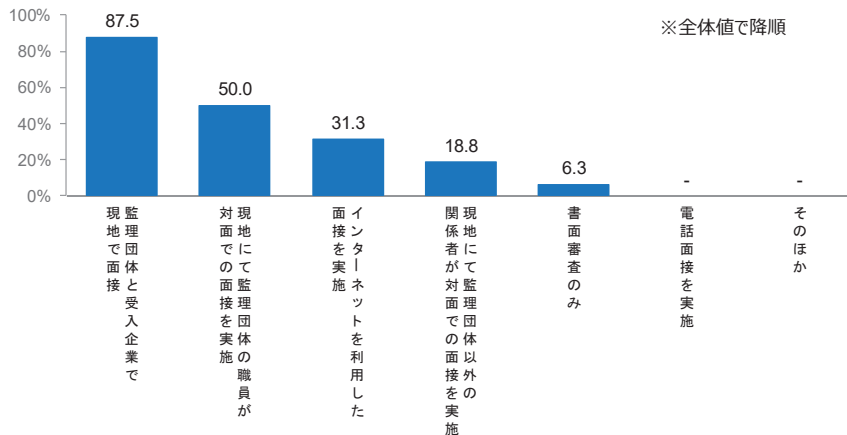
Q9. 貴団体が契約締結をしている送出国を全てお答えください。(MA)

(n=16)



Q10. 外国人技能実習生候補者との面接実施状況についてお答えください。(MA)

(n=16)



Q11. 外国人技能実習制度に対する「送り出し国政府」の動向について、当てはまる国名をお答えください。(各MA)

		(%)									
		n=	ベトナム	フィリピン	タイ	中国	カンボジア	モンゴル	インドネシア	ミャンマー	無回答
送出し	積極的姿勢	16	50.0	6.3	-	37.5	6.3	6.3	18.8	-	18.8
	消極的姿勢	16	6.3	6.3	-	6.3	-	-	-	6.3	81.3
	規制がゆるやか	16	12.5	-	-	12.5	-	-	18.8	-	68.8
	規制が厳しい	16	12.5	25.0	6.3	6.3	-	6.3	-	-	56.3
法律・ ルール改正	頻回に起こる	16	6.3	18.8	-	-	-	6.3	-	-	75.0
	安定的に運用されている	16	18.8	-	-	18.8	-	-	6.3	-	68.8

# 実習環境及び支援状況(支援内容／入国後講習について)

## ■ 実施している支援

- ・ 「地域社会との交流を行う機会を提供する受入企業に対する支援」が63%で最多。

## ■ 入国後講習で実施していること

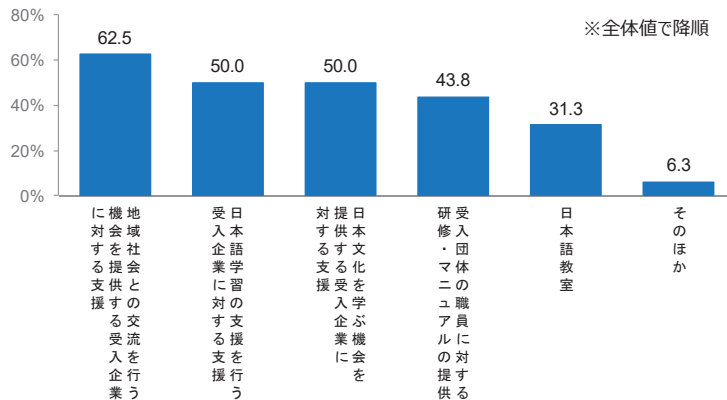
- ・ 「日本での生活ルールに関する講習」「日本語講習」はほぼ全団体が実施。以下、「従事技能に関する講習」(81%)、「技能実習制度に関する講習」(69%)など。

## ■ 入国後講習の実施期間

- ・ 「2ヶ月間未満」が100%。

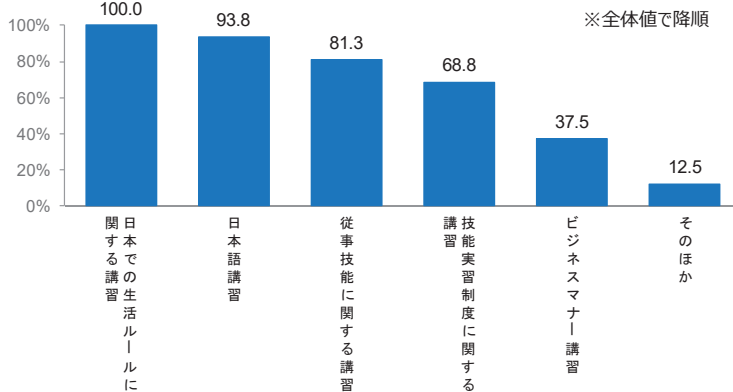
Q13. 貴団体が現在実施している支援についてお答えください。(MA)

(n=16)



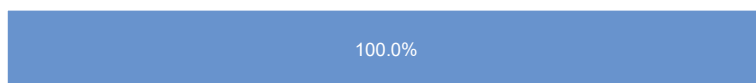
Q14. 外国人技能実習生に対する入国後講習で実施しているものをお答えください。(MA)

(n=16)



Q15. 外国人技能実習生に対する入国後講習の実施期間についてお答えください。(SA)

■ 2ヶ月間未満 ■ 2ヶ月間程度 ■ 3ヶ月間程度 ■ 4ヶ月間程度 ■ 5ヶ月間以上



(n=16)

# 実習環境及び支援状況(帰国後の状況把握・フォローについて)

## ■ 実習生が帰国した後の就職斡旋の実施

- ・「行っている」は19%。

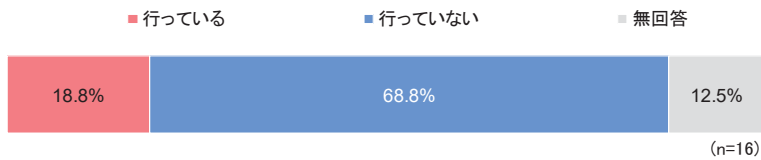
## ■ 就職状況の把握・フォローアップ調査への協力状況

- ・「ほとんどの実習生の帰国後の状況を把握し、フォローアップ調査に協力している」が50%で最多。

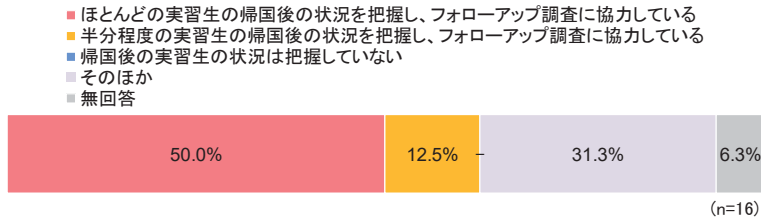
## ■ 実習生が帰国した後の就職支援の実施

- ・「実施している」は13%。

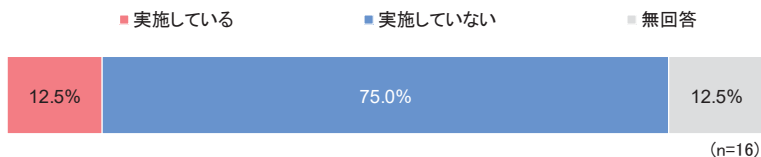
Q16. 貴団体では帰国後の外国人技能実習生に対して、母国の就職斡旋を行っていますか。(SA)



Q17. 帰国した技能実習生に関する就職状況の把握・フォローアップ調査への協力状況をお答えください。(SA)



Q18. 貴団体では帰国後の外国人技能実習生に対して、母国の就職支援を行っていますか。(SA)



# トラブル等への対応状況(実習生からの相談状況)

## ■ 実習生からの相談内容

- ・「実習先の人間関係に関すること」(56%)、「健康・医療に関すること」(50%)が上位。以下、「労働条件に関すること」(31%)、「言語の問題に関すること」(25%)など。

## ■ 実習生1人あたりの相談頻度

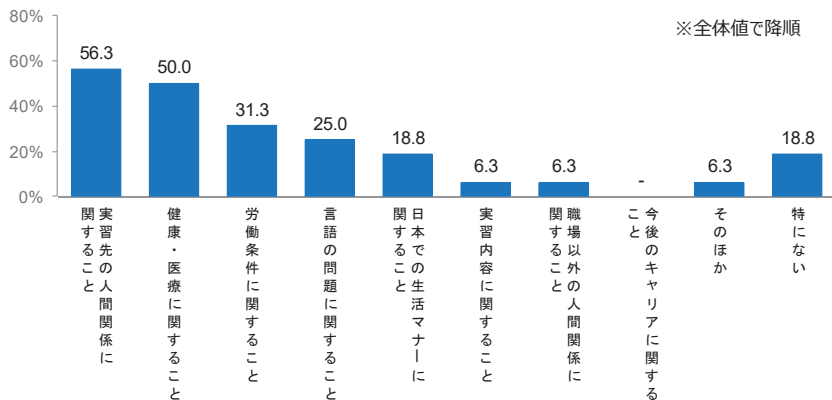
- ・「年に1、2回程度」(31%)、次いで「月に1、2回程度」(25%)が多い。

## ■ 相談の際に対応している言語

- ・「複数の言語に対応している」が75%。

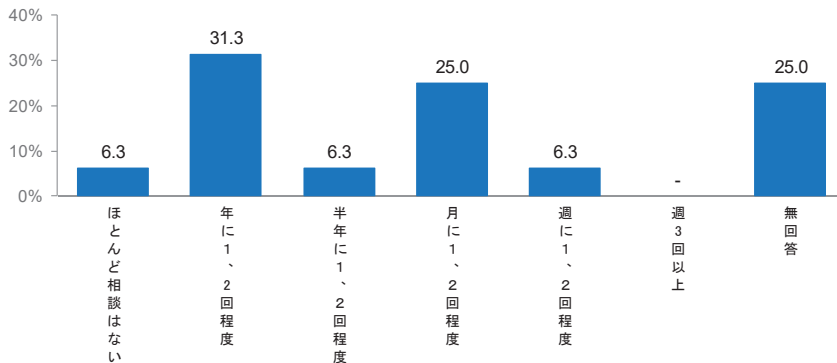
Q22. 外国人技能実習生からの相談内容について、どのような相談が多いですか。(MA)

(n=16)



Q23. 外国人技能実習生1人あたりの相談頻度についてお答えください。(SA)

(n=16)



Q24. 外国人技能実習生からの相談の際、対応されている主な言語をお答えください。(SA)

■ 複数の言語に対応している ■ 英語での対応をしている ■ 日本語でのみ対応している ■ 無回答



(n=16)

# トラブル等への対応状況(実習生の失踪について)

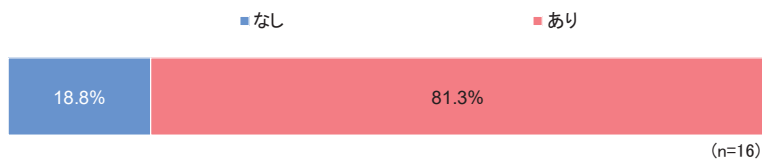
## ■ 失踪者の有無

- ・ 「あり」が81%。

## ■ 受入当初から現在までの失踪者数

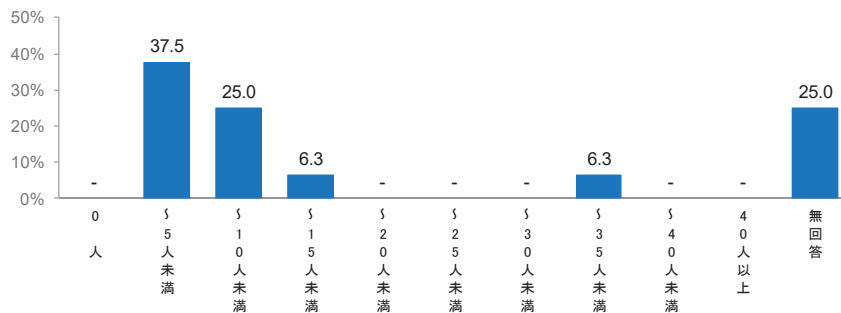
- ・ 「1~5人未満」が38%で最多。次いで「5人~10人未満」が25%。

Q25. 【失踪有無】貴団体に受け入れた外国人技能実習生の失踪者の有無についてお伺いします。(SA)



Q25. 【失踪人数】受け入れ当初から現在までの失踪者数をお答えください。

(n=16)



Q25. 【主な失踪理由】

理由	件数
送り出し機関に問題あり	1件
高時給という誘いを受けて失踪する。帰国直前なので、もっと日本に残りたいから。	1件
同居実習生とのケンカ、会社での”盗み”が発覚	1件
友達から誘われた	1件
不明	3件
その他	2件
無回答	4件



# 外国人材受入制度について(周知等の活動状況と今後の予定)

## ■ 特定技能の雇用に関わる登録支援機関としての活動予定

- ・「予定している」が63%。 ※予定時期はグラフ下の表を参照

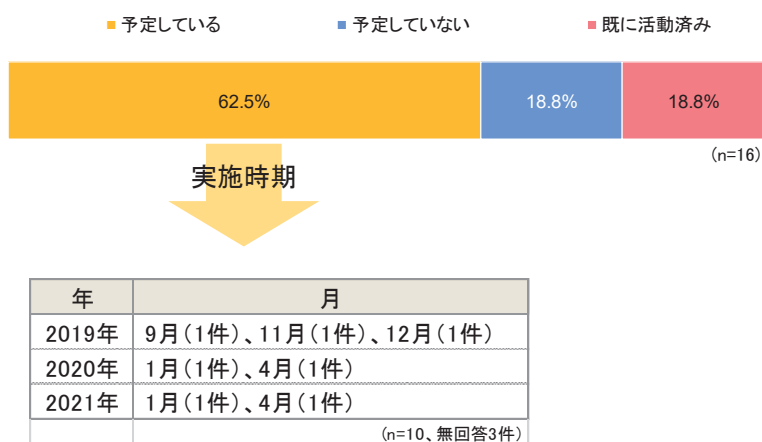
## ■ 特定技能制度に関する周知活動について

- ・「行っている」「行っていない」が各50%。

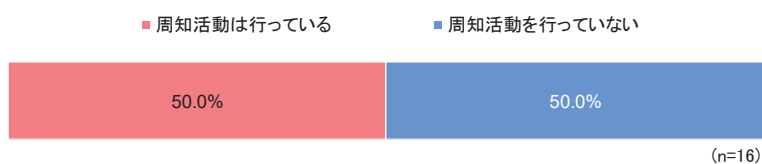
## ■ 【周知実施団体】特定技能制度の周知先

- ・「実習生・企業の双方に対して実施」が75%。
- ・「企業にのみ実施」が12.5%。

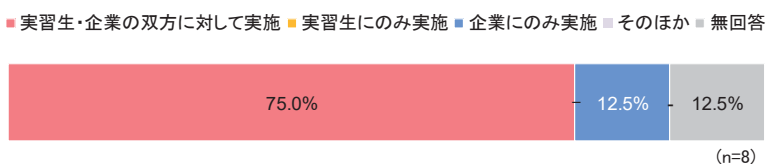
Q27. 貴団体では今後、特定技能の雇用に関わる登録支援機関としての活動を予定していますか。(SA)



Q28-1. 貴団体では、特定技能制度に関する周知活動を行っていますか。(SA)



Q28-2. 「周知活動を行っている」と回答した方にお尋ねします。周知先についてお答えください。(SA)  
 <「周知活動を行っている」と回答した団体>

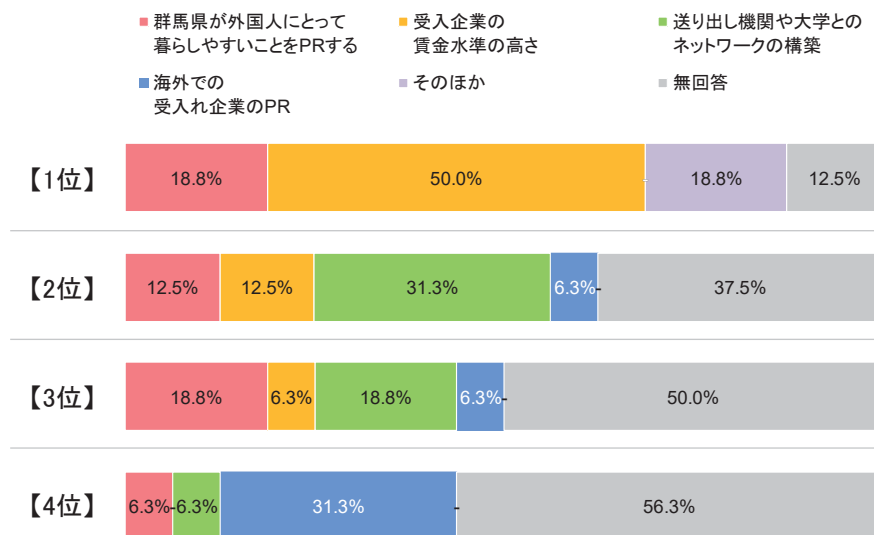


# 群馬県で働いてもらうために重要なこと

## ■ 外国人材に群馬県で働いてもらうために重要なこと

- 1位で最も多いのは「受入企業の賃金水準の高さ」(50%)。
- 2～3位では「送り出し機関や大学とのネットワークの構築」、4位では「海外での受入れ企業のPR」が比較的多くあがる。

Q29. 多くの外国人材に群馬県で働いてもらうために、最も重要な事柄を順に選んでください。(各SA)



(n=16)